

入門ガイド

ANDES *series*
Vector Master

ご注意

1. このソフトウェアの著作権は、株式会社システムズナカシマにあります。
2. このソフトウェアおよびガイドの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
3. このソフトウェアは、コンピュータ 1 台につき 1 セット購入が原則になっています。
4. このガイドに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
5. このソフトウェアおよびガイドは、本製品に同封のソフトウェア使用許諾書に基づき、個人で使用する以外は弊社の承諾なしに無断で使用することはできません。
6. このソフトウェアおよびガイドを運用した結果の影響については、責任を負いかねますのでご了承ください。
7. このソフトウェアの仕様は、将来予告なしに変更することがあります。
8. 製品の内容については万全を期しておりますが、製品の内容についてのご不審な点や、誤り、ガイドの記載もれなどお気づきのことがありましたら、弊社までご連絡ください。



基礎知識編

1. マウスについて	2
マウスのボタン	2
マウスの操作	3
カーソルの形状	3
2. ウィンドウについて	4
構成要素とその機能	5
3. 入力の種類	7
4. Vector Master の画面構成	8
1. アプリケーションボタン	9
2. クイックアクセスツールバー	9
3. リボンバー	10
構成要素とその機能	10
4. ユーザーツールバー	11
5. インフォメーションバー	12
構成要素とその機能	12
6. ステータスバー	13
構成要素とその機能	14
7. ショートカットバー	15
8. サイドバー	16
構成要素とその機能	17
5. 縮尺・用紙サイズとレイヤについて	18
縮尺について	18
用紙サイズについて	18
レイヤについて	19
6. ショートカットメニュー	20
7. 要素検索モード	21
8. ポイント検索モード	22
9. キー割り付け一覧表	24

2

基本編

1. 起動と終了	26
Vector Master を起動する	26
Vector Master を終了する	28
2. 保存図面を開く	29
3. 画面操作	32
4. 拡大・縮小	33
拡大する	33
用紙枠に戻す	36
5. 用紙・縮尺の設定	37
6. レイヤ設定	39
入力するレイヤを指定する	39
レイヤごとに検索/非検索、表示/非表示を切替える	41
7. 作業を取り消す	44
元に戻す	44
やり直し	45

3

PDF 編

1. PDF の種類について	48
ラスタ PDF について	48
ベクタ PDF について	48
ラスタ PDF とベクタ PDF の違いについて	48
文字のあつかいについて	48
セキュリティについて	48
2. PDF を開く	49
複数ページの PDF を開く	52
ドラッグ&ドロップで PDF を開く	55
3. PDF を他の形式に保存する	56
AutoCAD の形式に保存する	58
JWCAD の形式に保存する	60
SXF の形式に保存する	61
4. PDF を他の形式に一括保存する	62
5. ドラッグ&ドロップで他の形式に保存する	67
6. ラスタデータをベクタデータに変換する	71
ラスベク変換を起動させる	71
ラスベク変換の設定を変更する	72
7. PDF の変換設定について	73
読み込みの設定について	73
構成要素とその機能	74
8. AutoCAD の保存設定について	76
保存時の設定について	76
構成要素とその機能	77
9. AutoCAD の変換設定について	78
構成要素とその機能	79
10. JWCAD の変換設定について	80
構成要素とその機能	81
11. SXF の変換設定について	82
構成要素とその機能	83

4

作 図 編

1. 保存図面を開く	86
2. 線を描く	89
単線を描く	89
コマンドを終了する	92
決まった長さの単線を描く	93
水平な線を描く	97
連続線を描く	100
3. 四角形を描く	103
4. 異なる線で描く	106
ペン種・線種・線幅・透過の設定を元に戻す	108
5. 円を描く	110
レイヤシートを切替える	110
円を描く	112
決まった半径の円を描く	115
円弧を描く	117
6. 文字を配置する	121
文字を配置する	121
大きさを変えて文字を配置する	123
7. 寸法線を記入する	125
単一寸法線を記入する	125
直径寸法線を記入する	128
半径寸法線を記入する	130
8. イメージを配置する	132
レイヤシートを切替える	132
イメージをファイルから読み込み、図面上に配置する	134
イメージをスキャナから読み込み、図面上に配置する	137
9. 長さを測る	140
レイヤシートを切替える	140
長さを測る	141

5

編集編

1. 保存図面を開く	144
2. 要素を移動する	147
3. 要素を複製する	150
4. 要素の線を変更する	153
複数の要素の線を一括で変更する場合	155
5. 要素の2点間を切断する	157
6. 要素を消去する	160
まとめて消去する	162
7. PDF の用紙の向きを変更する	163
PDF を開く	163
読込んだ PDF の用紙の向きを左に回転する	165



基礎 知識編

●● この章の内容 ●●

- 1. マウスについて..... 2
 - マウスのボタン 2
 - マウスの操作 3
 - カーソルの形状 3
- 2. ウィンドウについて..... 4
 - 構成要素とその機能..... 5
- 3. 入力の種類..... 7
- 4. Vector Master 画面構成..... 8
 - 1. アプリケーションボタン..... 9
 - 2. クイックアクセスツールバー..... 9
 - 3. リボンバー 10
 - 構成要素とその機能..... 10
 - 4. ユーザーツールバー..... 11
 - 5. インフォメーションバー..... 12
 - 構成要素とその機能..... 12
 - 6. ステータスバー 13
 - 構成要素とその機能..... 14
 - 7. ショートカットバー..... 15
 - 8. サイドバー 16
 - 構成要素とその機能..... 17
- 5. 縮尺・用紙サイズとレイヤについて... 18
 - 縮尺について 18
 - 用紙サイズについて..... 18
 - レイヤについて 19
- 6. ショートカットメニュー 20
- 7. 要素検索モード..... 21
- 8. ポイント検索モード..... 22
- 9. キー割り付け一覧表 24

1

マウスについて

操作の基本になるマウス操作を覚えましょう



まずはマウスやカーソルについて覚えましょう。

マウスのボタン

スクロールボタン

主に画面の拡大,縮小,移動する時に
使用します。(付いていないタイプ
もあります)

左ボタン

主に決定や選択をする時に
押さえます。“クリック”と
表記しています。)

右ボタン

主にキャンセルをする時に
押さえます。“右クリック”
と表記しています。)

マウスの操作

クリックとは？

左ボタンを押すことです。

右クリックとは？

右ボタンを押すことです。

ダブルクリックとは？

左ボタンを素早く2回押すことです。ソフトを起動する時などに使用します。

ドラッグとは？

左ボタンを押さえたままマウスを移動し、ボタンを離すことです。領域を指定して複数の要素を選択する時などに使用します。

カーソルの形状



マウスの動きに連動し、画面の中で動く矢印をカーソルといいます。カーソルの形状は、表示される位置と操作の状態により変化します。



通常のカーソル



ウィンドウの境界線のカーソル



注釈記入のカーソル



プログラムの処理中に現れるカーソル



作図画面のカーソル

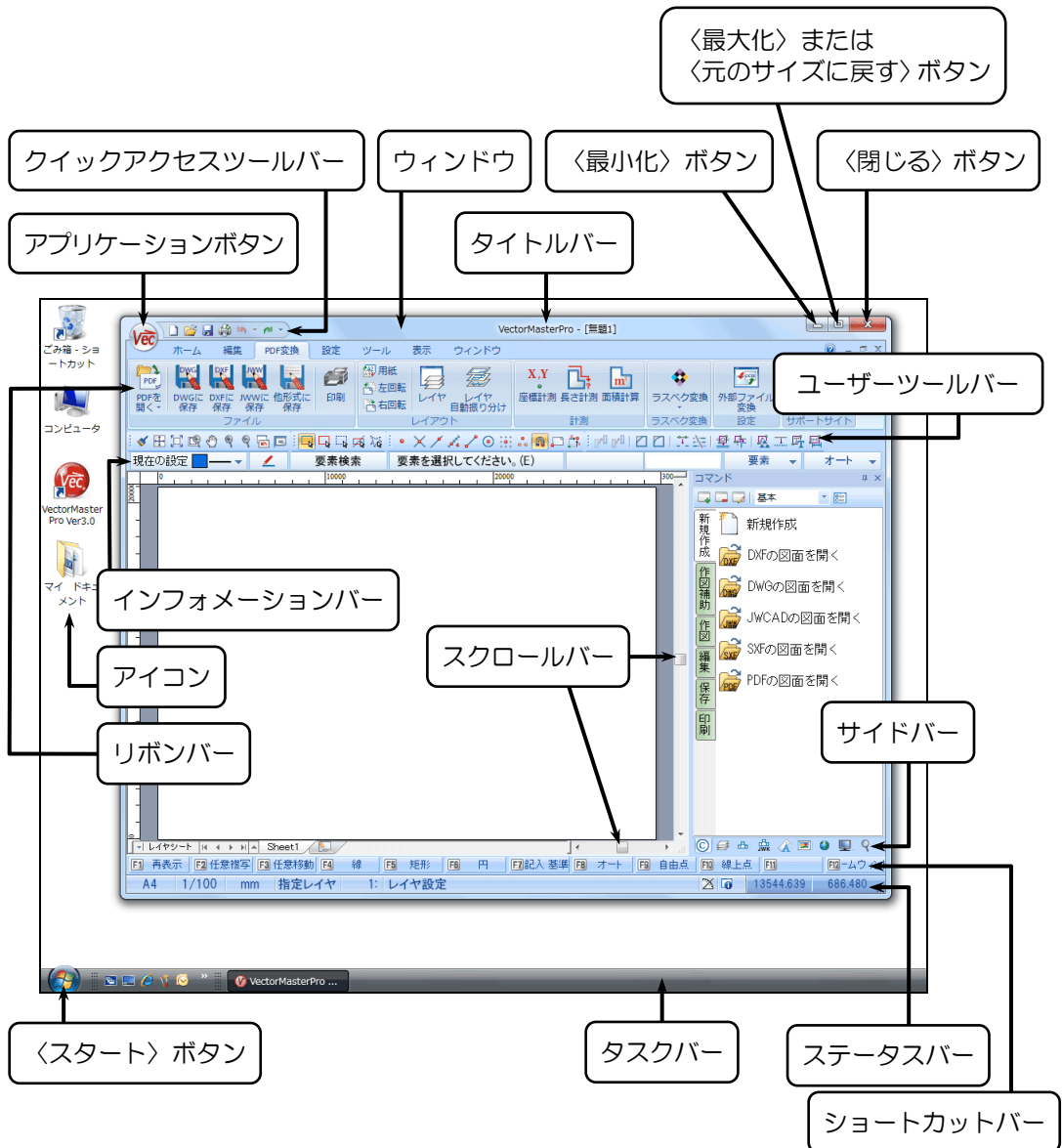
2

ウィンドウについて



ウィンドウの画面構成と機能について覚えましょう



すべての処理は、ウィンドウの中で行われます。
これらのウィンドウは、一時的に使用しない場合、
タスクバーのボタンにすることができ、必要に応じて
クリックしていつでも元に戻すことができます。



構成要素とその機能

- アプリケーションボタン..... ウィンドウの左上にあり、クリックすると基本的なコマンド（新規作成・開く・保存・印刷）が表示されます。
- クイックアクセスツールバー..... 登録されているコマンドのツールアイコンが表示されます。よく使うコマンドを登録して素早くアクセスすることができます。
- タイトルバー..... ウィンドウの最上部にあり、ウィンドウ名が表示されます。ウィンドウを移動するには、このタイトルバーをドラッグします。
- 〈最小化〉ボタン..... クリックすると、ウィンドウが最小化され、タスクバーのボタンになります。
- 〈最大化〉ボタン..... クリックすると、ウィンドウが最大化され、画面全体に表示されます。
- 〈元のサイズに戻す〉ボタン..... クリックすると、ウィンドウが元のサイズに戻ります。このボタンは、ウィンドウが最大化されている場合、表示されます。
- 〈閉じる〉ボタン..... クリックすると、ウィンドウが閉じます。プログラムが起動している場合、プログラムを終了してウィンドウを閉じます。
- リボンバー..... コマンドが登録されているメニューを表示します。[タブ] をクリックすることで、リボンバーを切替えることができます。
- ユーザーツールバー..... コマンドのアイコンボタンが表示されます。アイコンボタンをクリックすると、各コマンドが実行されます。
- インフォメーションバー..... 各コマンドの設定や情報表示などを行うバーが表示されます。
- スクロールバー..... ウィンドウの中に情報が入りきらない場合、ウィンドウ右端や下端に表示されます。ウィンドウに表示されていない情報を見るには、スクロールバーをドラッグするか、 ボタンまたは  ボタンをクリックします。
- ステータスバー..... 情報が表示されます。
- ショートカットバー..... 【ショートカットキー】でファンクションキーに登録されているコマンドが表示されます。
- サイドバー..... さまざまな機能をもったバーが表示されます。タブをクリックするとバーの表示を切替えることができます。

- アイコン プログラムやフォルダーを表します。ダブルクリックまたはクリックし、プログラムを起動したり、フォルダーを開いたりします。
- 〈スタート〉ボタン クリックすると、Windows のスタートメニューが表示されます。メニューを選択し、プログラムを起動したり、Windows を終了したりします。
- タスクバー プログラムを起動したり、ウィンドウを開いたりすると、ボタンがタスクバーに表示されます。クリックすると、ウィンドウを切替ることができます。ウィンドウを閉じると、対応するボタンも消えます。

3

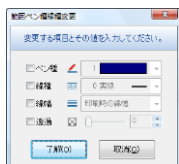
入力の種類

入力の種類、方法を覚えましょう



入力を行う際に表示される、ボックスやボタンを覚えましょう。

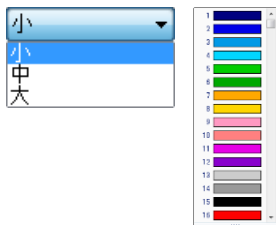
ダイアログボックス 各種設定を行うボックスです。コマンドを実行する際、実行内容の確認や設定の入力、変更を行います。



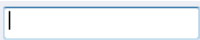
コマンドボタン クリックすると、コマンドが実行されるボタンです。
〈了解〉〈取消〉ボタンはダイアログボックスを閉じますが、〈詳細〉〈設定〉ボタンはダイアログボックスの詳細設定部分が表示されます。



リストボックス 選択する項目が表示されるボックスです。項目をクリックして選択します。表示されていない項目は ボタンまたは ボタンをクリック、もしくはスクロールして選択します。



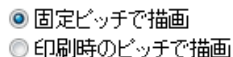
テキストボックス キーボードから文字・数字・記号を入力するボックスです。ボックスの中をクリックすると、カーソル（点滅する垂直のバー）が表示されますので、文字列を入力します。



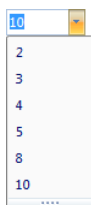
チェックボックス 項目の先頭にある ボックスです。クリックして、選択および選択解除を行います。選択状態にある時は、チェックボックスの中に が表示されます。複数選択も可能です。



ラジオボタン 項目の先頭にある ボタンです。クリックして、選択を切替えます。選択状態にある時は、ボタンの中に が表示されます。複数選択はできません。



コンボボックス テキストボックスとリストボックスが組み合わされたボックスです。リスト内の項目をクリックして選択するか、ボックスに直接文字列を入力します。



4

Vector Master の画面構成

Vector Master の画面構成について覚えましょう



Vector Master の作図画面とその機能について覚えましょう。

アプリケーションボタン

クイックアクセスツールバー

ユーザーツールバー

インフォメーションバー

リボンバー

用紙枠

サイドバー

ステータスバー

ショートカットバー

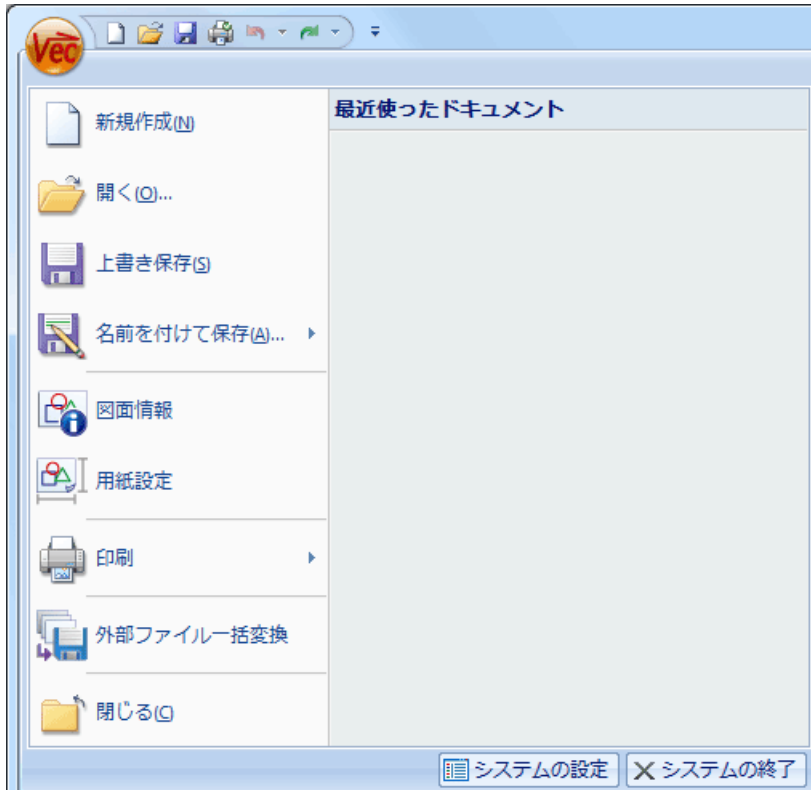


注意

本ガイドの画面イメージは「Vector Master Pro Ver3.0 L02」をディスプレイ解像度「1280×1024」で表示した状態で作成しています。
リボンバーおよびステータスバーは解像度・ウィンドウ幅によってイメージが異なります。
また、サイドバーは、最小化した状態でイメージを作成しています。レベルが異なるシステムではイメージが異なることがあります。

4-1

アプリケーションボタン



基本的なコマンド（新規作成、開く、保存、印刷、閉じるなど）が表示されます。
〈システムの設定〉をクリックした場合、『システム設定』ダイアログボックスが表示
されます。また、〈システムの終了〉をクリックした場合、『確認』ダイアログボックス
が表示され、システムを終了することができます。

4-2

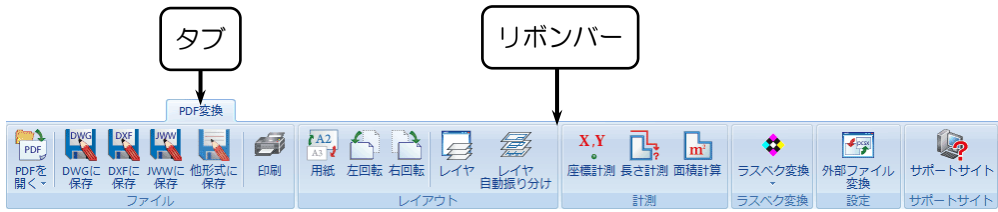
クイックアクセスツールバー



登録されているコマンドのツールアイコンが表示されます。クイックアクセスツールバー
には、コマンドを表すボタンを追加することができます。登録されているコマンドを
選択すると、コマンドが実行されます。

4-3

リボンバー



各タブにコマンドが分類されています。タブ名をクリックすると、リボンバーが表示されます。その中のコマンドを選択すると、コマンドが実行されます。

構成要素とその機能

タブ.....クリックすると、リボンバーが表示されます。

リボンバー.....コマンドのアイコンボタンが表示されます。
アイコンボタンをクリックすると、各コマンドが
実行されます。

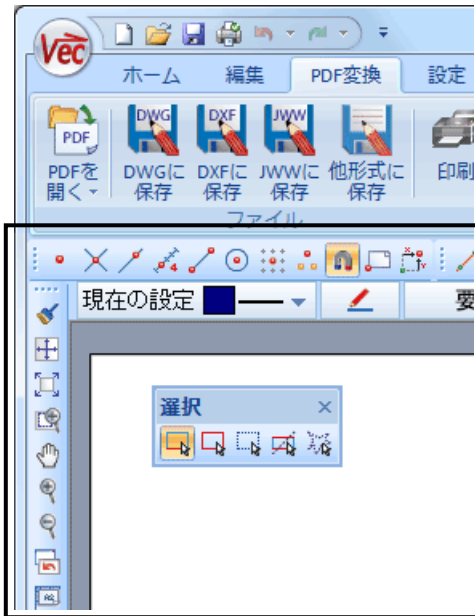


リボンバーは解像度・ウィンドウ幅によってイメージが異なります。

4-4

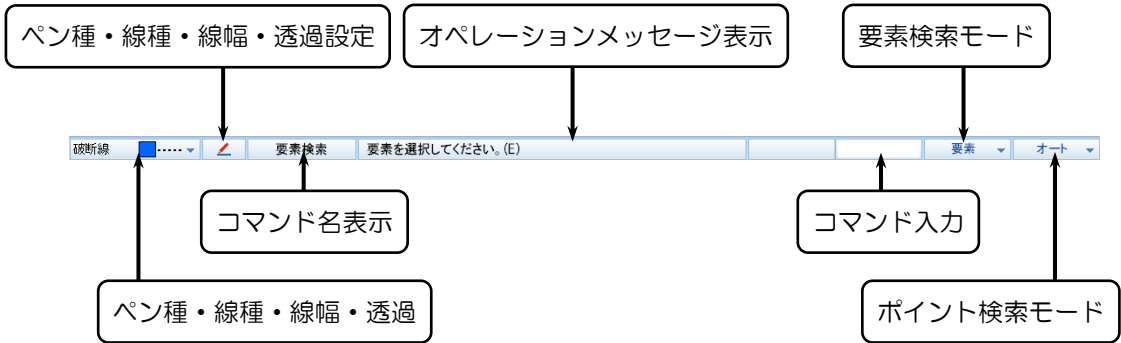
ユーザーツールバー

頻繁に使用するコマンドを登録し、ボタンをクリックすることでコマンドを起動することができます。ユーザーツールバーは、ウィンドウの上・左・右の3方向にドッキングさせたり、離れて作図図面上に配置することができます。ツールバーへのコマンド登録は、【設定リボンバー】→【ユーザーツールバー】で行います。



4-5

インフォメーションバー

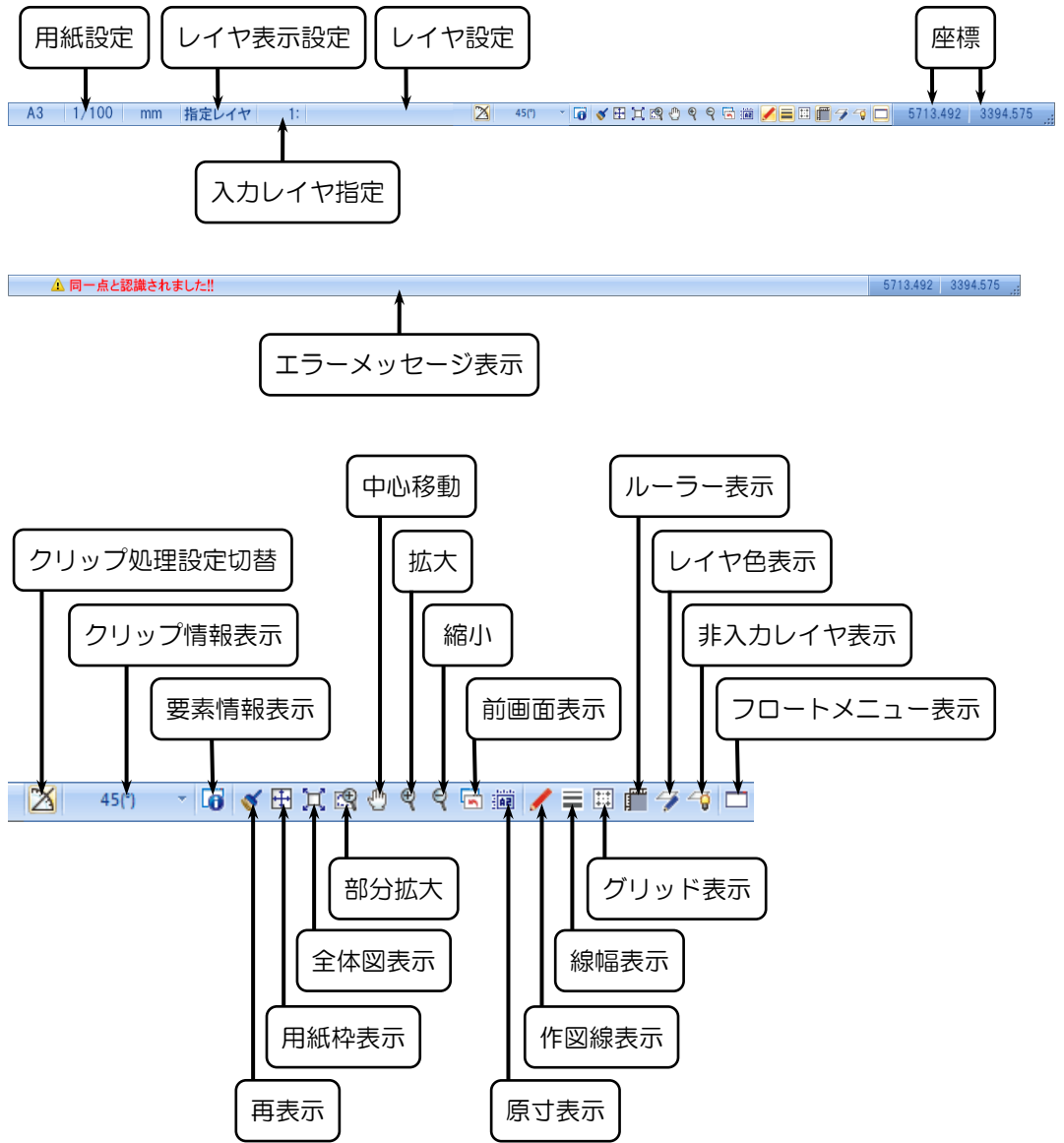


各コマンドの設定や情報表示などを行うバーが表示されます。

構成要素とその機能

- ペン種・線種・線幅・透過……………現在使用中のペン種・線種・線幅・透過が表示されます。クリックすると、パターンを切替るリストが表示されます。
- ペン種・線種・線幅・透過設定……………ペン種・線種・線幅・透過を変更したり、パターンを登録したりすることができます。
- コマンド名表示……………実行中のコマンド名が表示されます。コマンドを終了した時は「要素検索」と表示されます。
- オペレーションメッセージ表示……………コマンド実行時のオペレーションメッセージが表示されます。メッセージにしたがい、対話式に図面入力を行うことができます。コマンドを終了した時は「要素を選択してください。(E)」とメッセージが表示されます。
- コマンド入力……………キーボードからコマンド名を入力してコマンドを実行します。また、数値入力して作図を行います。
- 要素検索モード……………クリックすると、要素検索モードを切替るメニューが表示されます。
- ポイント検索モード……………クリックすると、ポイント検索モードを切替るメニューが表示されます。

4-6 ステータスバー



構成要素とその機能



- 用紙設定 図面の用紙サイズと縮尺が表示されます。クリックすると、『用紙設定』ダイアログボックスが表示され、縮尺や用紙サイズ、単位などを変更できます。
- レイヤ表示設定 現在のレイヤ表示設定を表示します。クリックすると、【設定リボンバー】→【レイヤ】を選択するのと同様に、『レイヤ設定』ダイアログボックスが表示され、レイヤの表示などを変更できます。
- 入力レイヤ指定 現在の入力レイヤ名を表示します。クリックすると、【入力レイヤ指定】コマンドが起動され、作図するレイヤを指定することができます。
- レイヤ設定 レイヤの表示モードが表示されます。クリックすると、【設定リボンバー】→【レイヤ】を選択するのと同様に、『レイヤ設定』ダイアログボックスが表示され、レイヤの表示などを変更できます。
- 座標 カーソルの X 座標、Y 座標が表示されます。クリックすると、『座標』画面が表示されます。
- エラーメッセージ表示 エラーメッセージを表示します。エラーメッセージは、約 3 秒間表示されます。
- クリップ処理設定切替 クリップの処理の設定を切り替えます。
- クリップ情報表示 クリップ角度が表示されます。クリックすると、角度クリップと距離クリップが切り替わります。また、リストより“設定”をクリックした場合、角度クリップは『角度クリップメニュー設定』ダイアログボックス、距離クリップは『距離クリップメニュー設定』ダイアログボックスが表示され、クリップ処理などを変更できます。
- 要素情報表示 選択した要素の情報を表示します。
- 再表示 要素消去や移動などを行った後に、画面を再表示して綺麗にします。
- 用紙枠表示 画面を用紙サイズの表示にします。
- 全体図表示 画面上の作図要素をすべて表示します。
- 部分拡大 矩形で指定した範囲を拡大表示します。
- 中心移動 クリックした点を中心に表示します。

拡大.....	クリックした点を中心に拡大表示します。
縮小.....	クリックした点を中心に縮小表示します。
前画面表示.....	直前に表示していた画面を表示します。
原寸表示.....	作成した図面を原寸で表示します。
作図線表示.....	作図線を表示または非表示にします。
線幅表示.....	線幅を指定して配置した要素に対しての線幅を反映しての表示の有効または無効にします。
グリッド表示.....	グリッドを表示または非表示にします。
ルーラー表示.....	ルーラーを表示または非表示にします。
レイヤ色表示.....	レイヤ色表示を有効または無効にします。
非入力レイヤ表示.....	非入力レイヤを表示または淡色表示にします。
フロートメニュー表示.....	フロートメニューを表示または非表示にします。


4-7

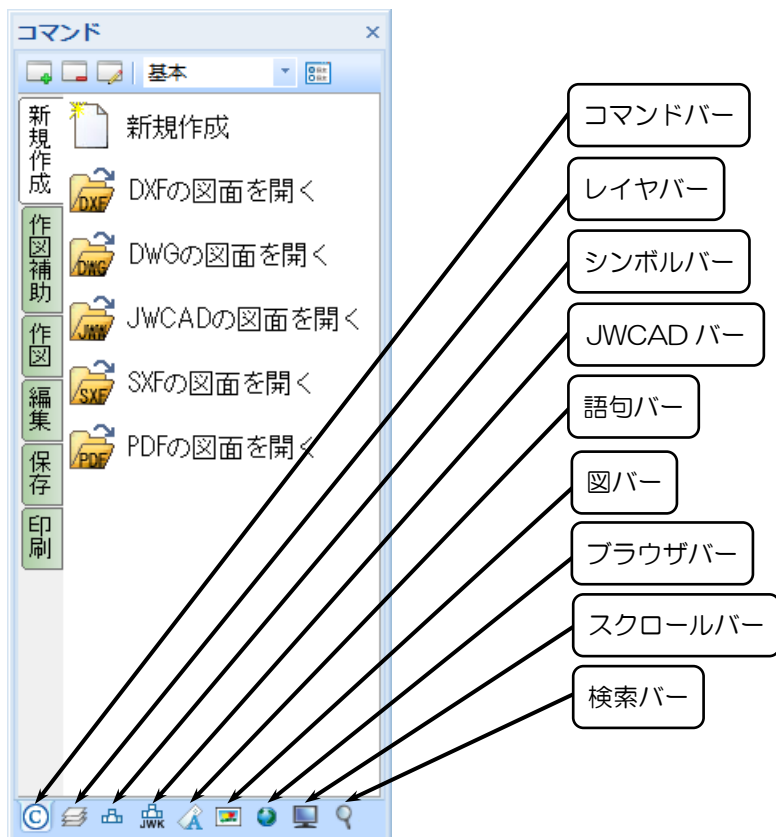
ショートカットバー



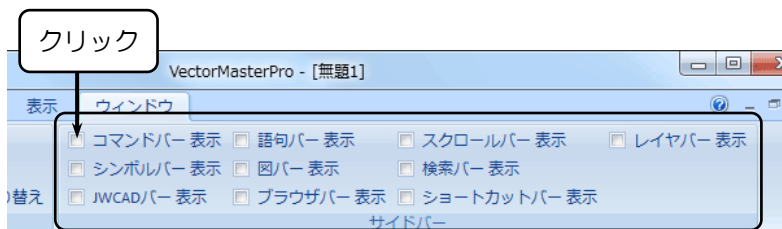
【設定リボンバー】→【ショートカットキー】で、ファンクションキー（～）に割り当てられているコマンドが表示されます。クリックするか、同番号のファンクションキーを押すと、コマンドが実行されます。

4-8 サイドバー

さまざまな機能を持ったサイドバーが表示されます。サイドバーは、四方にドッキングさせたり、離して作図図面上に配置することができます。また、ドッキングさせているとき、 をクリックすると、サイドバーは最小化した状態になります。



サイドバーが表示されていない場合、「ウィンドウ」タブ→『ウィンドウ』リボンバーより [サイドバー] パネルの各チェックボックスをクリックすると表示されます。



構成要素とその機能

- コマンドバー..... よく使用するコマンドを一覧に登録し、起動することができます。
- シンボルバー..... シンボルを一覧から引用できます。
- JWCAD バー..... JWCAD 用のシンボルを一覧から引用できます。
- 語句バー..... 一覧から語句を選択し配置することができます。
- 図バー..... イメージを選択し配置することができます。
- ブラウザバー..... ホームページを閲覧できます。
- スクロールバー..... スクロールウィンドウ上での図面の表示位置や拡大・縮小を行うことができます。
- 検索バー..... 検索要素を絞り込み、検索を行うことができます。
- ショートカットバー..... 頻繁に使用するコマンドをキーボードに割り付け登録し、起動することができます。
- レイヤバー..... レイヤの設定を変更することができます。

5

縮尺・用紙サイズとレイヤについて

縮尺・用紙サイズの設定について覚えましょう



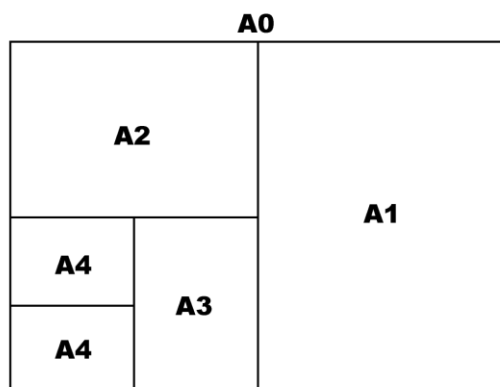
縮尺・用紙サイズについて覚えましょう。

縮尺について

縮尺は、紙に作図する場合と同じ意味で設定します。
例えば、縮尺を 1/100 とした場合、線分の長さを実寸値の 1000mm として記入すると、図面上 10mm の長さで作図されます。

用紙サイズについて

紙に作図する場合と同じように、作図する図面の用紙サイズを設定します。
例えば、A3 サイズに設定した場合、画面上の枠が A3 判の用紙ということになります。



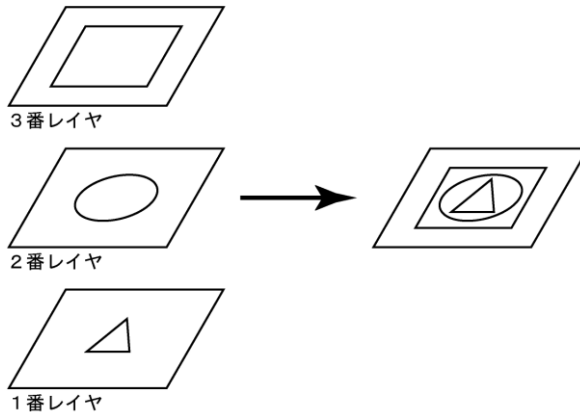


レイヤについて覚えましょう。

レイヤについて

図面を作成する時に、別々の紙（透明のフィルムのようなものと考えてください）へ描いて、層のように重ね合わせて1枚の図面にすることができます。この1枚1枚の紙をレイヤと呼んでいます。

何も設定しない場合、1番レイヤに入力されるようになっています。



6

ショートカットメニュー

ショートカットメニューについて覚えましょう



右ボタンを押しながらドラッグすると、ショートカットメニューが表示されます。実行するコマンドにカーソルを合せ、右ボタンを離して選択します。

要素検索
元に戻す やり直し
再表示
用紙枠 全体表示
部分拡大 拡大 縮小
スナップ ▶
原点
検索 ▶

要素検索	実行中のコマンドを終了し、要素検索の状態になります。
元に戻す	操作を取り消します。
やり直し	取り消した操作を再実行します。
再表示	要素消去や移動などを行った後に、画面を再表示します。
用紙枠	画面を用紙サイズの表示にします。
全体表示	図面中の要素をすべて表示します。
部分拡大	矩形で指定した範囲を拡大表示します。
拡大	クリックした点を中心に画面を拡大表示します。
縮小	クリックした点を中心に画面を縮小表示します。
スナップ	スナップモードを切替るためのプルダウンメニューが表示されます。
原点	絶対原点にスナップします。
検索	要素検索モードを切替るためのプルダウンメニューが表示されます。



先に図形要素を選択してから実行するコマンド、または実行できないコマンドはグレー表示となります。
頻りに使用するコマンドは、【設定リボンバー】→【ユーザーメニュー】で登録できます。また、ここでは要素選択時のショートカットメニューも設定できます。

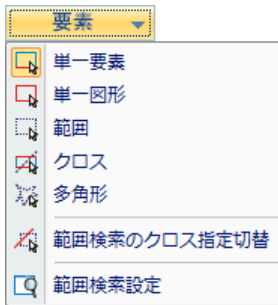
7

要素検索モード

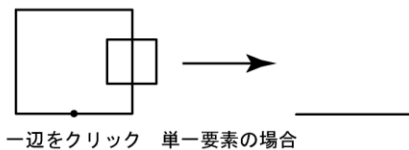
要素検索モードについて覚えましょう



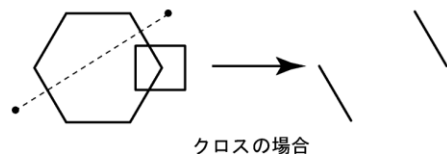
インフォメーションバーにある要素検索モードのボタンをクリックすると、要素検索モードを切替るメニューが表示されます。



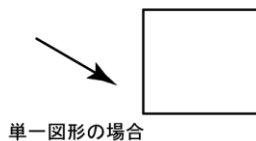
- 単一要素 要素をクリック、または範囲で選択します。
- 単一図形 図形をクリック、または範囲で選択します。
- 範囲 対角 2 点で範囲を指定して、要素を選択します。
- クロス 2 点で指定した仮想の線分と、交差する要素を選択します。
- 多角形 多角形で範囲を指定して、要素を選択します。
- 範囲検索のクロス指定切替 選択すると、範囲指定の領域と交差する要素を、選択の対象にします。
- 範囲検索設定 範囲指定時に、検索する要素を設定します。クリックすると、『検索設定』ダイアログボックスが表示されます。



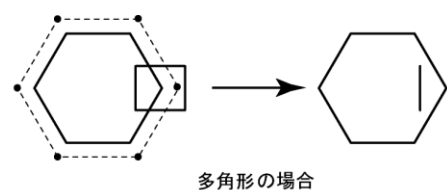
一辺をクリック 単一要素の場合



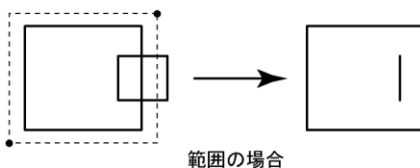
クロスの場合



単一図形の場合



多角形の場合



範囲の場合



要素選択後、キーボードの〈SHIFT〉キーや〈CTRL〉キーを押しながら更に選択することにより、選択の追加や解除を行うことができます。

8

ポイント検索モード

ポイント検索モードについて覚えましょう



インフォメーションバーにあるポイント検索モードのボタンをクリックすると、ポイント検索モードを切替るメニューが表示されます。



- 交点..... 2つ以上の要素が交差する点にスナップします。
- 線上点..... 要素上の任意の点にスナップします。
- 1/4 線上点..... 線上の 1/4 の点にスナップします。
- 端点..... クリックした要素の端点にスナップします。
- 中心点..... クリックした要素の中心点にスナップします。
- グリッド点..... 【表示リボンバー】→ [グリッド] パネルで設定したグリッド点にスナップします。
- 作図点..... 【ホームリボンバー】→ 【作図点】で記入した作図点にスナップします。
- 自由点..... 画面上の任意の点にスナップします。
- オート..... 【設定リボンバー】→ 【検索】を選択後、『検索設定』ダイアログボックスが表示されます。“ポイント検索”を選択後、[ポイント検索] 設定項目の、[オートポイント設定]で設定した優先順に沿って検索し、自動的にスナップします。(初期の設定では、交点→端点→作図点→中心点→1/4 線上点→グリッド点→線上点→自由点の順に検索されます。)
- 原点..... 絶対原点、またはユーザー原点にスナップします。絶対原点は、用紙枠左下です。
- オフセット点..... クリックすると、基準となる点をクリック後、『オフセット点入力』ダイアログボックスが表示されます。指定した点から相対距離を与えた点にポイント検索します。
- ポイント検索設定..... ポイント検索する要素を設定します。クリックすると、【設定リボンバー】→ 【検索】を選択するのと同様に、『検索設定』ダイアログボックスが表示されます。

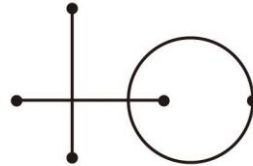


【ポイント検索設定】の“ナビゲーション機能を使用する”にチェックを入れ、検索箇所カーソルを近づけると、下記のようなスナップの種類が表示されます。

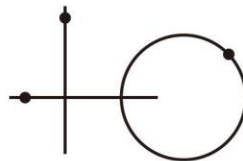
- 交点 ×
- 端点・作図点・1/4 線上点・グリッド点 □
- 線上点 \
- 中心点 ○



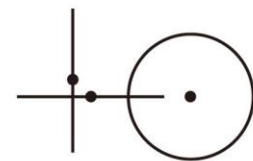
交点



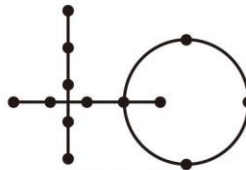
端点



線上点



中心点



1/4 線上点

9

キー割り付け一覧表

コマンドをキーボードに割り付けておくことができます



あらかじめ、コマンドをキーボードに割り付けておくことにより、キーボードからコマンドを実行することができます。
標準では以下のように設定されています。また、【設定リボン】→【ショートカットキー】で変更することができます。

ファイル

新規作成	Ctrl + N
開く	Ctrl + O
上書き保存	Ctrl + S
印刷	Ctrl + P

編集

元に戻す	Ctrl + Z
やり直し	Ctrl + Y
コピー	Ctrl + C
貼り付け	Ctrl + V
すべてを選択	Ctrl + A
任意複写	F2
任意移動	F3

作図

単線	F4
注釈記入	F7

ポイント

オート	F8
自由点	F9
線上点	F10

画面操作

上移動	↑
下移動	↓
左移動	←
右移動	→
再表示	F1
中心拡大	Page Up
中心縮小	Page Down
ズームウィンドウ	F12
グリッド表示・非表示	Ctrl + G

消去

要素消去	Delete
------------	--------

その他

了解	Enter
----------	-------



基本編

●● この章の内容 ●●

1. 起動と終了..... 26
 - Vector Master を起動する 26
 - Vector Master を終了する 28
2. 保存画面を開く 29
3. 画面操作..... 32
4. 拡大・縮小..... 33
 - 拡大する 33
 - 用紙枠に戻す 36
5. 用紙・縮尺の設定 37
5. レイヤ設定 39
 - 入力するレイヤを指定する 39
 - レイヤごとに検索/非検索、
表示/非表示を切替える 41
7. 作業を取り消す 44
 - 元に戻す 44
 - やり直し 45

1

起動と終了

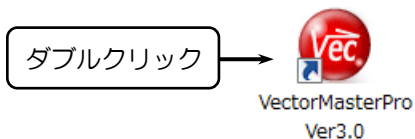
Vector Master の起動と終了の方法を覚えましょう



まずはパソコンの電源を入れて起動しましょう。

Vector Master を起動する

1. 画面上の【Vector Master Pro Ver 3.0】アイコンをダブルクリックします。

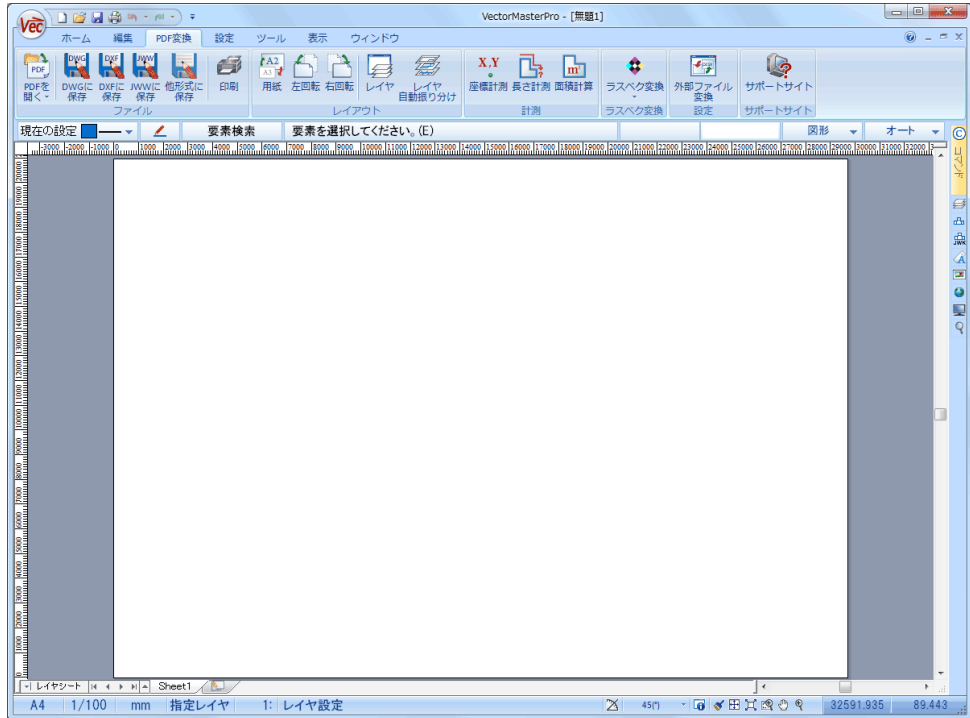


2. 起動画面が表示されますので、〈新規作成〉をクリックします。




〈新規作成〉をクリック

3. 下図のような画面が表示されたら正常に起動しています。

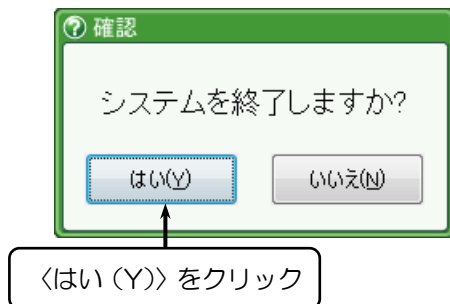


Vector Master を終了する

1.  (アプリケーションボタン) → 【システムの終了】を選択します。



2. 『確認』ダイアログボックスが表示されます。
3. 〈はい (Y)〉をクリックして Vector Master を終了します。



2


保存図面を開く

図面を開いてみましょう

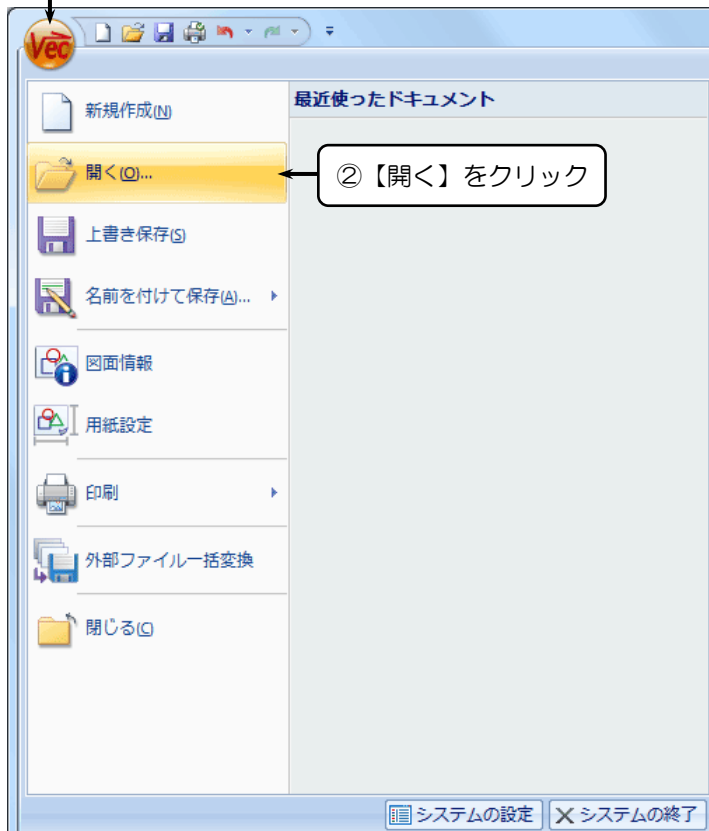



まずは図面を開いてみましょう。

1. Vector Master を起動します。

2.  (アプリケーションボタン) → **【開く】** を選択します。

① **【アプリケーションボタン】** をクリック



 (【開く】アイコン) がクイックアクセスツールバーに表示されている場合、クリックして同様の操作ができます。

次のページへ続く

- 『ファイルを開く』ダイアログボックスが表示されます。
- “demo-01.pcsx” を選択し、〈開く (O)〉をクリックします。

① “入門ガイド用データ” をクリック

② “図面 (*.pcsx;*.pcs)” を選択

③ “demo-01.pcsx” をクリック

④ クリック

ポイント

③をクリックすると、その図面の図面情報等が下の欄に表示されます。また、ダブルクリックすると、④を省いてファイルを開くことができます。

名前	更新日時	種類	サイズ
demo_01.pcsx	2015/01/26 10:27	ANDES図面ファイル	153 KB
入門ガイド用-作図編.pcsx	2015/01/28 16:51	ANDES図面ファイル	39 KB
入門ガイド用-編集編.pcsx	2015/01/28 10:39	ANDES図面ファイル	22 KB

図面情報
 フォルダ名 C:\ANDES Data\2014\VectorMasterPro\入門ガイド用データ
 ファイル名 demo_01.pcsx
 図面名
 図面番号
 名簿1

用紙サイズ A3
 総尺 1/1

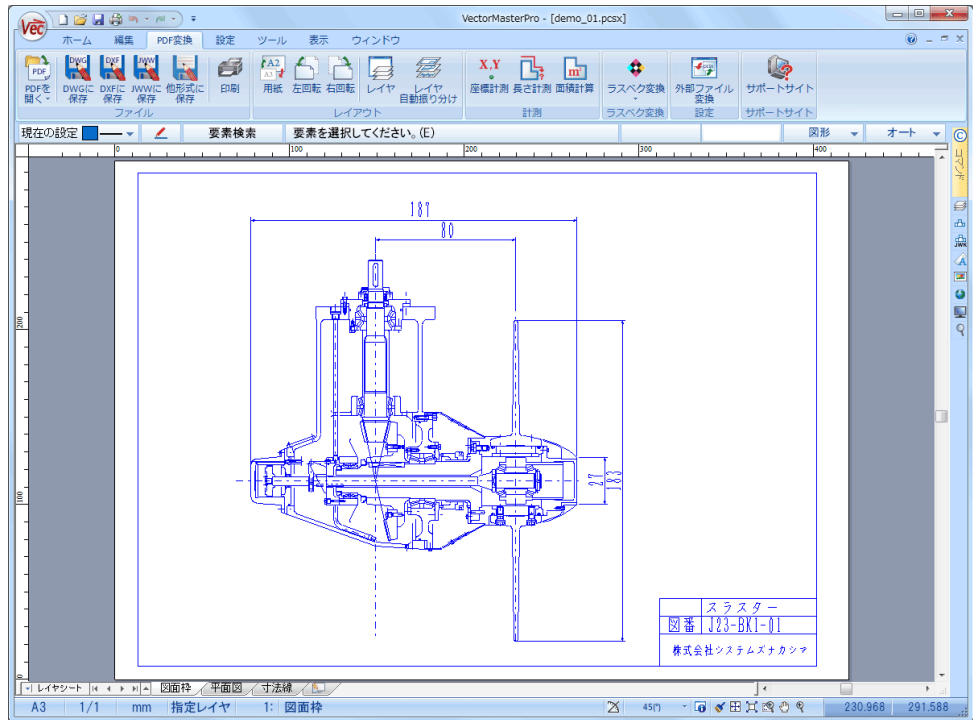


ダイアログの表示は、【Vec (アプリケーションボタン)】→【システムの設定】をクリックし、『システム設定』ダイアログボックスの「基本設定/ファイル」で“ロファイルの開く、保存はWindows 標準のダイアログを使用する”のチェックをはずした状態で説明しています。



メモ
 サンプルの図面は標準でインストールした場合、“C:\ANDES Data\2014\VectorMasterPro\入門ガイド用データ” に保存してあります。

5. “demp-01.pcsx” の図面が開き、画面上に表示されます。



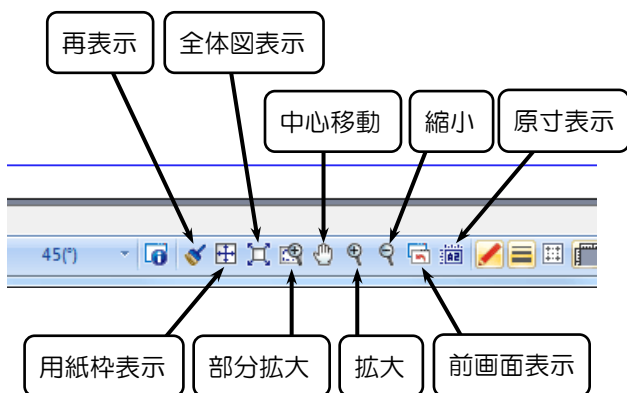
3

画面操作

画面操作について覚えましょう



画面の拡大や縮小、用紙枠表示といった画面操作を行います。



- 再表示 要素消去や移動などを行った後に、画面を再表示して綺麗にします。
- 用紙枠表示 画面を用紙サイズの表示にします。
- 全体図表示 画面上の作図要素をすべて表示します。
- 部分拡大 矩形で指定した範囲を拡大表示します。
- 中心移動 クリックした点を中心に表示します。
- 拡大 クリックした点を中心に拡大表示します。
- 縮小 クリックした点を中心に縮小表示します。
- 前画面表示 直前に表示していた画面を表示します。
- 原寸表示 作成した図面を原寸で表示します。

4


拡大・縮小

作図を楽に行うために、拡大・縮小する方法を覚えましょう




画面の拡大や縮尺を行い作業しやすい画面の設定を行います。

拡大する

1. 画面下のステータスバーにある  (【部分拡大】アイコン) をクリックします。



 (【拡大】アイコン) と間違えないようにしてください。

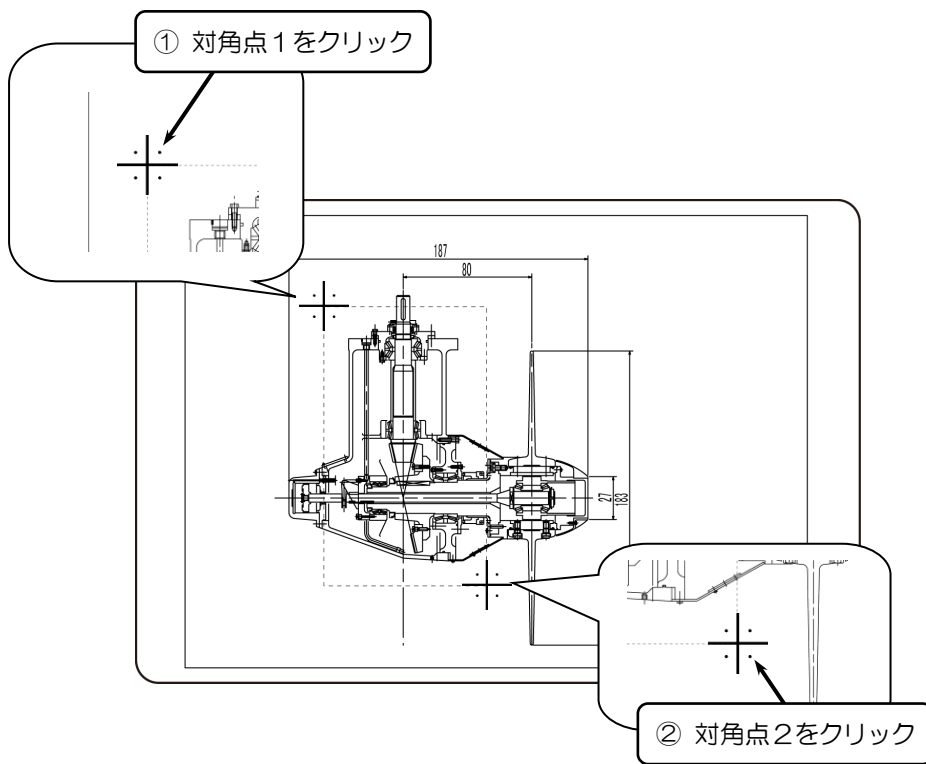
2. 画面中央上部に「部分拡大する対角点1は？」とメッセージが表示されます。

部分拡大

部分拡大する対角点1は?

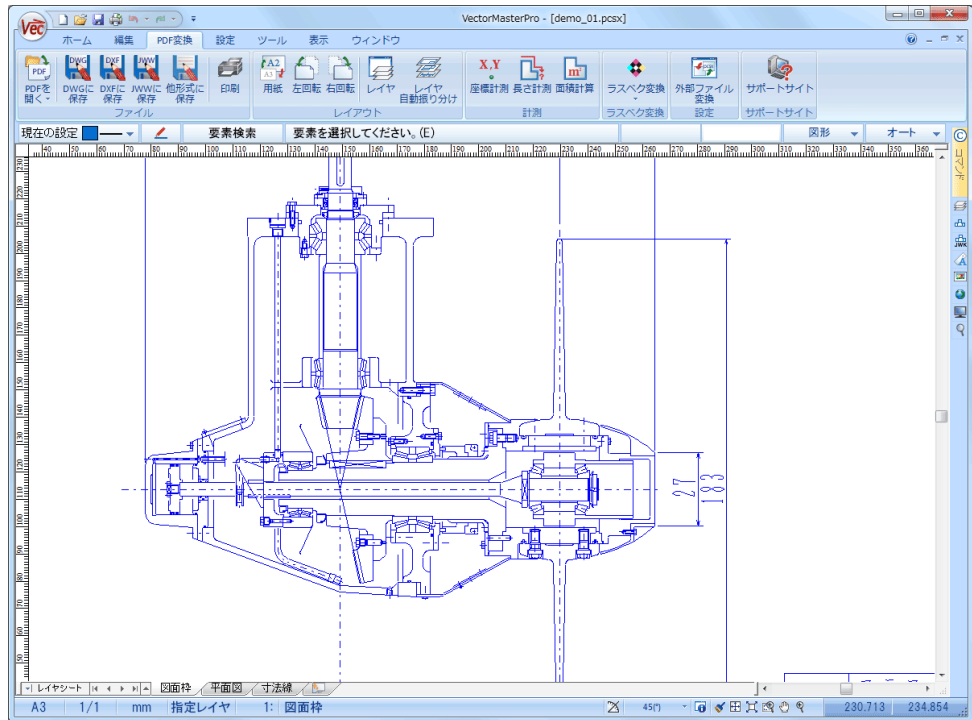
次のページへ続く

3. 拡大する部分を囲むように①をクリックします。
4. 「部分拡大する対角点 2 は？」とメッセージが表示されます。
5. 拡大する部分を囲むように対角点②をクリックします。




ドラッグとは違います。左ボタンを押し続けて対角点までマウスを移動する必要はありません

6. 指定した部分のみが大きく表示されます。



スクロールボタンを上を回すと、同様の操作を行うことができます。

用紙枠に戻す



1. 同じステータスバーにある  (【用紙枠表示】アイコン) をクリックします。



クリック

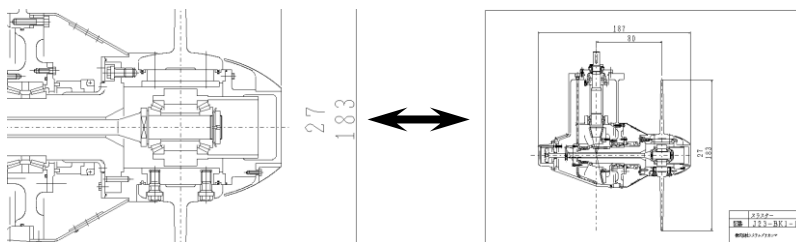
2. 元の図面の大きさ（用紙サイズ）に戻ります。



- マウスのスクロールボタンをダブルクリックしても同様の操作をすることができます。
- 拡大操作で画面が真っ白になったり、思うように拡大できなかった場合は、 (【用紙枠表示】アイコン) をクリックして画面を元に戻してから、再度  (【部分拡大】アイコン) をしてみましょう。



何回か  (【部分拡大】アイコン)、 (【用紙枠表示】アイコン) を使って、作業しやすい環境を自由につくれるように練習してみましょう。



5

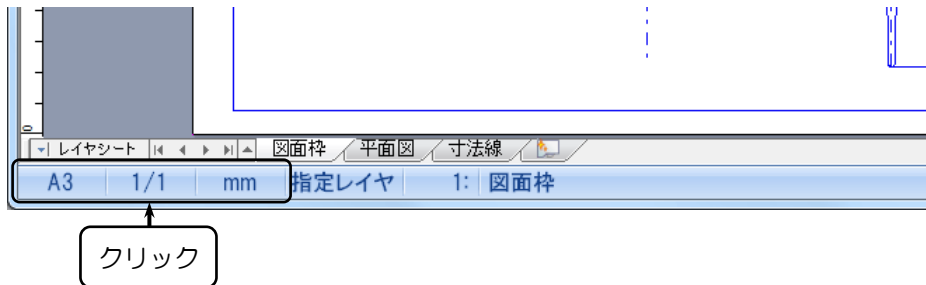
用紙・縮尺の設定

作図をする際の用紙サイズと縮尺を設定する方法を覚えましょう

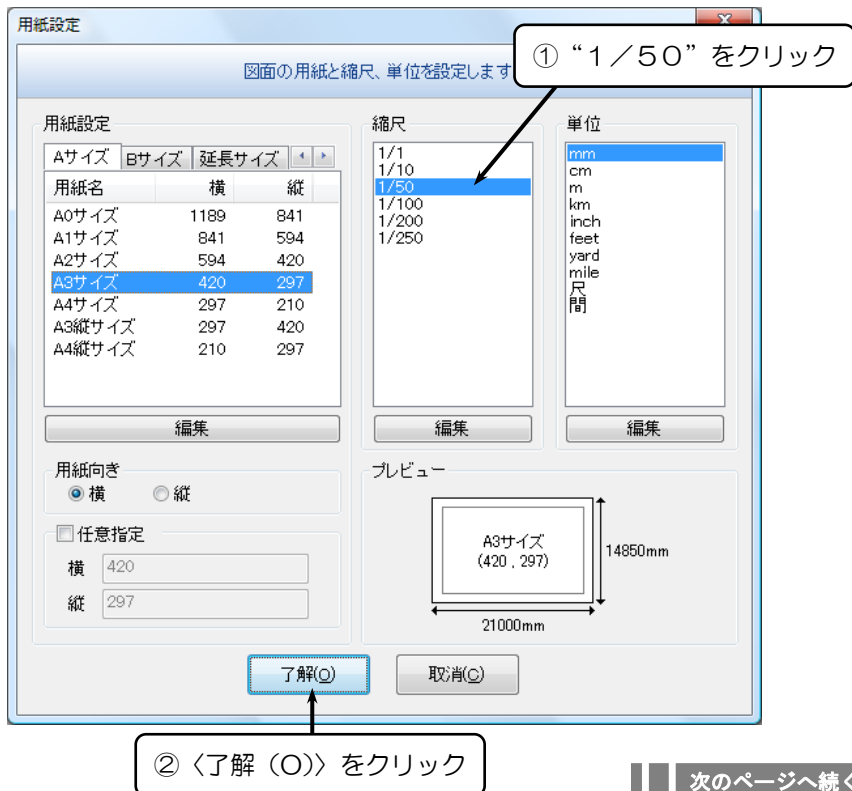


PDFには縮尺のデータがありません。
そのため、図面にあわせて縮尺を設定する必要があります。

1. 画面左下【A3 1/1 mm】と表示されている箇所をクリックします。



2. 『用紙設定』ダイアログボックスが表示されます。
3. “1/50” を選択し、〈了解 (O)〉 をクリックします。

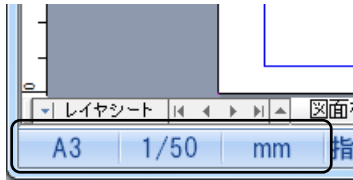


次のページへ続く

4. これから作図する図面は 1/50 の縮尺で描くことになります。



- 画面左下の表示が【A3 1/50 mm】に変わったことを確認してください。画面の黒枠が A3 の用紙枠となり、1/50 の縮尺で描くことを表しています。



- 既に描かれている要素に関しては、縮尺を変更してもサイズ補正されません。

6

レイヤ設定

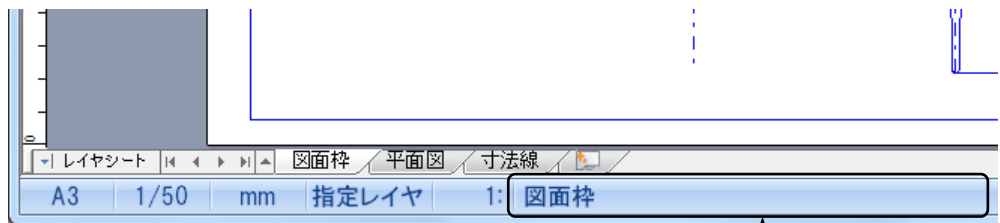
レイヤの設定について覚えましょう

入力するレイヤを指定する



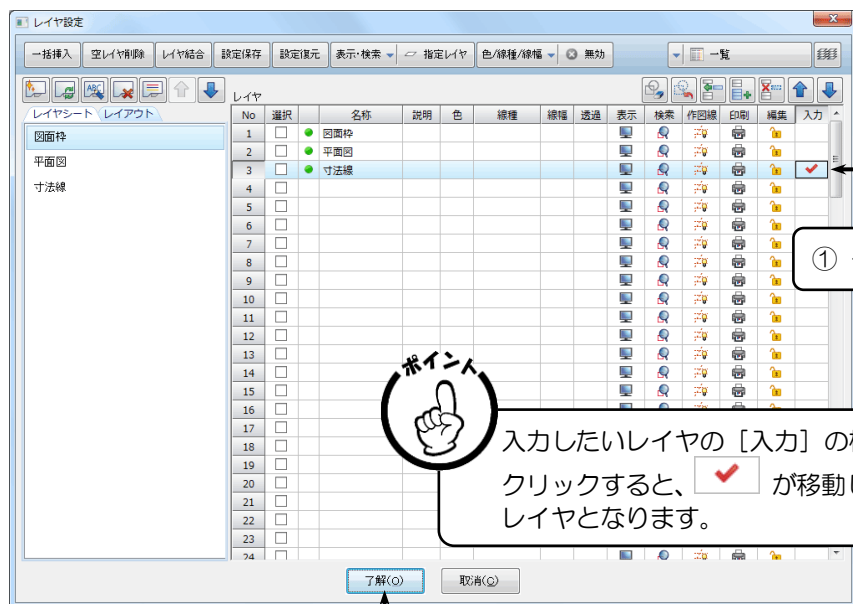
要素は入力レイヤに記入されます。
入力レイヤを変更してみましょう。

1. 画面左下 [図面枠] と表示されている箇所をクリックします。



“図面枠”をクリック

2. 『レイヤ設定』ダイアログボックスが表示されます。
3. 移動先のレイヤ番号の [入力] をクリックし、〈了解 (O)〉をクリックします。



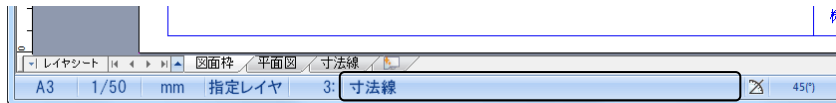
② クリック

次のページへ続く

4. 入力レイヤが移動しました。



画面左下の入力レイヤ名の表示が変わったことを確認して下さい。

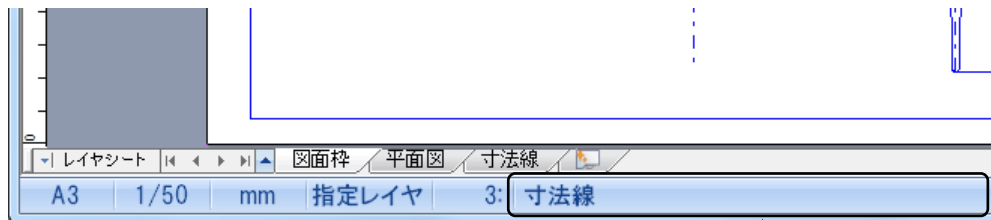


レイヤごとに検索／非検索、表示／非表示を切替える



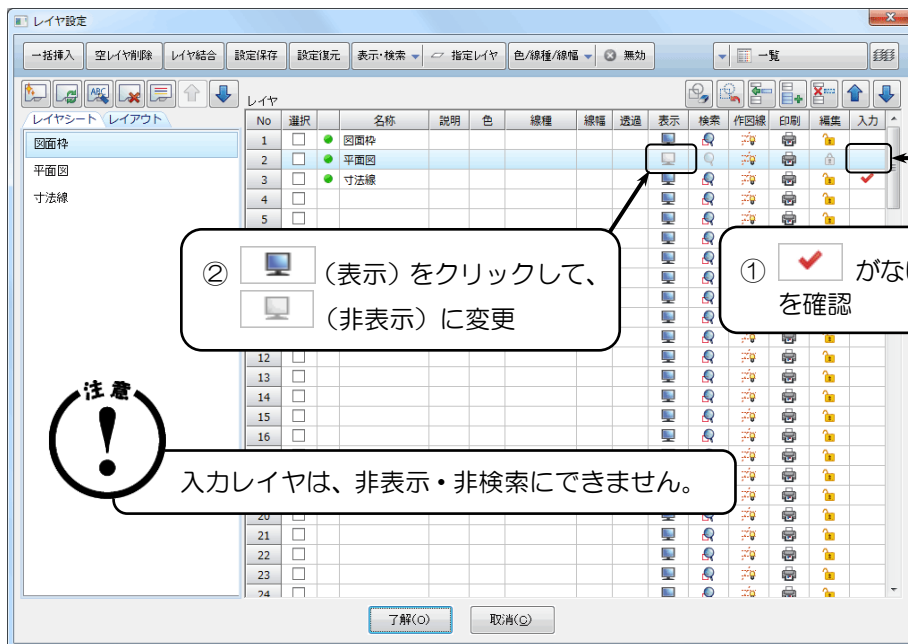
レイヤの要素表示などを変更して、平面図のみ、非検索、非表示にしてみましょう。

1. 画面左下 [寸法線] と表示されている箇所をクリックします。



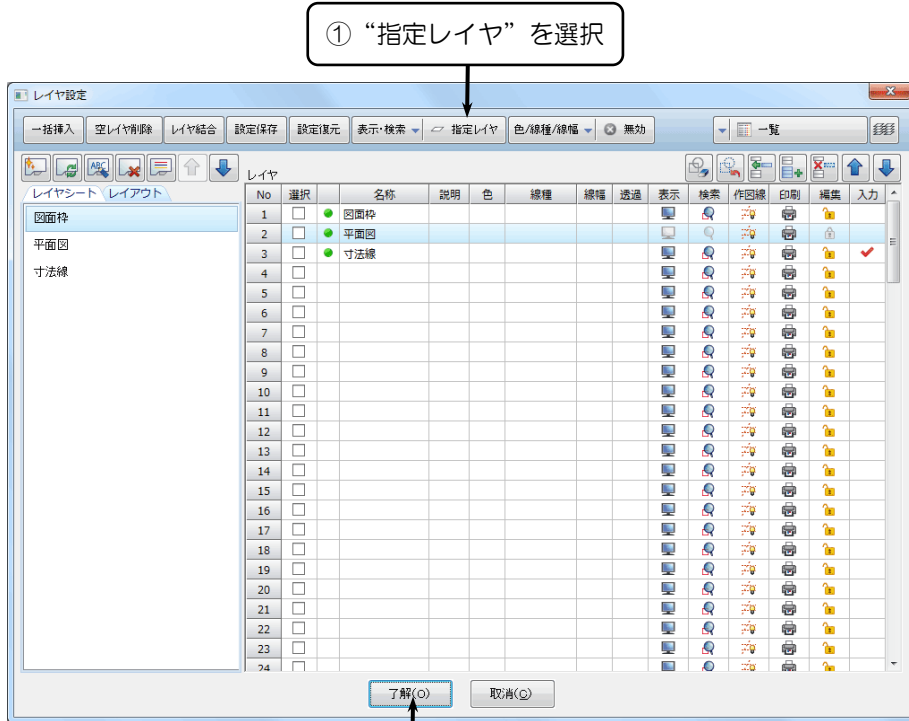
“寸法線”をクリック

2. 『レイヤ設定』ダイアログボックスが表示されます。
3. “平面図”の [入力] の枠に が入っていないことを確認します。
4. “平面図”の [表示] の (表示) をクリックし、 (非表示) に変更します。



次のページへ続く

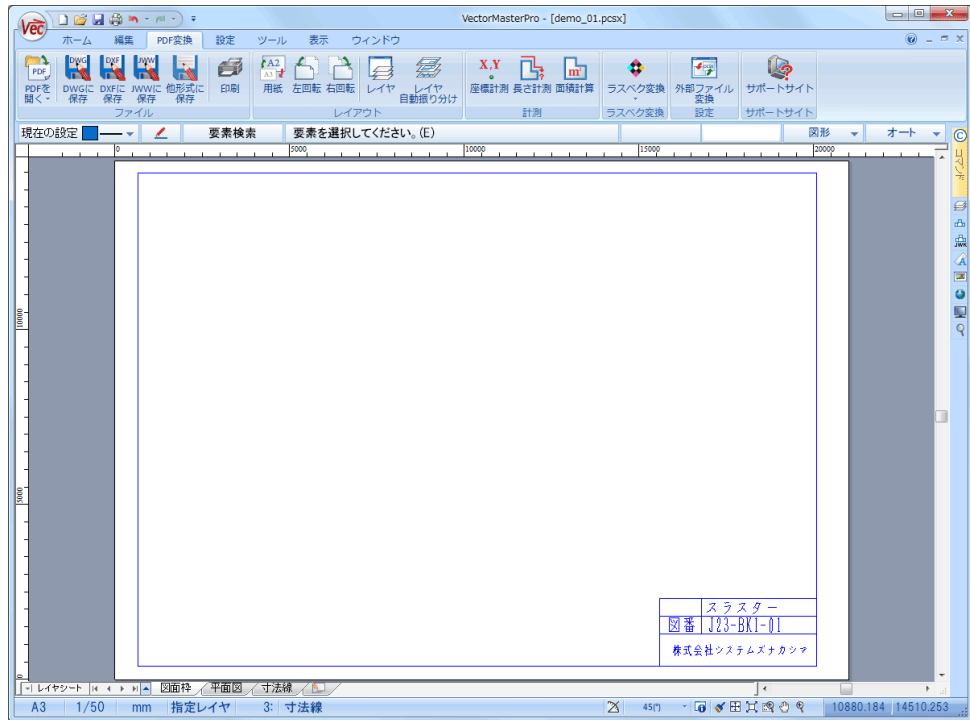
5. [表示・検索] より“指定レイヤ”を選択し、〈了解(O)〉をクリックします。



注意

画面上中央の、[表示・検索] より“指定レイヤ”が選択されていることを確認してください。“全レイヤ”を選択した場合、各レイヤの表示・検索の設定によらず全ての要素が表示・検索されます。

6. “平面図”のレイヤに描かれている要素が非表示・非検索になります。



7

作業を取り消す

操作を元に戻す方法を覚えましょう

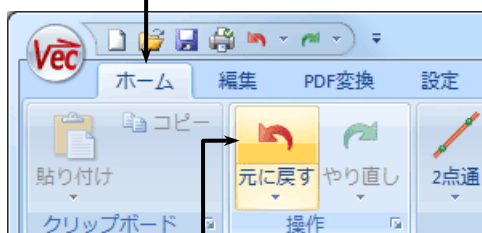


作業を1つ前に戻したり、やり直したりしてみしましょう。

元に戻す

1. 【ホームリボンバー】 → 【元に戻す】 を選択します。


① 【ホーム】 をクリック



② 【元に戻す】 をクリック

2. 最後に描いた要素が消えて、ひとつ前の作業に戻ります。
3. 再度【ホームリボンバー】 → 【元に戻す】 を選択します。
4. もうひとつ前の作業に戻ります。

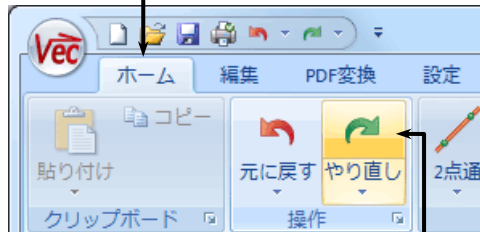


 (【元に戻す】アイコン) がクイックアクセスツールバーに表示されている場合、クリックして同様の操作ができます。

やり直し

1. 【ホームリボンバー】 → 【やり直し】 を選択します。


① 【ホーム】 をクリック



② 【やり直し】 をクリック

2. 【元に戻す】 で消えた要素がまた表示されます。



 (【やり直し】アイコン) がクイックアクセスツールバーに表示されている場合、クリックして同様の操作ができます。

3

PDF 編

●● この章の内容 ●●

1. PDF の種類について 48
 - ラスタ PDF について 48
 - ベクタ PDF について 48
 - ラスタ PDF と
ベクタ PDF の違いについて .. 48
 - 文字のあつかいについて 48
 - セキュリティについて 48
2. PDF を開く 49
 - 複数ページの PDF を開く 52
 - ドラッグ&ドロップで PDF を開く.. 55
3. PDF を他の形式に保存する 56
 - AutoCAD の形式に保存する 58
 - JWCAD の形式に保存する 60
 - SXF の形式に保存する 61
4. PDF を他の形式に一括保存する... 62
5. ドラッグ&ドロップで
他の形式に保存する..... 67
6. ラスタデータを
 - ベクタデータに変換する..... 71
 - ラスベク変換を起動させる..... 71
 - ラスベク変換の設定を変更する... 72
7. PDF の変換設定について 73
 - 読み込みの設定について..... 73
 - 構成要素とその機能..... 74
8. AutoCAD の保存設定について 76
 - 保存時の設定について..... 76
 - 構成要素とその機能..... 77
9. AutoCAD の変換設定について 78
 - 構成要素とその機能..... 79
10. JWCAD の変換設定について 80
 - 構成要素とその機能..... 81
11. SXF の変換設定について 82
 - 構成要素とその機能..... 83

1

PDFの種類について

PDFの種類について覚えましょう

ベクタ PDF について

ベクタ PDF とは、線分や文字などベクトルデータで構成された PDF です。CAD から直接出力して PDF にした場合など、線分・文字情報を保持したまま表示される PDF を表します。

ラスタ PDF について

ラスタ PDF とは、ラスタデータ（画像）で構成された PDF です。紙図面をスキャナで取込んで PDF にした場合など、線分や文字がイメージとして表示される PDF を表します。

ベクタ PDF とラスタ PDF の違いについて

ベクタ PDF は、線分や文字の情報を保持しているため、Vector Master で各要素を編集することができます。

ラスタ PDF を Vector Master で開いた場合、図面内の要素は画像データとなります。そのため、一部の線分や文字のみを選択して編集を行うことはできません。

ラスタ PDF についても弊社取り扱い製品である ScanWave Lite でラスタデータをベクトルデータに変換することで、各要素を編集することができます。

文字のあつかいについて

PDF の文字には、通常の文字データとフォントが埋め込まれたデータがあります。Vector Master で PDF を開いた場合、通常の文字データは文字として表示され、埋め込みフォントは面塗りまたはイメージとして表示されます。

セキュリティについて

PDF には、パスワードによってセキュリティがかけられたデータがあります。Vector Master では、パスワードを入力することで文書にセキュリティがかかった PDF を開くことができます。編集や印刷などの機能に対して制限のある PDF については読込むことはできません。

2

PDF を開く

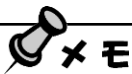
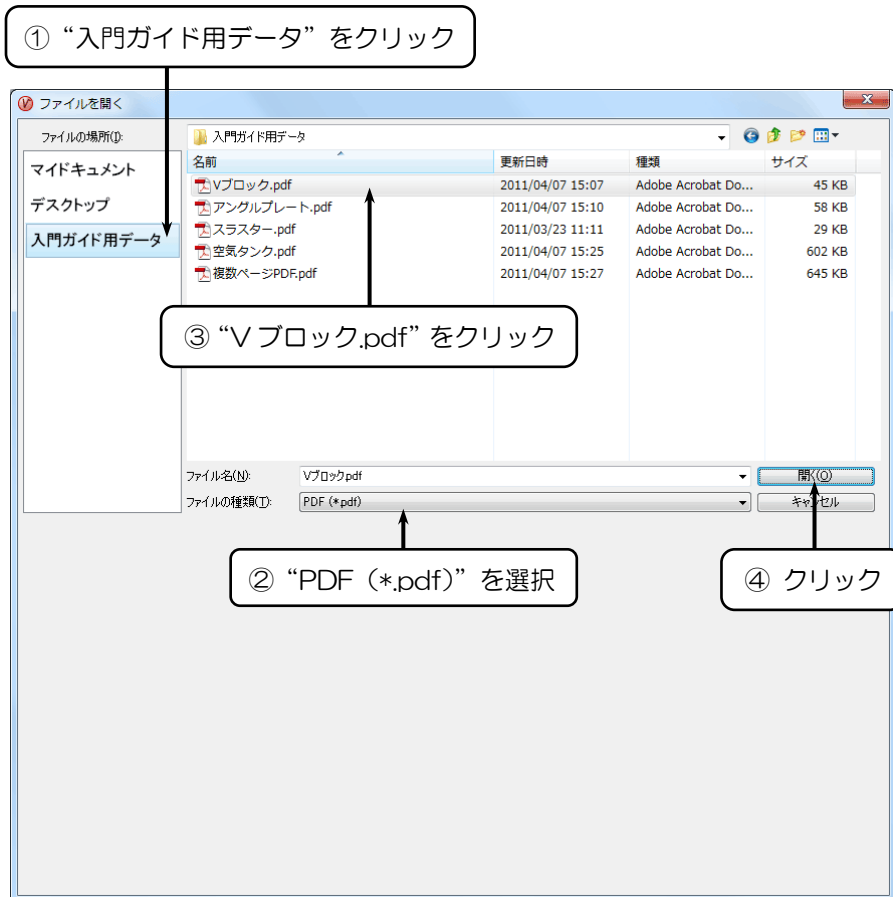
PDF の開き方を覚えましょう

1. Vector Master を起動します。
2. 【PDF 変換リボンバー】 → 【PDF を開く】 を選択します。



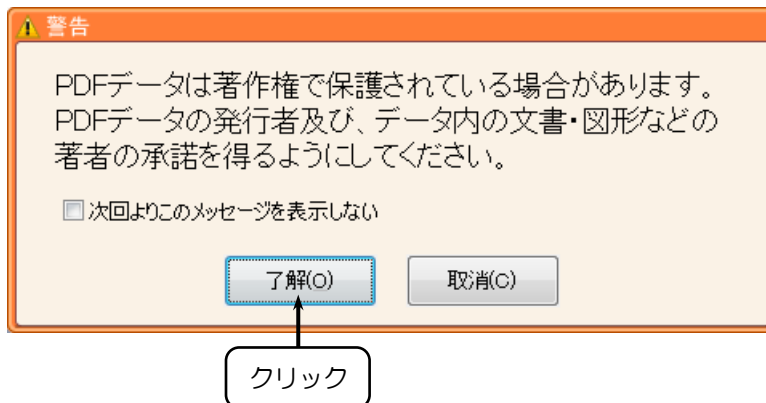
次のページへ続く

- 『ファイルを開く』ダイアログボックスが表示されます。
- “V ブロック.pdf” を選択し、〈開く (O)〉をクリックします。



サンプルの図面は標準でインストールした場合、“C:¥ANDES Data¥2014 ¥VectorMasterPro¥入門ガイド用データ” に保存してあります。

- 『警告』ダイアログボックスが表示されます。
- 〈了解(O)〉をクリックします。



- PDFが開きます。



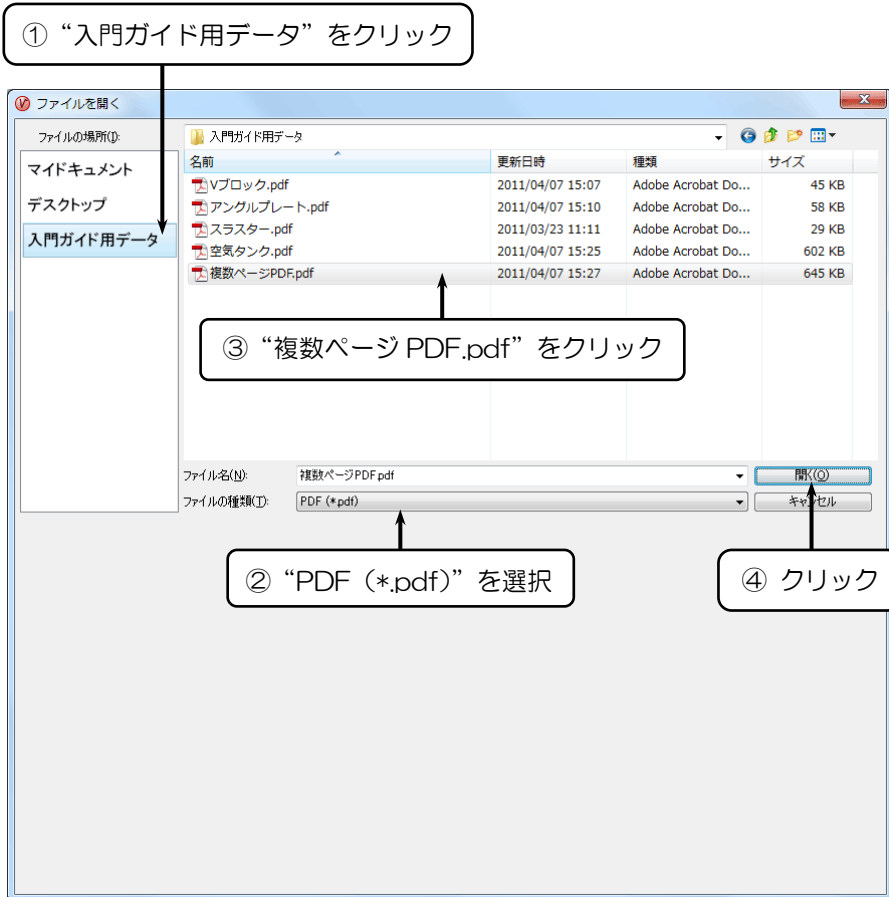
PDFは、Adobe社のAcrobatだけでなく、さまざまな出カソフトで作成されたデータがあります。
Vector Masterで開けないPDFについても、Adobe Reader 9以降でPDFに保存しなおすことで、Vector Masterで開ける場合があります。

複数ページの PDF を開く

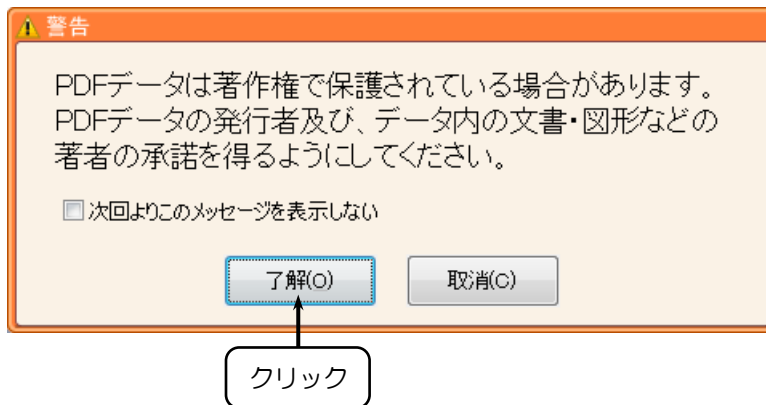
1. 【PDF 変換リボンバー】 → 【PDF を開く】 を選択します。



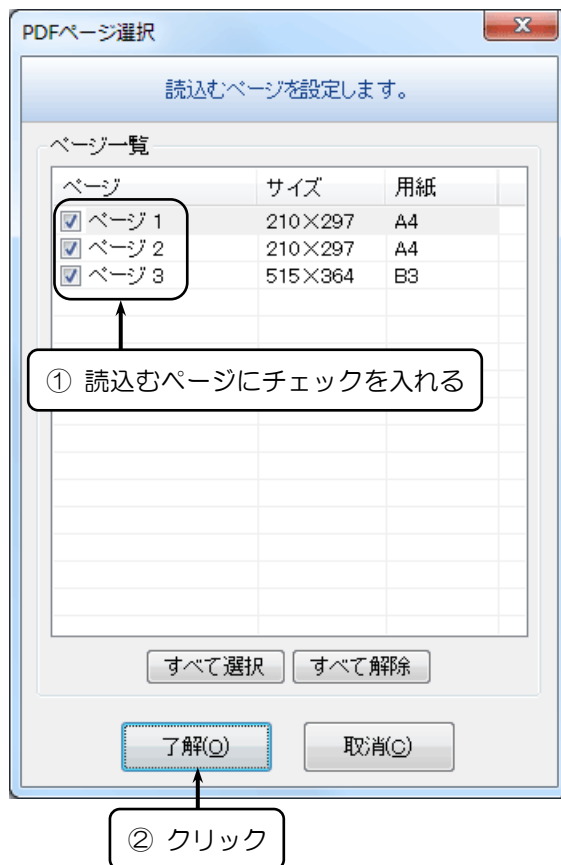
2. 『ファイルを開く』 ダイアログボックスが表示されます。
3. “複数ページ PDF.pdf” を選択し、〈開く (O)〉 をクリックします。



- 『警告』ダイアログボックスが表示されます。
- 〈了解 (O)〉をクリックします。



- 『PDF ページ選択』ダイアログボックスが表示されます。
- 読込むページにチェックを入れ、〈了解 (O)〉をクリックします。

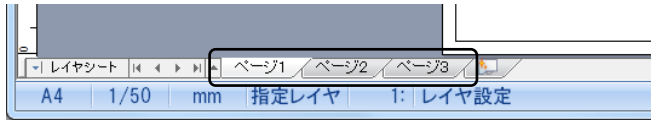


次のページへ続く

9. PDF が開きます。



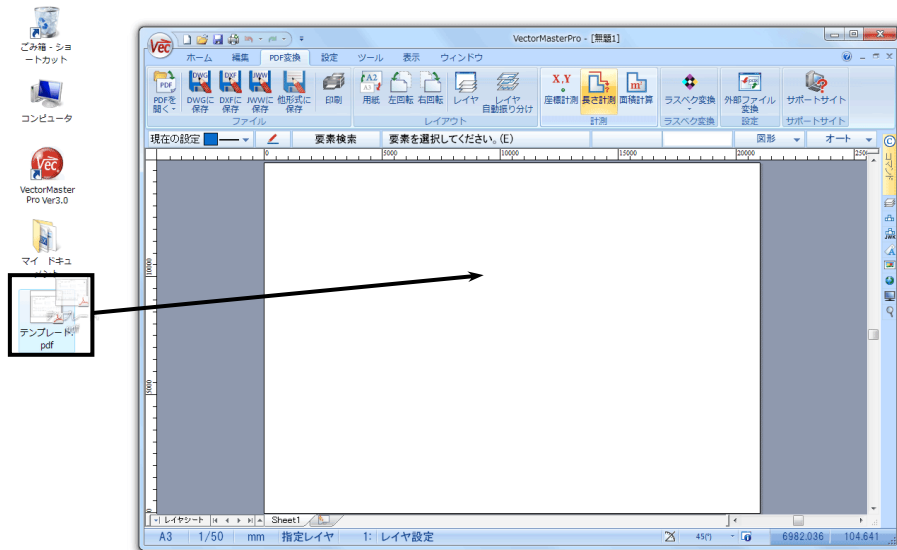
画面左下に表示されているタブをクリックすることで、PDF のページを切替えることができます。この操作をシート切替えと言います。



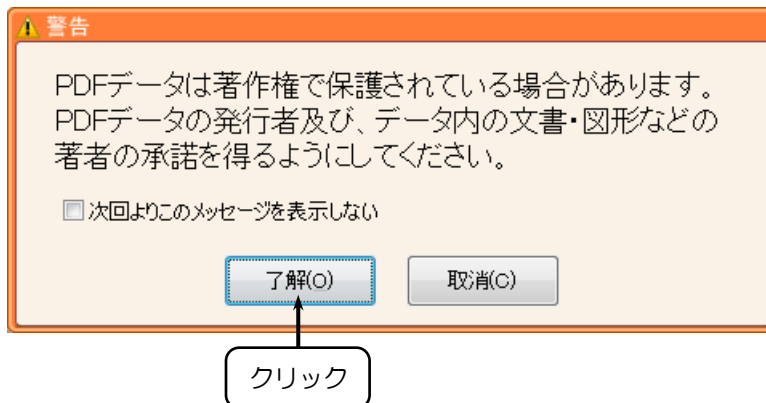
ドラッグ&ドロップで PDF を開く

すでに Vector Master を起動している場合、PDF ファイルをドラッグ&ドロップで開くことができます。

1. PDF を Vector Mater の画面上にドラッグします。



2. 『警告』 ダイアログボックスが表示されます。
3. 〈了解 (O)〉 をクリックします。



4. PDF が開きます。

3

PDF を他の形式に保存する

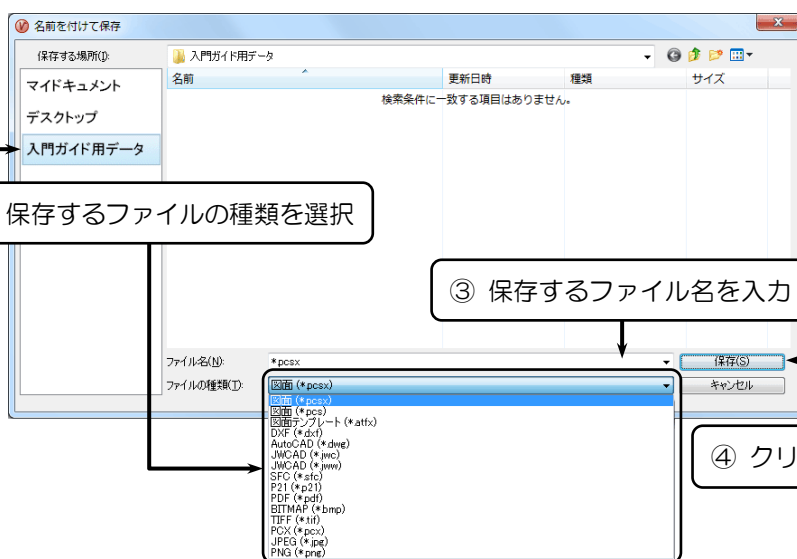
変換する方法を覚えましょう

1. 【PDF 変換リボンバー】 → 【他形式に保存】 を選択します。



2. 『名前を付けて保存』 ダイアログボックスが表示されます。
3. それぞれの項目を設定し、〈保存 (S)〉 をクリックします。

- ① “入門ガイド用データ” をクリック



AutoCAD 用に保存する場合、(*.dxf) (*.dwg) を選択します。
JWCAD 用に保存する場合、(*.jwc) (*.jww) を選択します。



必ず、ファイルの名前と保存場所を確認しましょう。



- Vector Master は以下のファイル形式に対応しています。

入力ファイル形式

PDF (※)・PCSX・PCS・DWG・DXF・JWW・JWC・SFC・P21

※ 一部のPDF や、編集や印刷などの権限が暗号化されたPDF には対応していません。

出力ファイル形式

PDF・PCSX・PCS・DWG・DXF・JWW・JWC・SFC・P21

- ファイルの種類

PDF.....PDF ファイル

PCSXVector Master 図面ファイル

PCS.....Vector Master Ver2.0 以下の図面ファイル

DWGAutoCAD 図面ファイル

DXF.....DXF 図面ファイル

JWWJW_CAD for Windows 図面ファイル

JWC.....JW_CAD 図面ファイル

SFC.....IOS 国際規格 STEP/AP202 に準拠した標準フォーマット

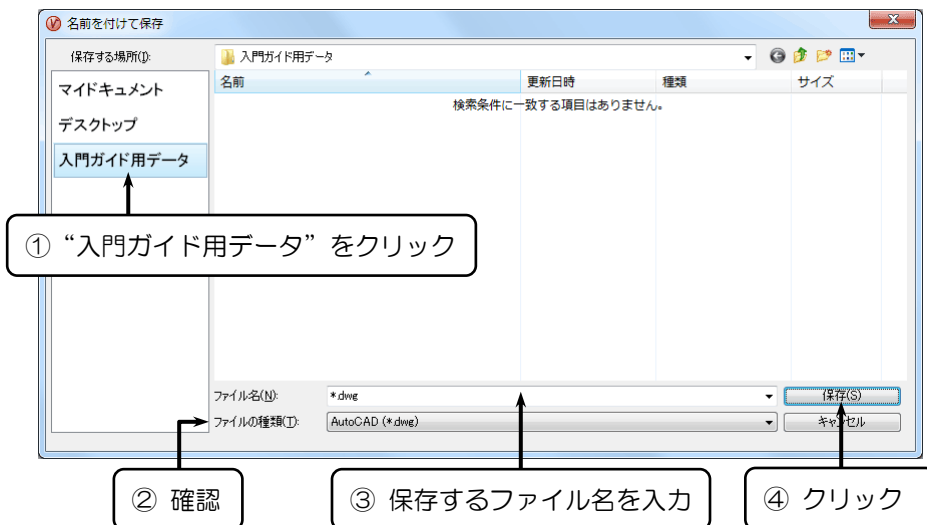
P21.....STEP のルールに準拠した電子納品時の正式ファイル

AutoCAD の形式に保存する

1. 【PDF 変換リボンバー】 → 【DWG に保存】 を選択します。

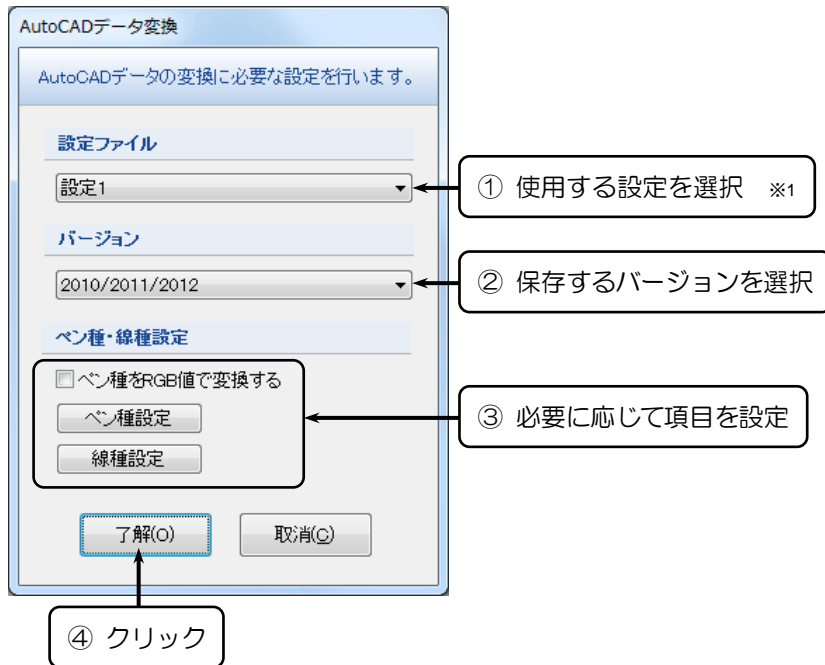


2. 『名前を付けて保存』 ダイアログボックスが表示されます。
3. それぞれの項目を設定し、〈保存 (S)〉 をクリックします。



“AutoCAD (*.dwg)” または “DXF (*.dxf)” が選択されているか確認しましょう。

4. 『AutoCAD データ変換』 ダイアログボックスが表示されます。
5. [設定ファイル] より使用する設定をリストより選択します。
6. [バージョン] より保存する AutoCAD のバージョンを選択します。
7. 必要に応じてペン種・線種の設定を変更し、〈了解(O)〉をクリックします。



※1 使用する設定を【外部ファイル変換】で追加・変更することができます。

JWCAD の形式に保存する

1. 【PDF 変換リボンバー】 → 【JWW に保存】 を選択します。



2. 『名前を付けて保存』ダイアログボックスが表示されます。
3. それぞれの項目を設定し、〈保存 (S)〉をクリックします。



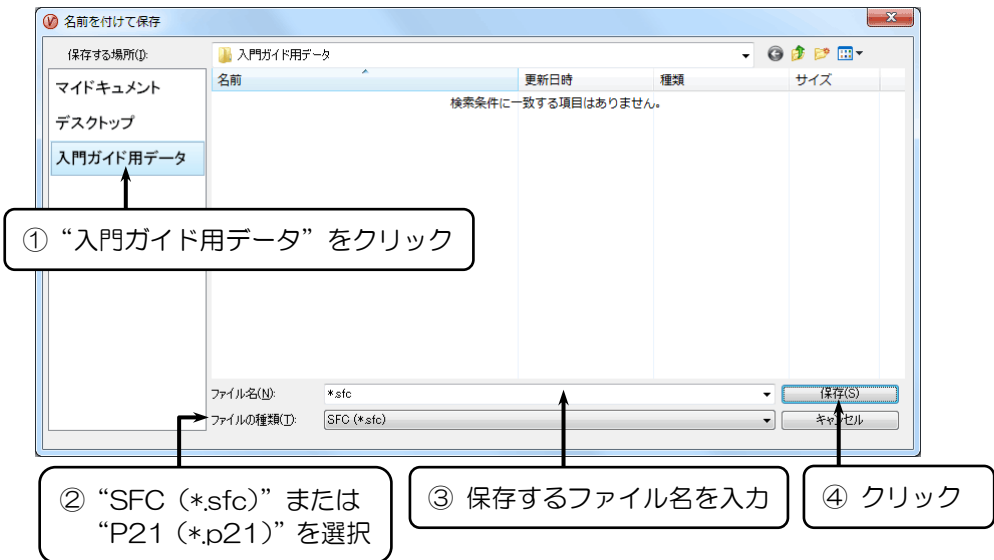
“JWCAD (*.jww)” または “JWCAD (*.jwc)” が選択されているか確認しましょう。

SXF の形式に保存する

1. 【PDF 変換リボンバー】 → 【他形式に保存】 を選択します。




2. 『名前を付けて保存』ダイアログボックスが表示されます。
 3. それぞれの項目を設定し、〈保存 (S)〉をクリックします。



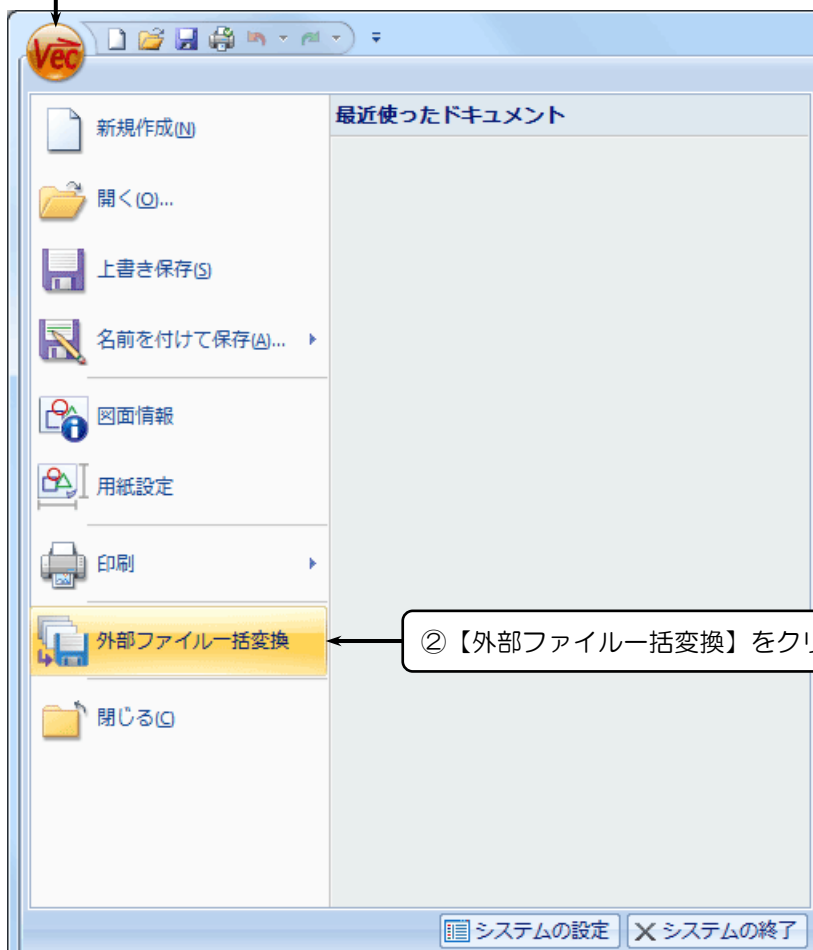
4

PDF を他の形式に一括保存する

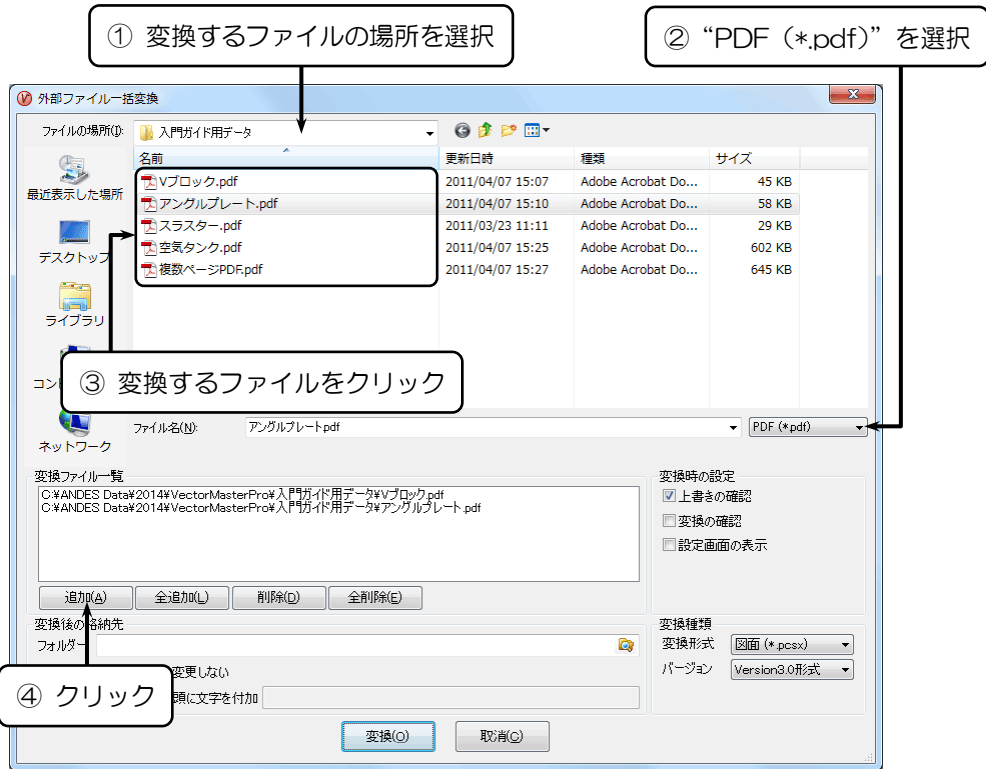
一括で変換する方法を覚えましょう

1.  (アプリケーションボタン) → 【外部ファイル一括変換】を選択します。

① 【アプリケーションボタン】をクリック




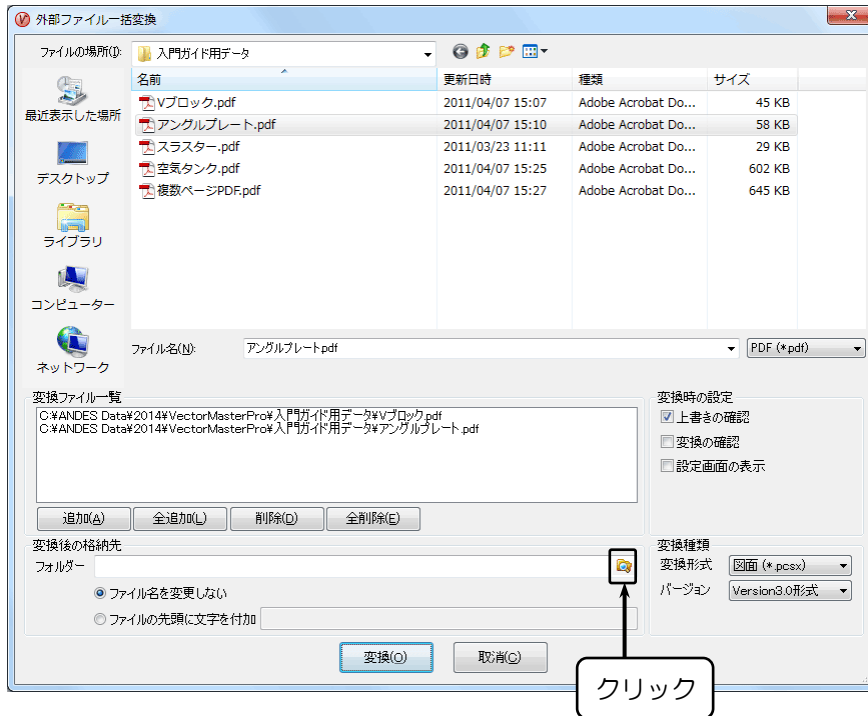
- 『外部ファイル一括変換』ダイアログボックスが表示されます。
- 変換するファイル名を選択し、〈追加 (A)〉をクリックします。



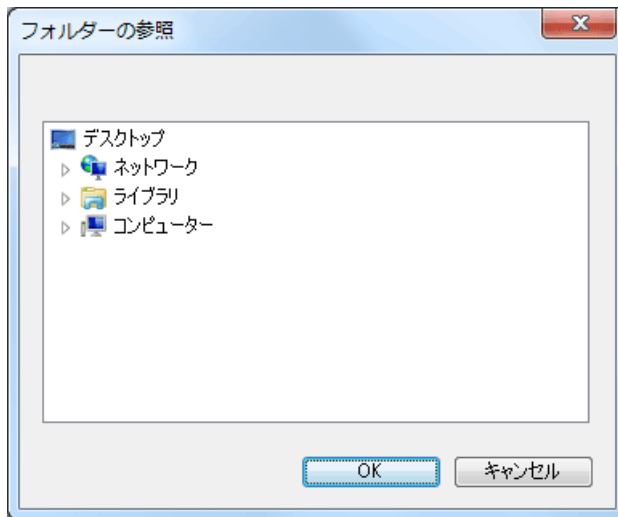
複数のファイルを同時に変換する場合、〈SHIFT〉キーを押しながらファイルを選択します。また、〈CTRL〉キーを押しながら認識しているファイルを選択すると、認識を解除します。

次のページへ続く

4. [変換後の格納先] の  をクリックします。

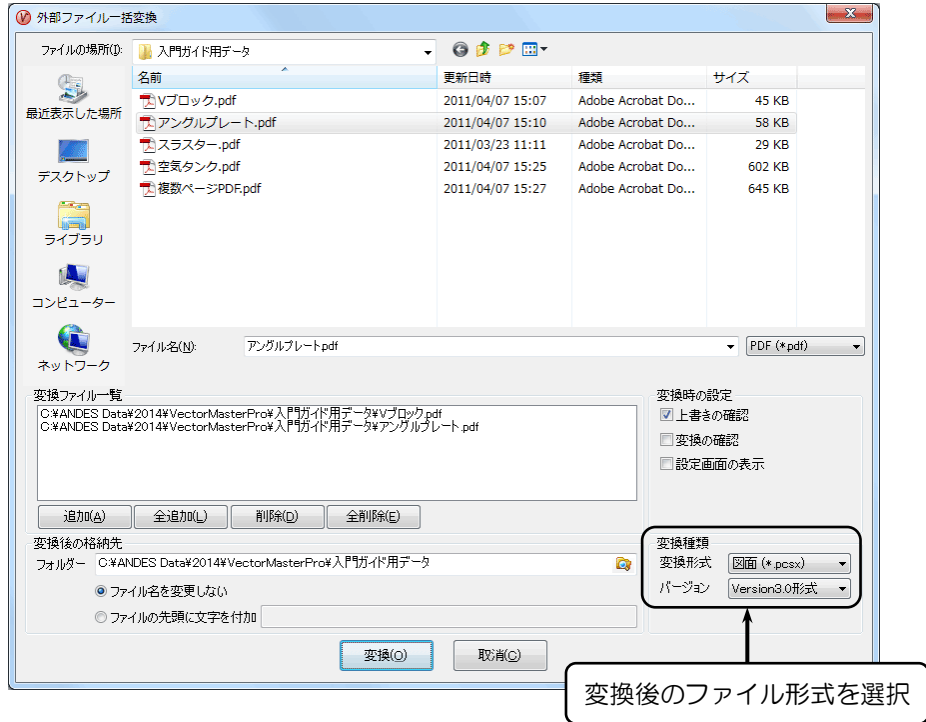


5. 『フォルダの参照』ダイアログボックスが表示されます。



6. 変換後のファイルを格納するパスを指定し、〈OK〉をクリックします。

7. [変換種類] より、変換後のファイル形式を選択します。



AutoCAD 形式に保存する

AutoCAD の形式に保存する場合、“DXF (*.dxf)”
または“AutoCAD (*.dwg)”を選択します。

JWCAD 形式に保存する

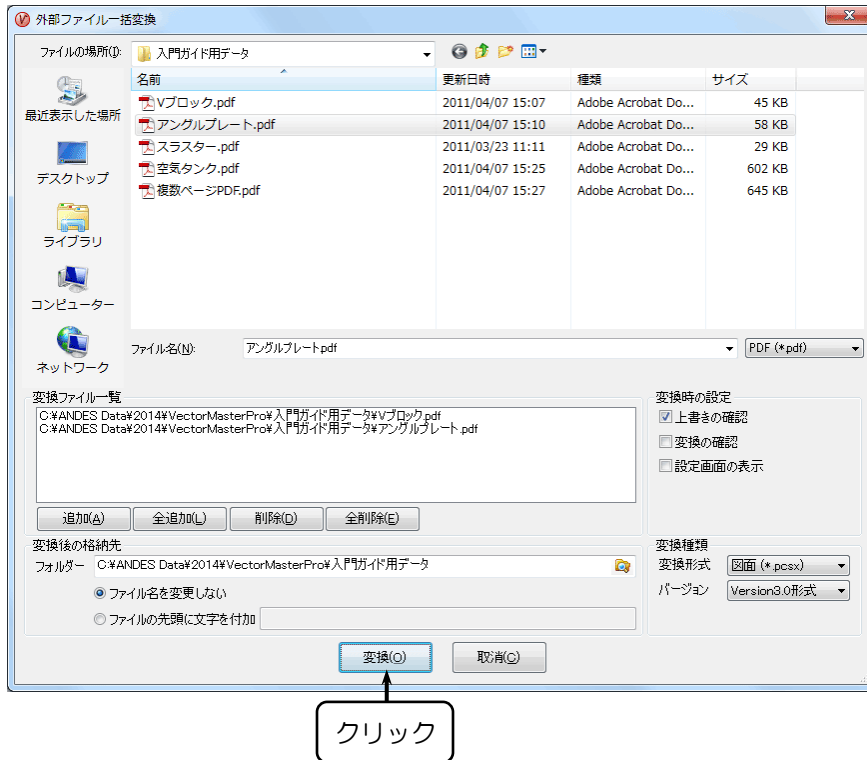
JWCAD の形式に保存する場合、“JWCAD (*.jwc)”
または“JWCAD (*.jww)”を選択します。

SXF 形式に保存する

SXF の形式に保存する場合、“SXF (*.sfc)”または
“P21 (*.p21)”を選択します。

次のページへ続く

8. 必要に応じて項目を設定し、〈変換 (O)〉をクリックします。



5

ドラッグ&ドロップで他の形式に保存する

ドラッグ&ドロップで PDF を他の形式に保存する方法を覚えましょう

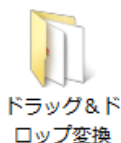
注意



Vector Master Pro を終了させておきましょう。

1. デスクトップ上にある【ドラッグ&ドロップ変換】フォルダをダブルクリックします。

ダブルクリック



2. 下図のようなダイアログボックスが表示されます。



※ アイコンの表示方法は設定によって異なります。

3. PDF ファイルを変換先のショートカットにドラッグ&ドロップします。



※ 例) PDF ファイルを DWG ファイルへ変換する場合

次のページへ続く



PDF→DWG

PDF ファイルを DWG に変換する場合、ショートカットのアイコンにドラッグ&ドロップします。



PDF→DXF

PDF ファイルを DXF に変換する場合、ショートカットのアイコンにドラッグ&ドロップします。



PDF→JWW

PDF ファイルを JWW に変換する場合、ショートカットのアイコンにドラッグ&ドロップします。



PDF→P21

PDF ファイルを P21 に変換する場合、ショートカットのアイコンにドラッグ&ドロップします。



PDF→SFC

PDF ファイルを SFC に変換する場合、ショートカットのアイコンにドラッグ&ドロップします。




PDF→PCSX

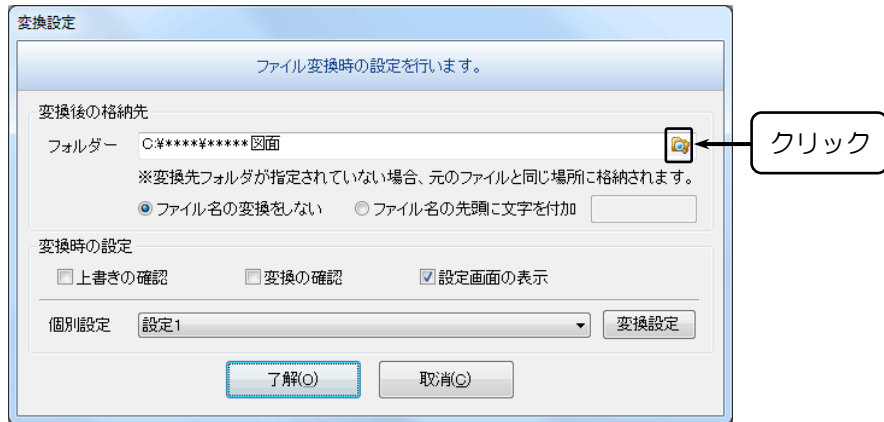
PDF ファイルを PCSX に変換する場合、ショートカットのアイコンにドラッグ&ドロップします。



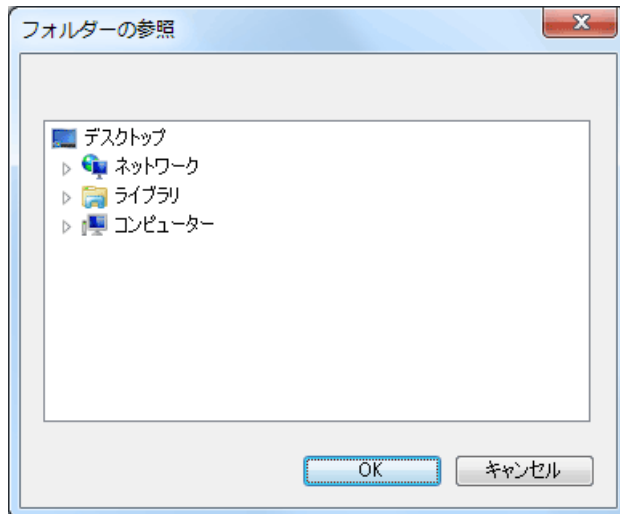
PDF→PCS

PDF ファイルを PCS に変換する場合、ショートカットのアイコンにドラッグ&ドロップします。

4. 『変換設定』 ダイアログボックスが表示されます。
5. [変換後の格納先] の  をクリックします。

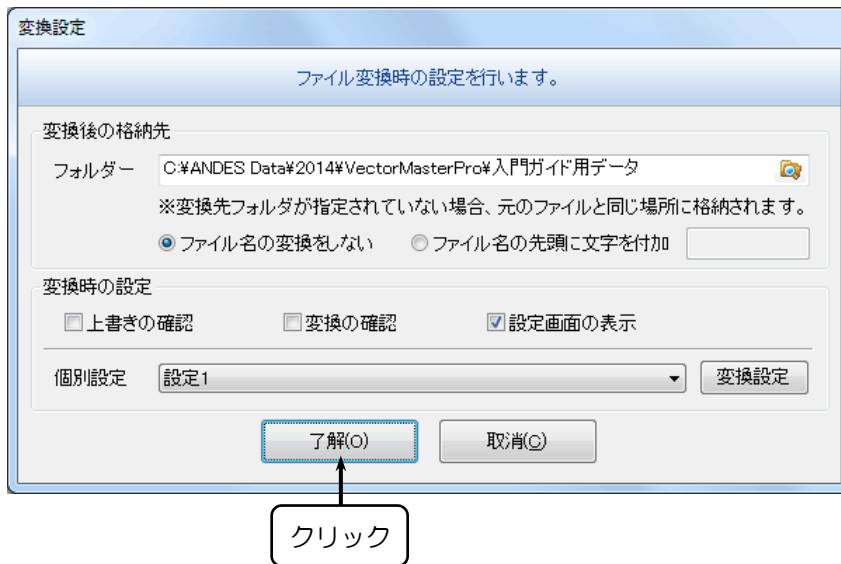


6. 『フォルダの参照』 ダイアログボックスが表示されます。



7. 変換後のファイルを格納するパスを指定し、〈OK〉をクリックします。

8. 必要に応じて項目を設定し、〈了解(O)〉をクリックします。



6

ラスタデータをベクタデータに変換する

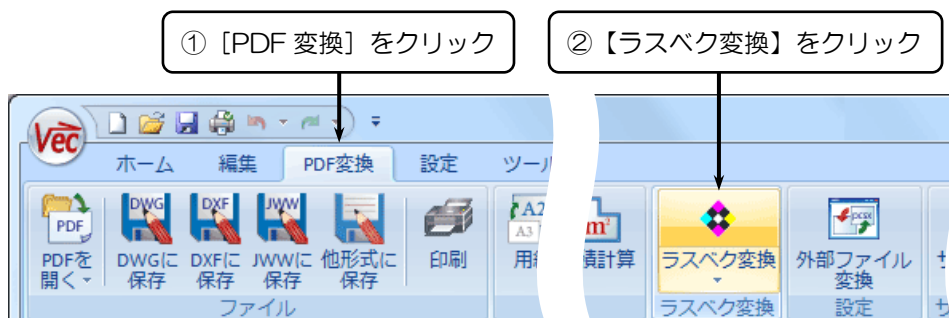
ラスタデータをベクタデータに変換する方法を覚えましょう

ラスベク変換を起動させる



ラスベク変換を行うためには、ScanWave Lite が必要になります。

1. 【PDF 変換リボンバー】 → 【ラスベク変換】 を選択します。



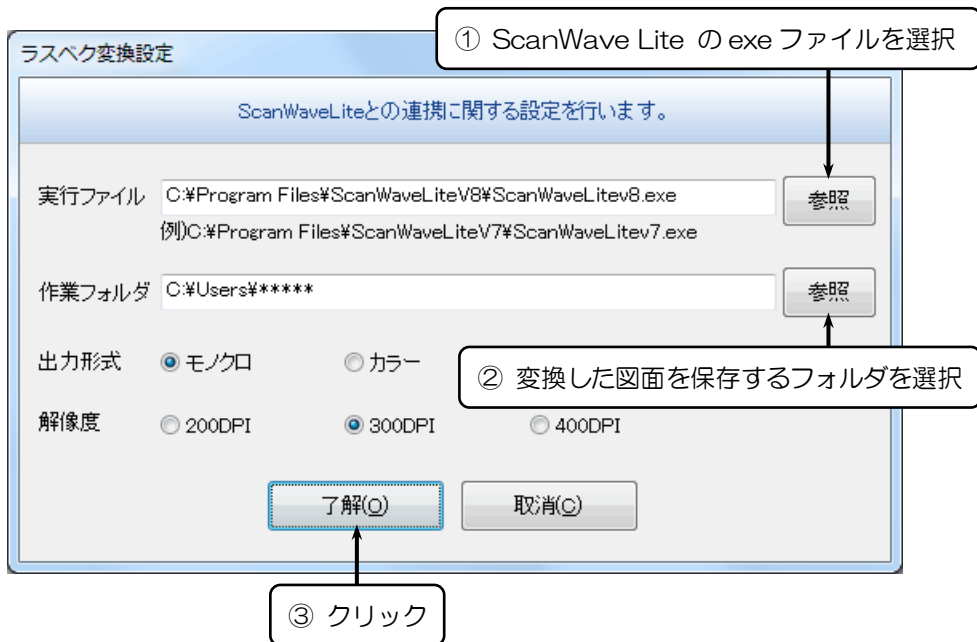
2. ScanWave Lite が起動します。

ラスベク変換の設定を変更する

1. 【PDF 変換リボンバー】 → 【ラスベク変換▼】 → 【ラスベク変換設定】 を選択します。



2. 『ラスベク変換設定』ダイアログボックスが表示されます。
3. [実行ファイル] および [作業フォルダ] のパスを選択します。
4. 必要に応じて項目を設定し、〈了解 (O)〉をクリックします。



ScanWave Lite は、標準インストールした場合、[実行ファイル] のパスは “C:\Program Files\ScanWave Lite\ScanWave Lite v8.exe” になります。

7

PDFの変換設定について

PDFの変換設定について覚えましょう

読み込みの設定について



PDF図面を読み込む際の環境設定を行います。

外部ファイル変換設定

PDFの変換設定を行います。

文字の変換設定

読み込み

設定パターン名
設定1

該当するフォントがない場合の変換
MS Gothic

文字列として変換する
 埋込フォントのType3形式を文字として変換する
TrueTypeの曲線分割数 5

レイヤ情報を読み込む
 著作権保護のメッセージを表示する

補正設定

線種パターンとして変換する
 白色の面塗りデータを除外する
 ベジェ曲線を円・円弧に変換する
最小半径 1 (mm)
 ポリラインを円・円弧に変換する
最小辺数 10

書き込み

用紙/倍率設定

用紙サイズを変換する
元の用紙サイズ A3 → 変換後の用紙サイズ A4サイズ
倍率 1 (倍) 用紙サイズに合わせる

補正設定

補正方法 原点を用紙左下に合わせる

オフセットX 0 (mm)
オフセットY 0 (mm)

色指定

印刷の色指定を使用する 色指定

保存後の動作
何もしない

その他

了解(O) 取消(C)

構成要素とその機能

[文字の変換設定]

該当するフォントがない場合の変換…………… 該当するフォントがない場合、代替のフォントをリストより選択します。

文字列として変換する…………… 一行の文字列を、一つの文字列として変換する場合、チェックを入れます。

埋込フォントのType3形式を文字として変換する

…………… 埋込フォントのType3形式を文字として変換する場合、チェックを入れます。



チェックをはずした場合、文字の形状をイメージとして変換します。

TrueTypeの曲線分割数…………… 埋込フォントの外形曲線の分割数を入力します。



曲線分割数は、“3”～“10”の数値を入力してください。



- 分割数を少なくした場合、粗い折れ線になりますが、データ量は小さくなります。
- 分割数を多くした場合、滑らかな折れ線になりますが、データ量は大きくなります。

[補正設定]

線種パターンとして変換する…………… 線分の並びから破線や1点鎖線などの線種パターンに補正を行い変換する場合、チェックを入れます。



チェックをはずした場合、線種パターンは1本ずつ展開された線分に変換されます。

白色の面塗りデータを除外する…………… 背景など、白色の面塗りデータを変換しない場合、チェックを入れます。

- ペジエ曲線を円・円弧に変換する…… 形状が円・円弧に近いベジエ曲線を円・円弧として変換する場合、チェックを入れ、[最小半径] にベジエ曲線を円・円弧として変換する最小半径を入力します。



[最小半径] より小さい半径の円・円弧は、ベジエ曲線のまま変換されます。

- ポリラインを円・円弧に変換する…… ポリラインを円・円弧に変換する場合、チェックを入れ、[最小辺数] にポリラインを円・円弧として変換する最小辺数を入力します。



[最小辺数] より少ない辺数の円・円弧は、ポリラインのまま変換されます。

[その他]

- レイヤ情報を読み込む…………… レイヤ情報を反映して変換する場合、チェックを入れます。
- 著作権保護のメッセージを表示する…… PDF ファイルを変換する前に、著作権保護の確認メッセージを表示する場合、チェックを入れます。

8

AutoCAD の保存設定について

AutoCAD の保存設定について覚えましょう



PDF を AutoCAD 形式に保存する場合、環境設定を調整することで、より仕上がりのよい AutoCAD 形式のデータになります。

保存時の設定について

The screenshot shows the 'AutoCADデータ変換' dialog box with the following settings and callouts:

- 設定ファイル**: 設定1
- バージョン**: 2010/2011/2012 (Callout: バージョン)
- ペン種・線種設定**:
 - ペン種をRGB値で変換する (Callout: ペン種をRGB値で変換する)
 - ペン種設定 (Callout: ペン種設定)
 - 線種設定 (Callout: 線種設定)
- Buttons: 了解(O) and 取消(C)

構成要素とその機能

[バージョン]

バージョン 保存する AutoCAD のバージョンを選択します。
ご使用の AutoCAD または取引先の AutoCAD の
バージョンを選択してください。

[ペン種・線種・線幅設定]

ペン種を RGB 値で変換する PDF を読込んだ場合、AutoCAD のペン番号に対応
する RGB 値と異なっています。AutoCAD 上で色
そのまま表示する場合、チェックを入れます。

〈ペン種設定〉 ANDES のペン種と AutoCAD でのペン番号の対応付け
を行う場合、クリックします。『ペン種変換設定』
ダイアログボックスが表示されます。

〈線種設定〉 ANDES の線種と AutoCAD での線種のパターンの対応
付けを行う場合、クリックします。『線種変換設定』
ダイアログボックスが表示されます。

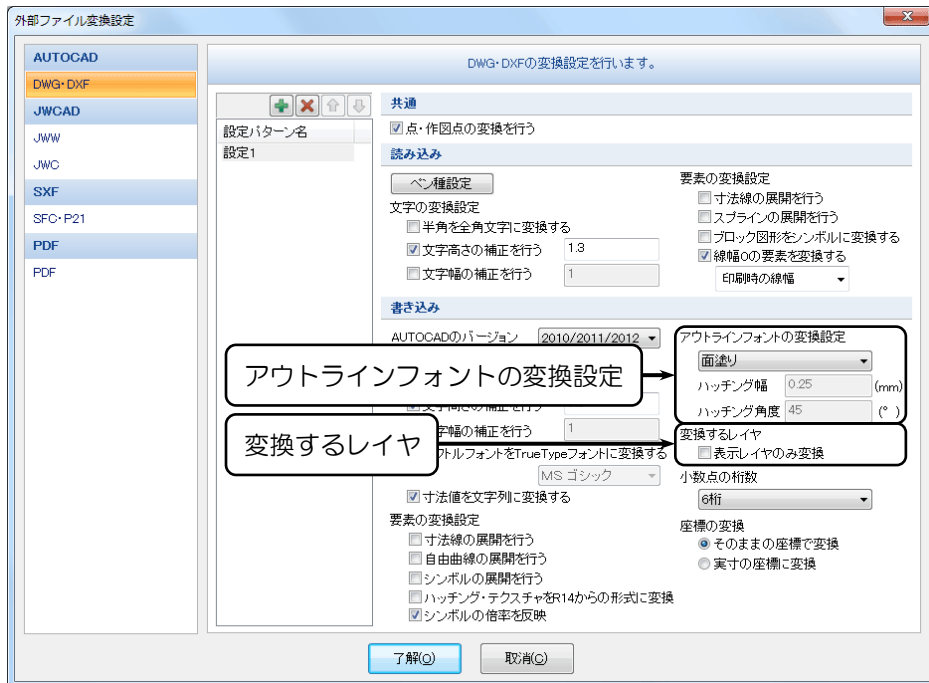
9

AutoCAD の変換設定について

AutoCAD 変換の環境設定について覚えましょう



図面を DWG または DXF に変換する際の環境設定を行います。



アウトラインフォントの変換設定

変換するレイヤ

構成要素とその機能

[アウトラインフォントの変換設定]

アウトラインフォントの変換方法…………… AutoCAD に変換する際、アウトラインフォントの変換方法をリストより選択します。

[変換するレイヤ]

表示レイヤのみ変換…………… 表示されているレイヤのみ変換する場合、チェックを入れます。



複数ページある図面に対し、現在表示されているページのみ変換する場合、チェックを入れます。

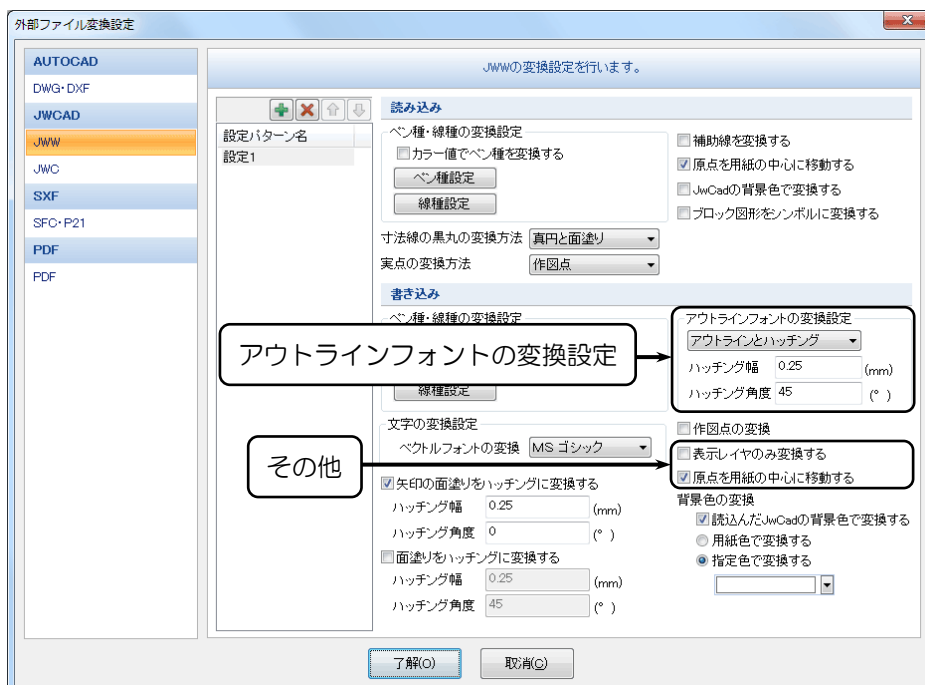
10

JWCAD の変換設定について

JWCAD 変換の環境設定について覚えましょう



図面を JWCAD に変換する際の環境設定を行います。



構成要素とその機能

[アウトラインフォントの変換設定]

アウトラインフォントの変換方法…………… JWCAD に変換する際、アウトラインフォントの変換方法をリストより選択します。

[その他]

表示レイヤのみ変換する…………… 表示されているレイヤのみを変換する場合、チェックを入れます。



複数ページある図面に対し、現在表示されているページのみ変換する場合、チェックを入れます。

原点を用紙の中心に移動する…………… 原点を用紙の中心に移動する場合、チェックを入れます。



JWCAD で表示したとき、用紙枠内に納める場合、チェックを入れます。

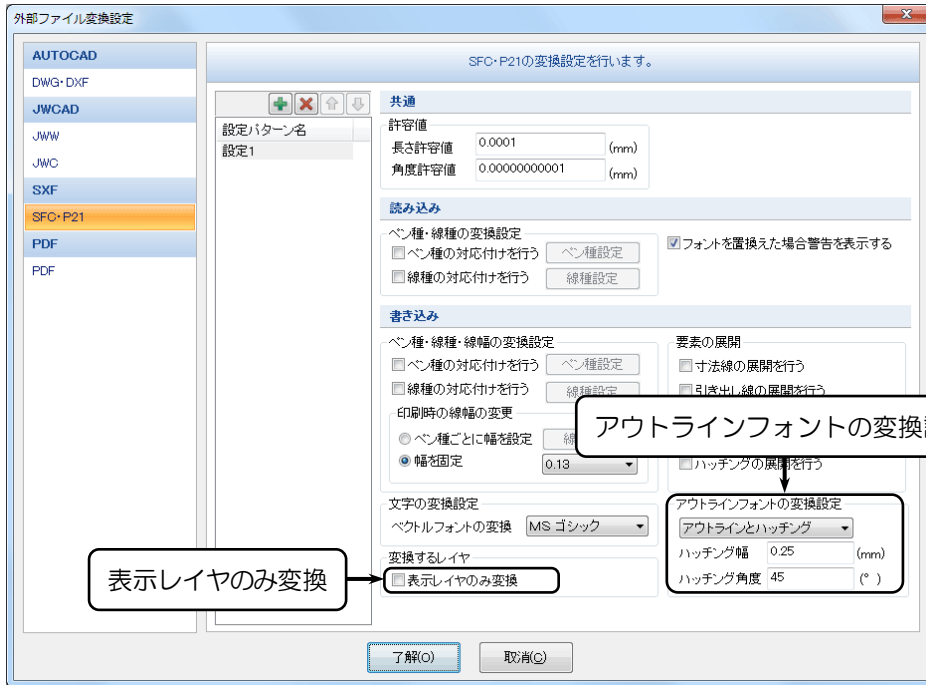
11

SXF の変換設定について

SXF 変換の環境設定について覚えましょう



図面を SXF に変換する際の環境設定を行います。



構成要素とその機能

[アウトラインフォントの変換設定]

アウトラインフォントの変換方法…… SXF に変換する際、アウトラインフォントの変換方法をリストより選択します。

[変更するレイヤ]

表示レイヤのみ変換…… 表示されているレイヤのみを変換する場合、チェックを入れます。



複数ページある図面に対し、現在表示されているページのみ変換する場合、チェックを入れます。



作図編


●● この章の内容 ●●

1. 保存図面を開く 86
2. 線を描く 89
 - 単線を描く 89
 - コマンドを終了する 92
 - 決まった長さの単線を描く 93
 - 水平な線を描く 97
 - 連続線を描く 100
3. 四角形を描く 103
4. 異なる線で描く 106
 - ペン種・線種・線幅・透過の
設定を元に戻す 108
5. 円を描く 110
 - レイヤシートを切替える 110
 - 円を描く 112
 - 決まった半径の円を描く 115
 - 円弧を描く 117
6. 文字を配置する 121
 - 文字を配置する 121
 - 大きさを変えて文字を配置する... 123
7. 寸法線を記入する 125
 - 単一寸法線を記入する 125
 - 直径寸法線を記入する 128
 - 半径寸法線を記入する 130
8. イメージを配置する 132
 - レイヤシートを切替える 132
 - イメージをファイルから読み込み、
図面上に配置する 134
 - イメージをスキャナから読み込み、
図面上に配置する 137
9. 長さを測る 140
 - レイヤシートを切替える 140
 - 長さを測る 141

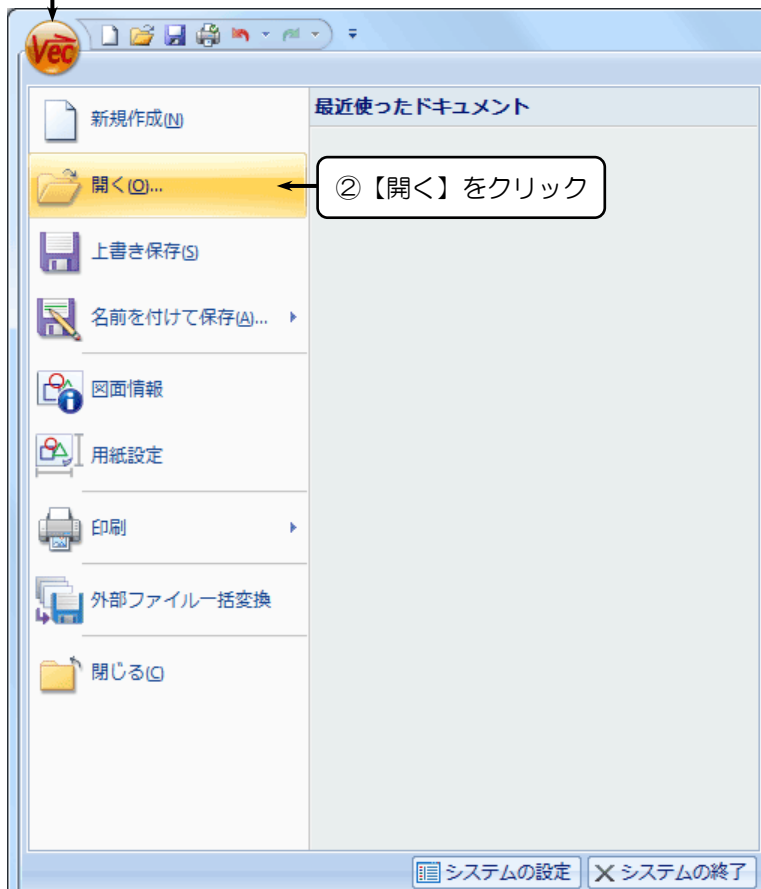
1


保存図面を開く

参考図面を開いてみましょう

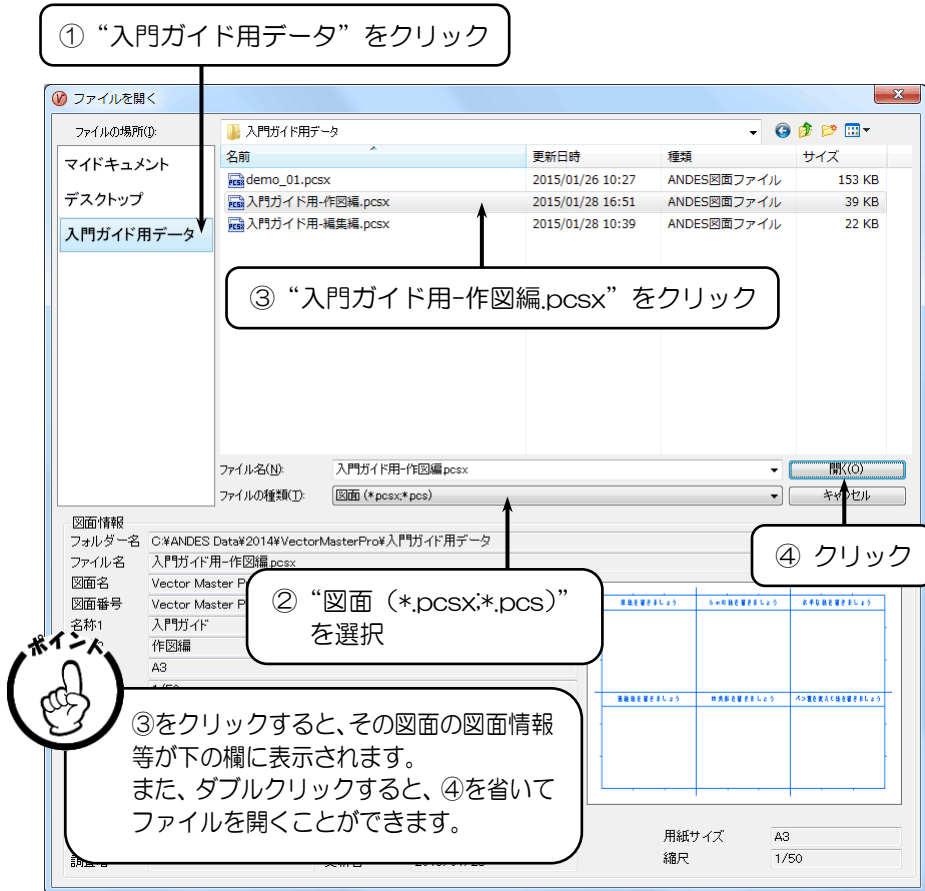
1. Vector Master を起動します。
2.  (アプリケーションボタン) → 【開く】を選択します。

①【アプリケーションボタン】をクリック



 (【開く】アイコン) がクイックアクセスツールバーに表示されている場合、クリックして同様の操作ができます。

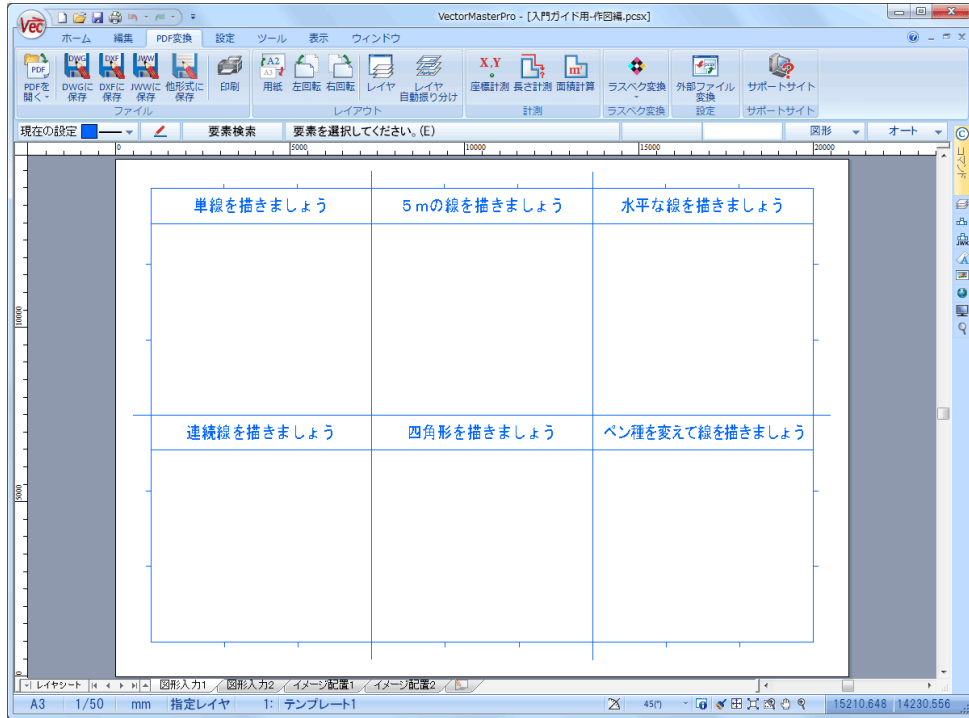
3. 『ファイルを開く』ダイアログボックスが表示されます。
4. “入門ガイド用-作図編.pcsx” を選択し、〈開く (O)〉をクリックします。



メモ
 サンプルの図面は標準でインストールした場合、“C:\ANDES Data\2014\VectorMasterPro\入門ガイド用データ” に保存してあります。

次のページへ続く

5. “入門ガイド用-作図編.pcsx” の図面が開き、画面上に表示されます。



2

線を描く

線分を描く方法を覚えましょう



コマンドを起動し実際に線分を描いてみましょう。
画面を移動させ、“単線を描きましょう”という
箇所を表示してみましょう。

単線を描く

1. 【ホームリボンバー】 → 【線分】 を選択します。

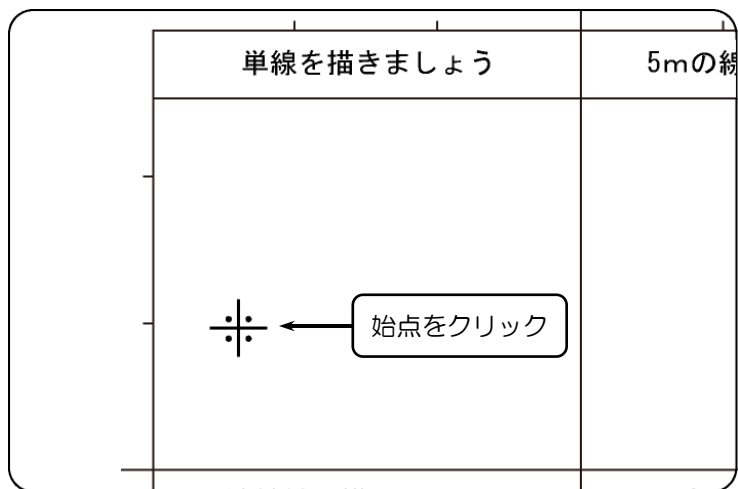


2. 『線分』 リボンバーが表示されます。
3. 『線分』 リボンバーの〈単線〉を選択します。

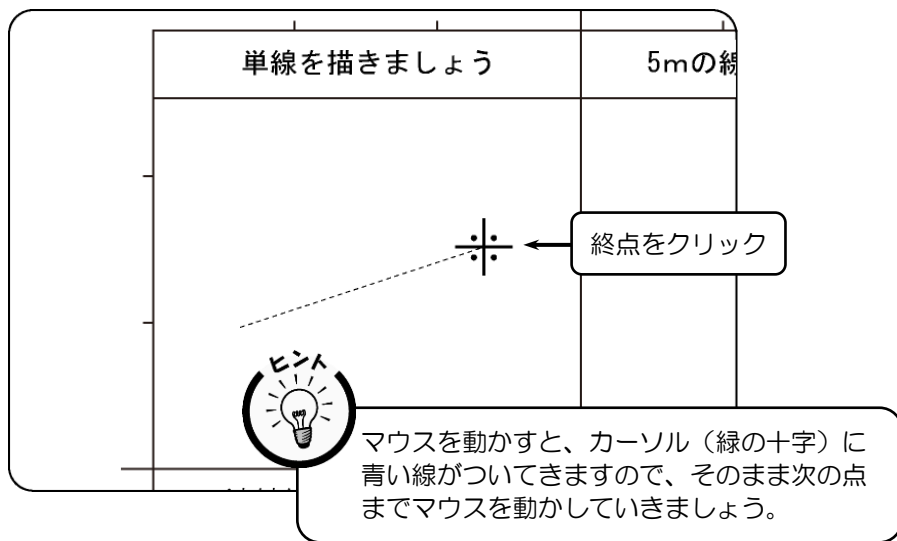


次のページへ続く

4. 「最初の点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
5. 任意に最初の点（始点）をクリックします。





6. 「次の点または長さは？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
7. 線を描く方向にマウスを動かして、任意に次の点（終点）をクリックします。

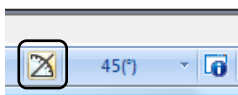


クリップ処理が有効になっている場合、カーソルと要素が離れてしまいます。その場合、〈SHIFT〉キーを押しながらマウスを動かすことで、任意の位置に要素を描くことができます。

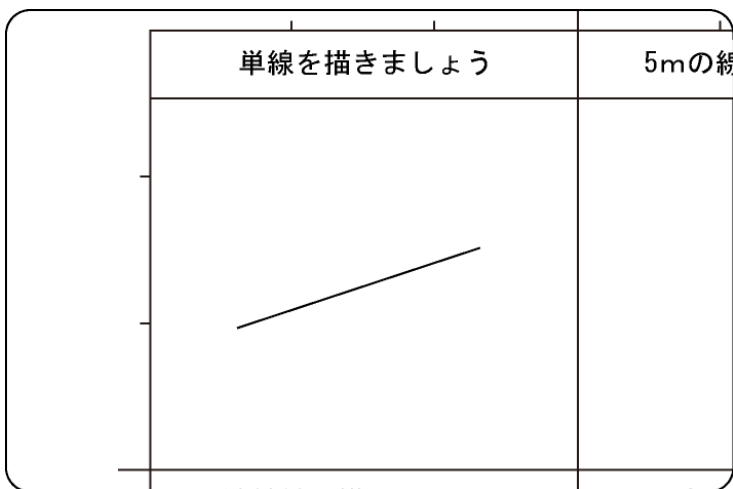


ステータスバーの〈クリップ処理切替〉が  (オレンジ色) の場合、設定したクリップが有効になっています。〈SHIFT〉キーを押すことでクリップを無効にすることができます。

ステータスバーの〈クリップ処理切替〉が  (ステータスバーの色) の場合、設定したクリップが無効になっています。〈SHIFT〉キーを押すことでクリップを有効にすることができます。



8. 単線が描けます。



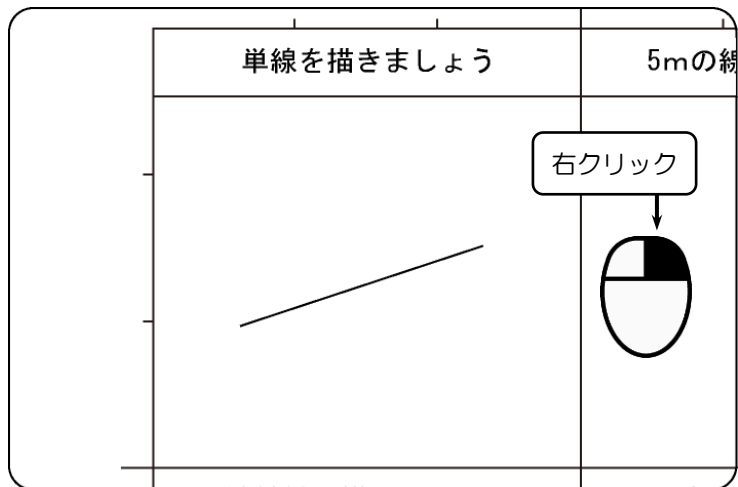
9. 再度「最初の点は？ (P)」とメッセージが表示されます。



何本か単線を描いて練習してみましょう。

コマンドを終了する

1. 画面上で右クリックします。




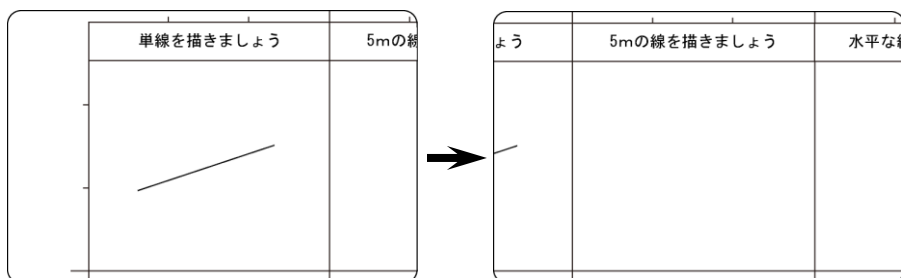
2. 「要素を選択してください。(E)」とメッセージが表示されます。



決まった長さの単線を描く



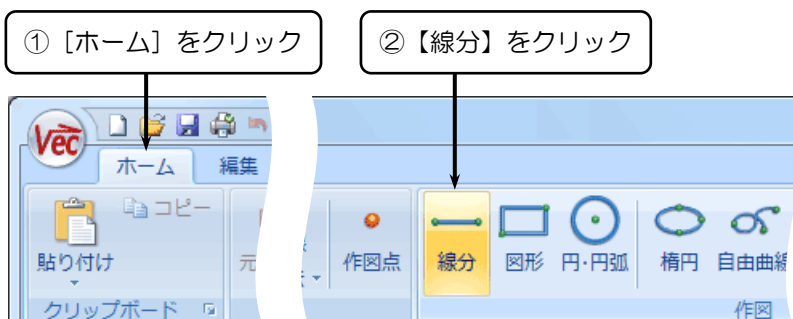
画面を移動させ、“5mの線を描きましょう”という箇所を表示してみましょう。

1. キーボードの  (矢印キー) を押します。
2. 画面が右に移動し、“5mの線を描きましょう”という箇所が表示されます。



 (【用紙枠表示】アイコン)、 (【部分拡大】アイコン) を使用して画面の表示位置を変えることもできます。

3. 【ホームリボンバー】 → 【線分】 を選択します。

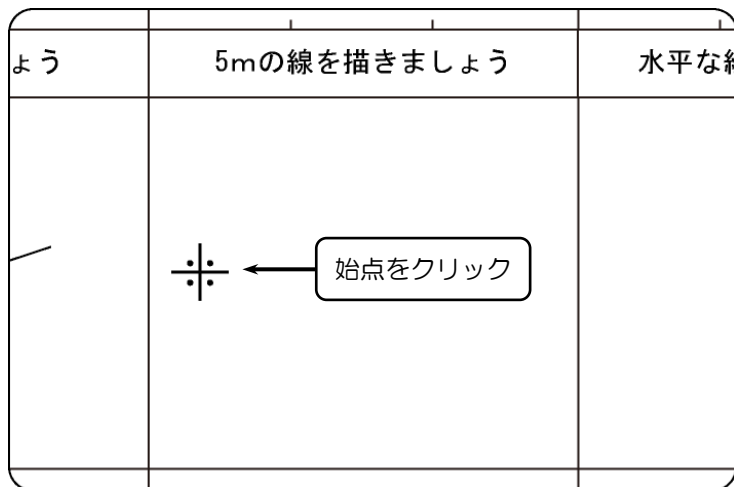


次のページへ続く

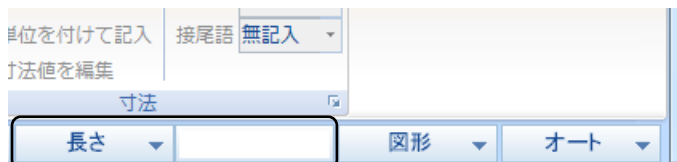
4. 『線分』リボンバーが表示されます。
5. 『線分』リボンバーの〈単線〉を選択します。



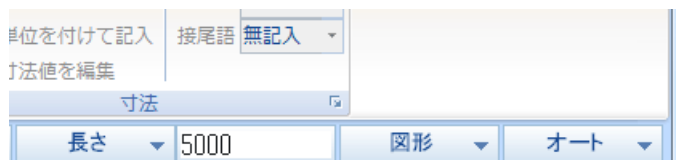
6. 「最初の点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
7. 任意に最初の点 (始点) をクリックします。



8. 「次の点または長さは？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
9. インフォメーションバーが右上に表示されていることを確認してください。



10. 数値を入力し、〈ENTER〉キーを押します。

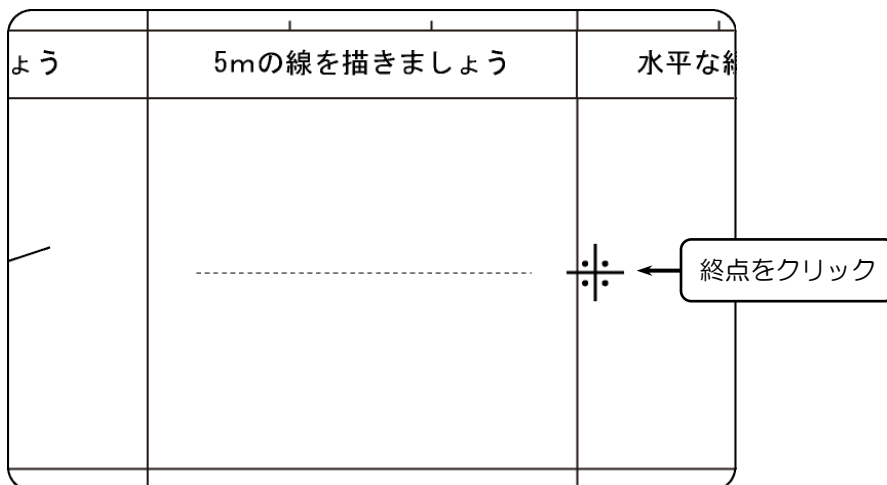


“5000”と入力



今回は、単位の設定をmmにしているので“5000”となります。
数値を入力した後は、必ず〈ENTER〉キーを押してください。



11. 「次の点または角度は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
12. 線を描く方向にマウスを動かして、次の点（終点）をクリックします。



マウスを移動させても5m以上に線が伸びません。
印刷した場合、“1/50”で描いているので10cmになります。

次のページへ続く

13. 5mの線が描けます。

よう	5mの線を描きましょう	水平な線
		



何本か長さを変えて練習してみましょう。

水平な線を描く



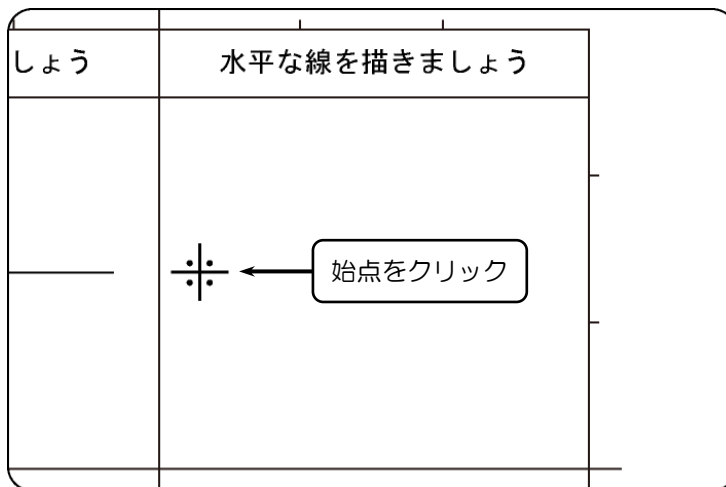
水平な線を描いてみましょう。
画面を移動させ、“水平な線を描きましょう”と
いう箇所を表示してみましょう。

1. 『線分』リボンバーが表示されます。



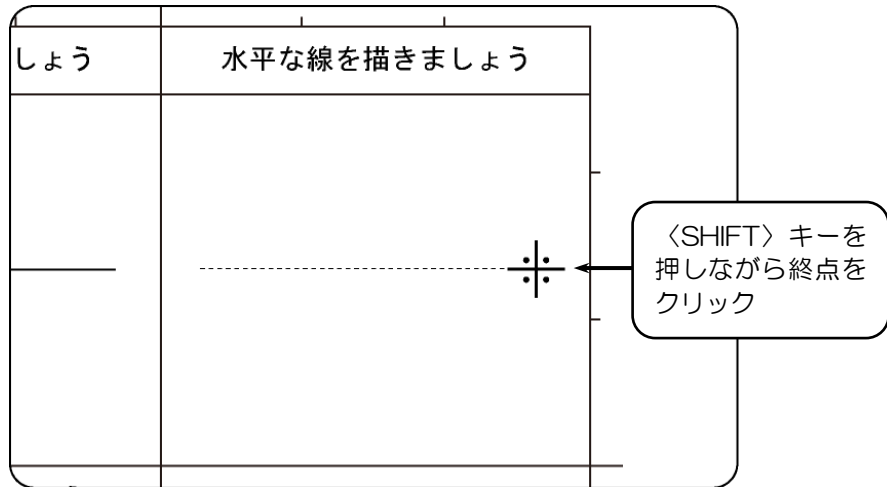
『線分』コマンドを終了している場合、【ホームリボンバー】→【線分】を
選択し『線分』リボンバーを表示させます。

2. 「最初の点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
3. 任意に最初の点（始点）をクリックします。

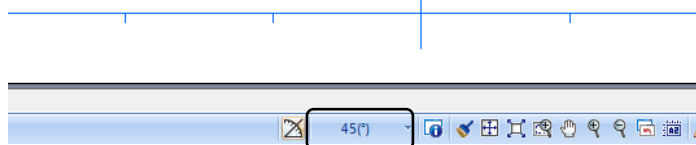


次のページへ続く

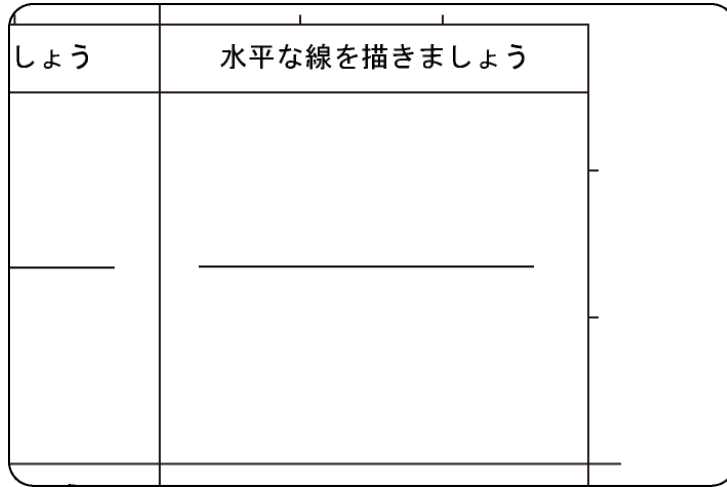
4. 「次の点または長さ？ (P,N)」 とメッセージが表示されます。
5. 〈SHIFT〉 キーを押しながら、線を描く方向にマウスを動かして、任意に次の点（終点）をクリックします。



線の終点をクリックするときにキーボードの〈SHIFT〉キーを押すと、設定したクリップ角度間隔で線を描くことができます。



6. 水平な線が描けます。



メモ

何本か水平、垂直な単線を描いて練習してみましょう。

連続線を描く



画面を移動させ、“連続線を描きましょう”という箇所を表示してみましょう。

1. 『線分』リボンバーが表示されます。



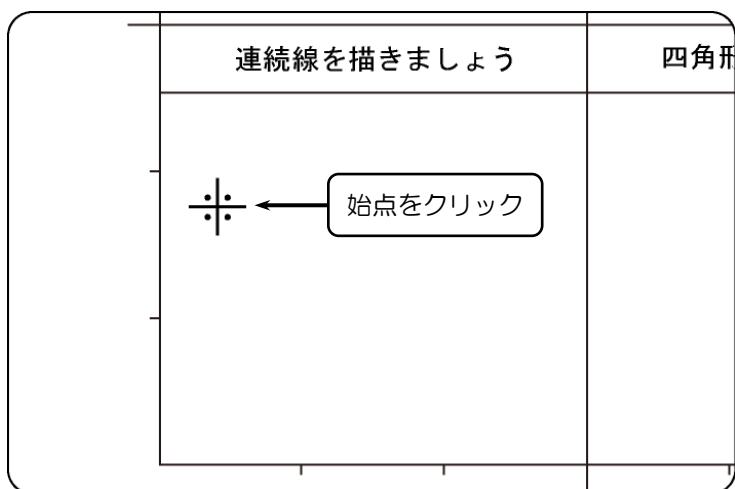
『線分』コマンドを終了している場合、【ホームリボンバー】→【線分】を選択し『線分』リボンバーを表示させます。

2. 『線分』リボンバーの〈連続〉を選択します。

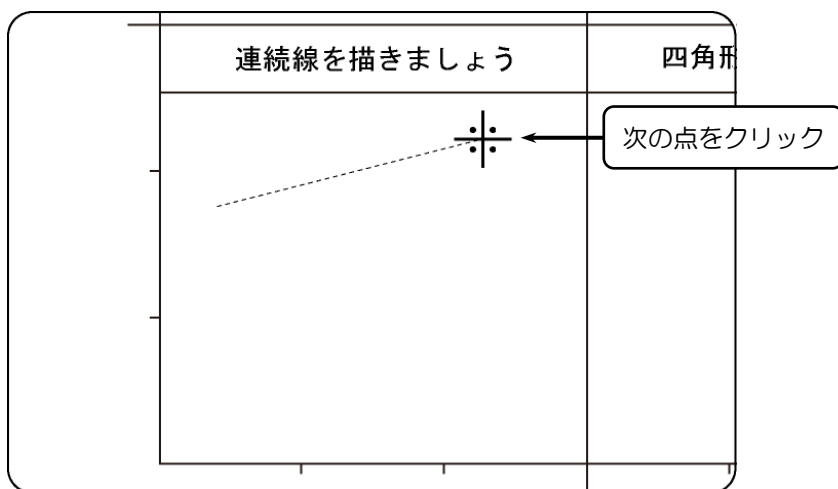
〈連続〉を選択



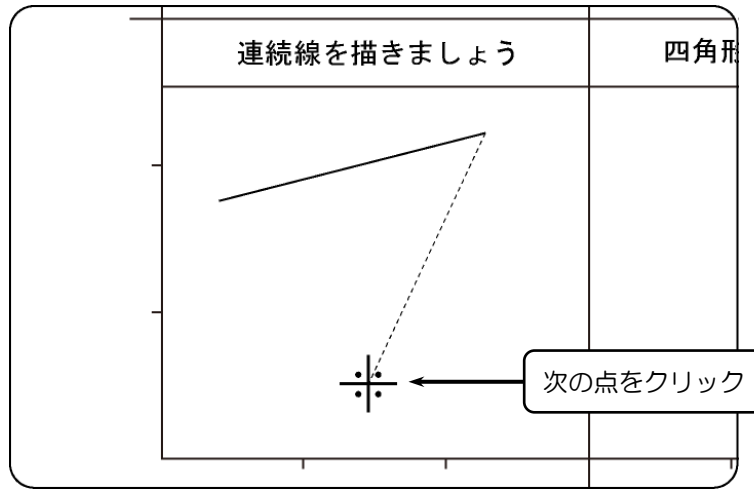
3. 「最初の点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
4. 任意に最初の点 (始点) をクリックします。



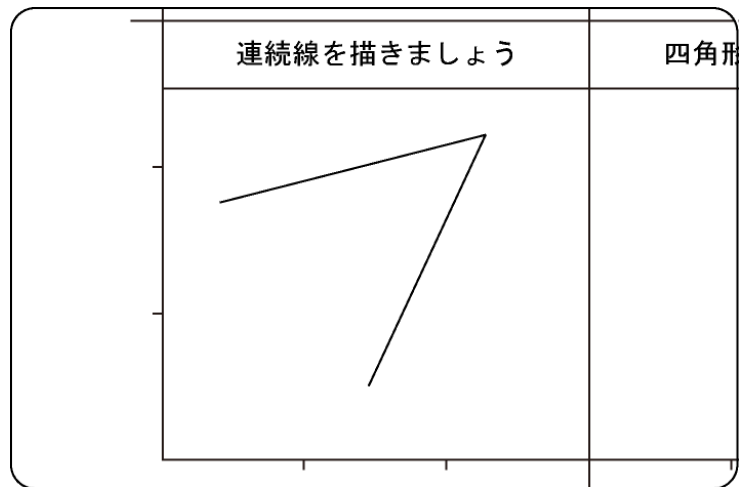
5. 「次の点または長さは？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
6. 線を描く方向にマウスを動かしてクリックします。



7. 「次の点または長さは？ (P,N) [右ボタンで指定終了]」とメッセージが表示されます。
8. 線を描く方向にマウスを動かしてクリックします。



9. 再度、「次の点または長さは？ (P,N) [右ボタンで指定終了]」とメッセージが表示されます。
10. 右クリックして、線分を切ります。
11. 連続線が描けます。



今までの応用として、線の長さや角度を変えて線を描いてみましょう。

3

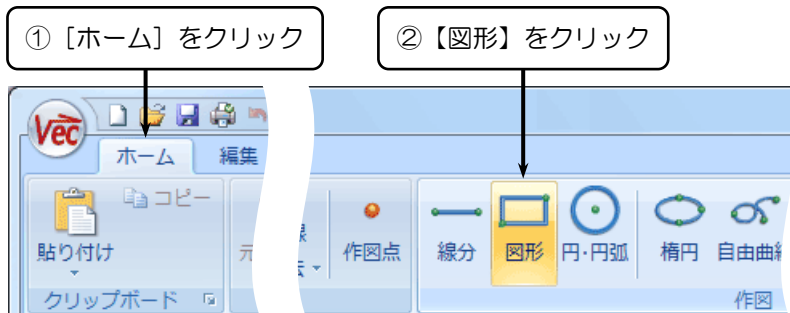
四角形を描く

四角形を描く方法を覚えましょう



画面を移動させ、“四角形を描きましょう”という箇所を表示してみましょう。

1. 【ホームリボンバー】 → 【図形】 を選択します。

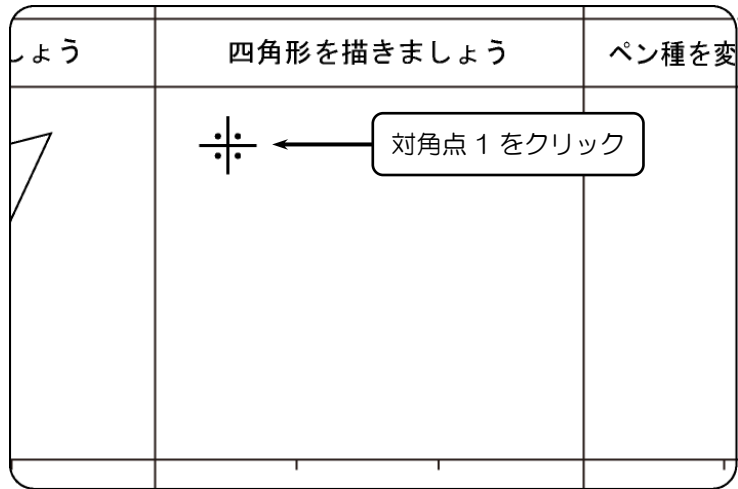


2. 『図形』 リボンバーが表示されます。
3. 『図形』 リボンバーの〈2点〉を選択します。

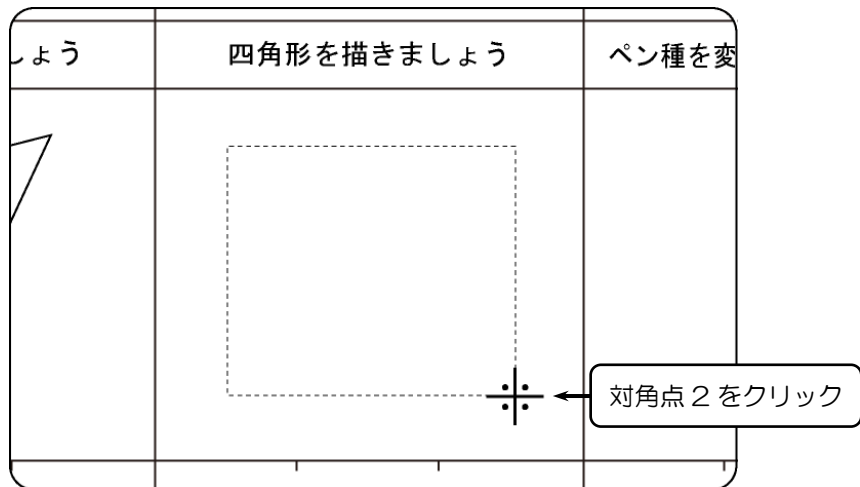


次のページへ続く

4. 「図形を記入する対角点 1 は？ (P)」とメッセージが表示されます。
5. 四角形の角になる点をクリックします。




6. 「対角点 2 または矩形の幅は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
7. 四角形の角になる点をクリックします。



ドラッグのように、左ボタンを押し続けて対角点までマウスを移動する必要はありません。

8. 四角形が描けます。

しよう	四角形を描きましょう	ペン種を変
		

4

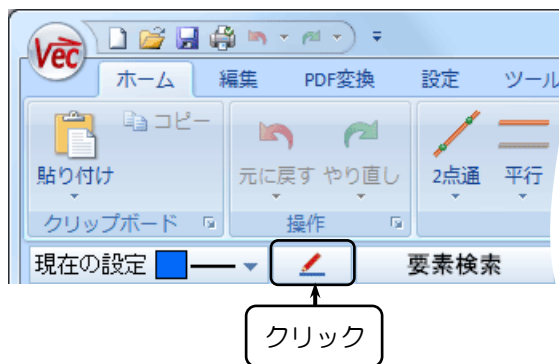
異なる線で描く

線の色や種類を変えて描く方法を覚えましょう

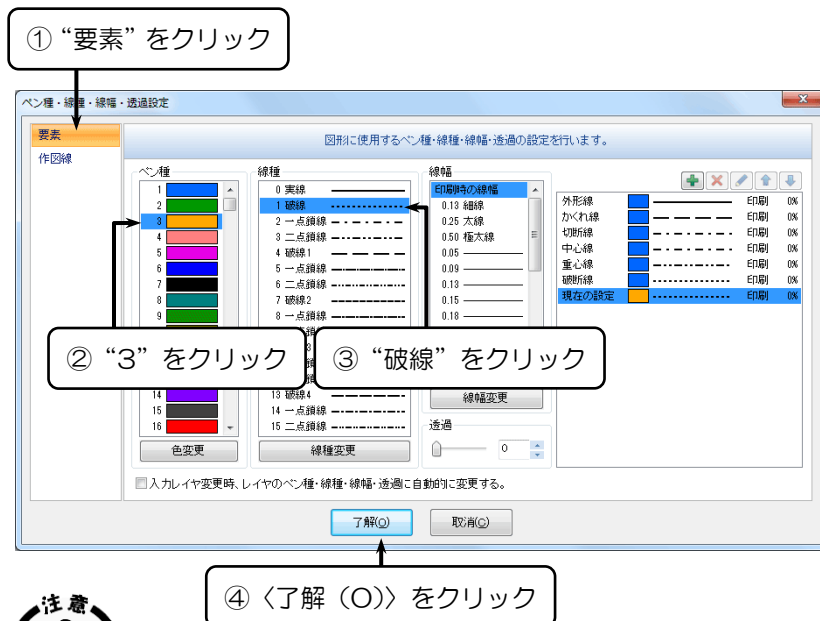


画面を移動させ、“ペン種を変えて線を描きましょう”という箇所を表示してみましょう。

1. 画面左上の【ペン種・線種・線幅・透過設定】アイコンをクリックします。

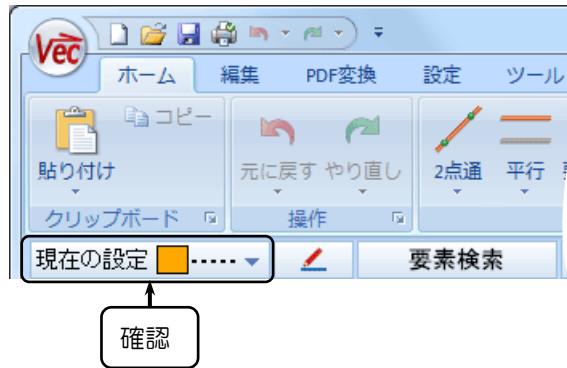


2. 『ペン種・線種・線幅・透過設定』ダイアログボックスが表示されます。
3. ペン種は3番（黄色）、線種は1番（破線）をクリックし、〈了解（O）〉をクリックします。

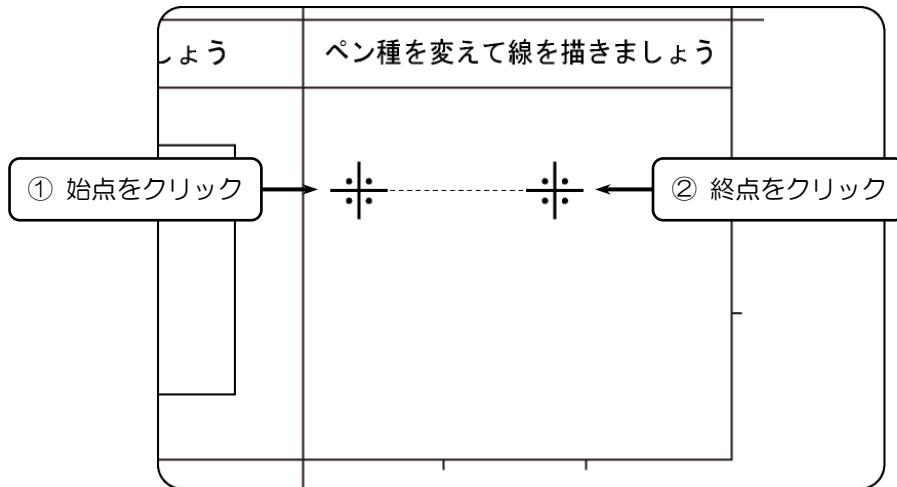


必ず〈了解 (O)〉をクリックしてください。

4. 画面左上にある【ペン種・線種・線幅・透過設定】の“現在の設定”が黄色の破線に変更されていることを確認してください。



5. 【線分】コマンドを起動し、線分を描きます。



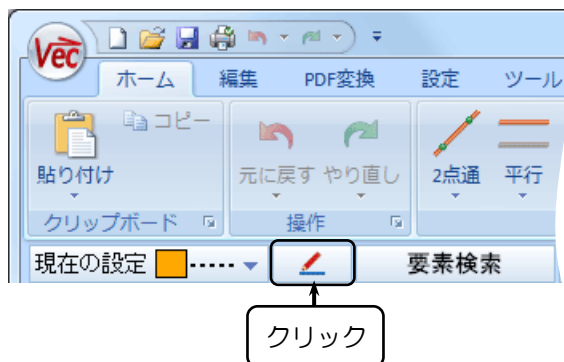
コマンドを終了しなくても、途中でペン種・線種・線幅・透過を変更することができます。



ペン種・線種・線幅・透過を変えて線分を何種類か描いて練習してみましょう。

ペン種・線種・線幅・透過の設定を元に戻す

1. 画面左上の【ペン種・線種・線幅・透過設定】アイコンをクリックします。

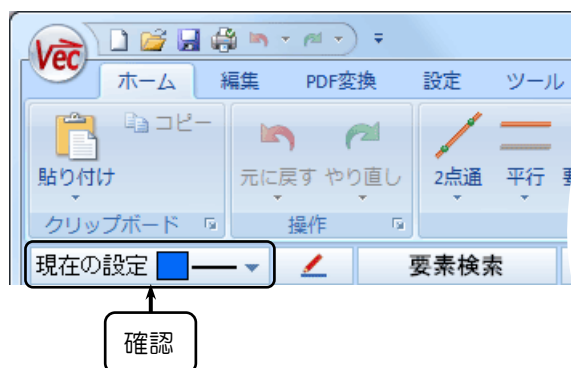


2. 『ペン種・線種・線幅・透過設定』ダイアログボックスが表示されます。
3. ペン種は1 (水色)、線種は0番 (実線) をクリックし、〈了解 (O)〉をクリックします。



必ず〈了解 (O)〉をクリックしてください。

4. 画面左上にある【ペン種・線種・線幅・透過設定】の“現在の設定”が水色の実線に変更されていることを確認してください。



5


円を描く

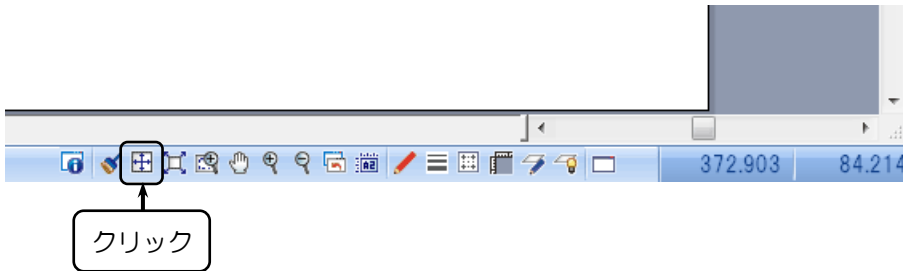
円・円弧を描く方法を覚えましょう

レイヤシートを切替える

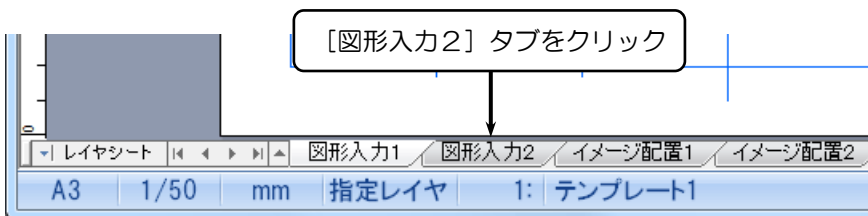


円を描くためのレイヤシートを表示させましょう。

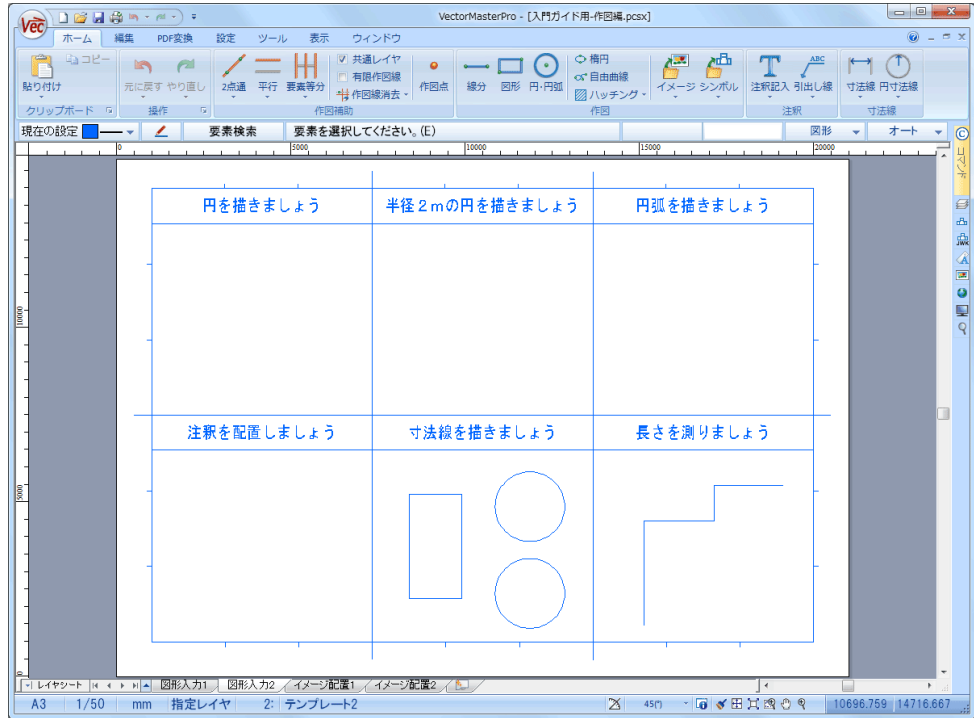
1. 画面下のステータスバーにある  (【用紙枠表示】アイコン) をクリックし、全体を表示します。



2. 画面左下の [図面入力 2] タブをクリックします。



3. [図面入力 2] のシートが表示されます。

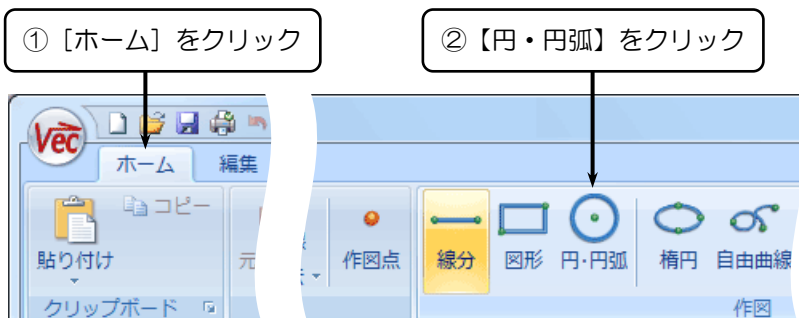


円を描く



画面を移動させ、“円を描きましょう”という箇所を表示してみましょう。

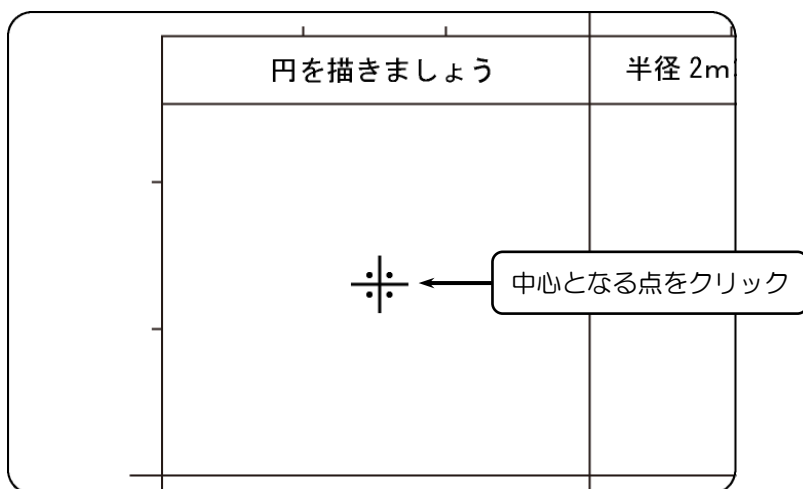
1. 【ホームリボンバー】 → 【円・円弧】 を選択します。



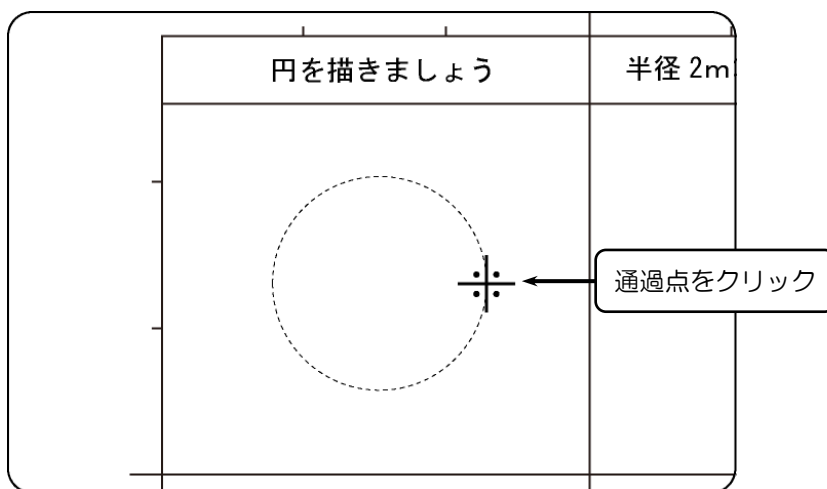
2. 『円・円弧』 リボンバーが表示されます。
3. それぞれの項目を設定します。



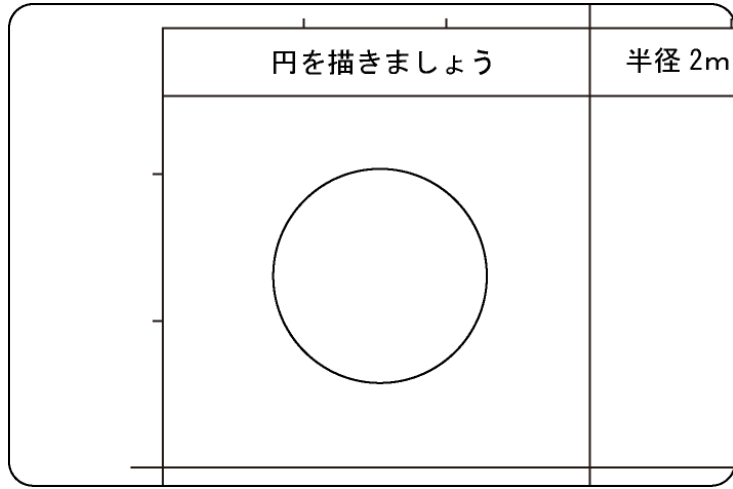
4. 「円の半径または中心位置は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
5. 円の中心となる位置をクリックします。



6. 「円の半径または通過点は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
7. 円の通過点となる点をクリックします。



8. 円が描けます。



決まった半径の円を描く



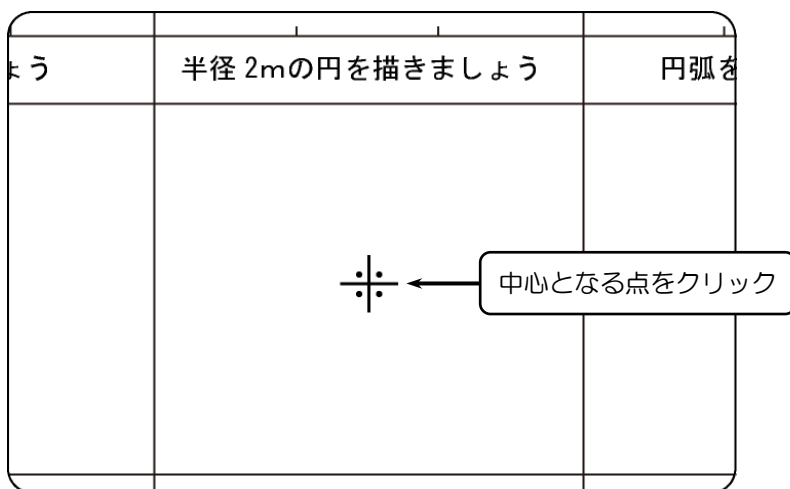
画面を移動させ、「半径 2m の円を描きましょう」という箇所を表示してみましょう。

1. 『円・円弧』リボンバーが表示されます。



『円・円弧』コマンドを終了している場合、【ホームリボンバー】
→【円・円弧】を選択し『円・円弧』リボンバーを表示させます。

2. 「円の半径または中心位置は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
3. 円の中心となる位置をクリックします。

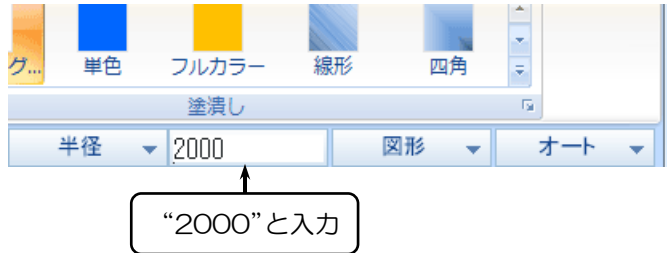


次のページへ続く

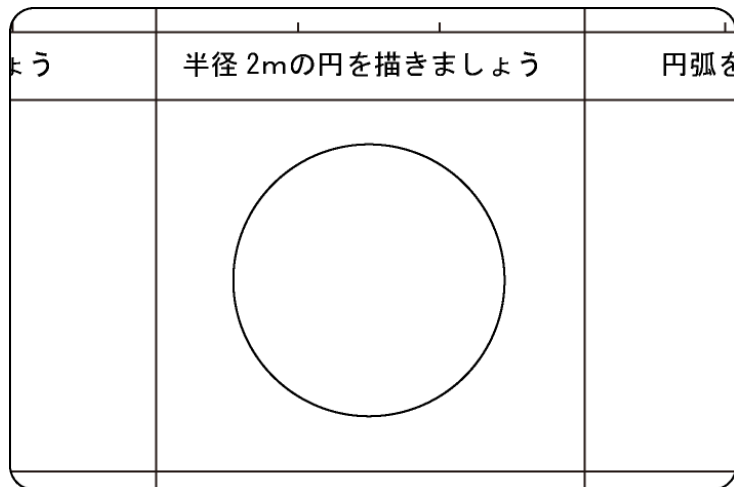
4. 「円の半径または通過点は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
5. インフォメーションバーが右上に表示されていることを確認してください。



6. 数値を入力し、〈ENTER〉キーを押します。



7. 円が描けます。



円弧を描く



画面を移動させ、“円弧を描きましょう”という箇所を表示してみましょう。

1. 『円・円弧』リボンバーが表示されます。



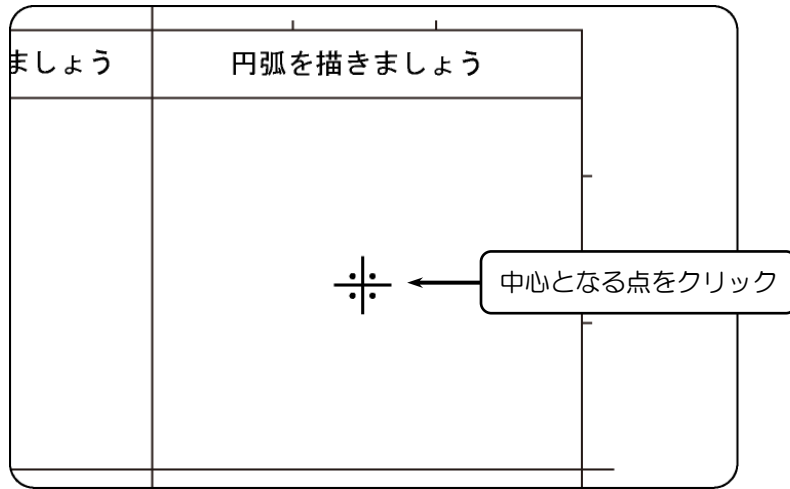
『円・円弧』コマンドを終了している場合、【ホームリボンバー】
→【円・円弧】を選択し『円・円弧』リボンバーを表示させます。

2. 『円・円弧』リボンバーの“円弧”を選択します。

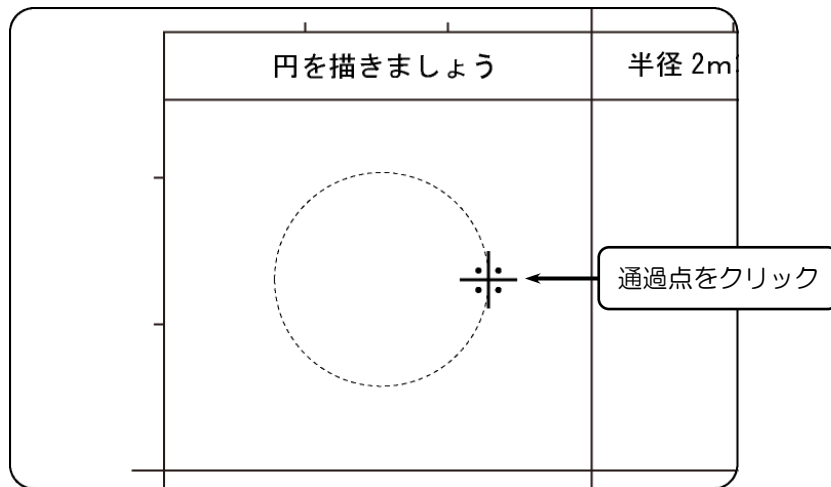


次のページへ続く

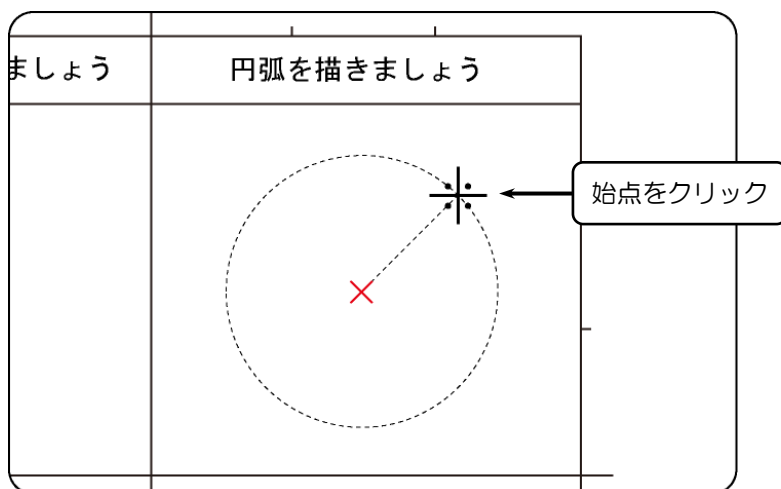
3. 「円の半径または中心位置は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
4. 円の中心となる位置をクリックします。



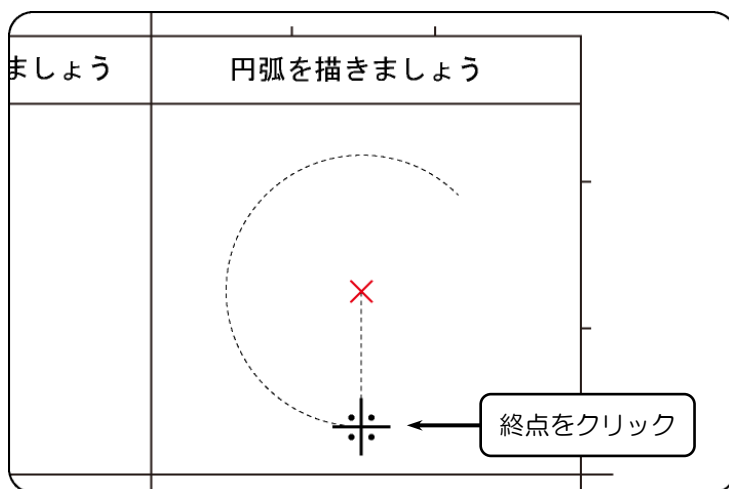
5. 「円の半径または通過点は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
6. 円の通過点となる点をクリックします。



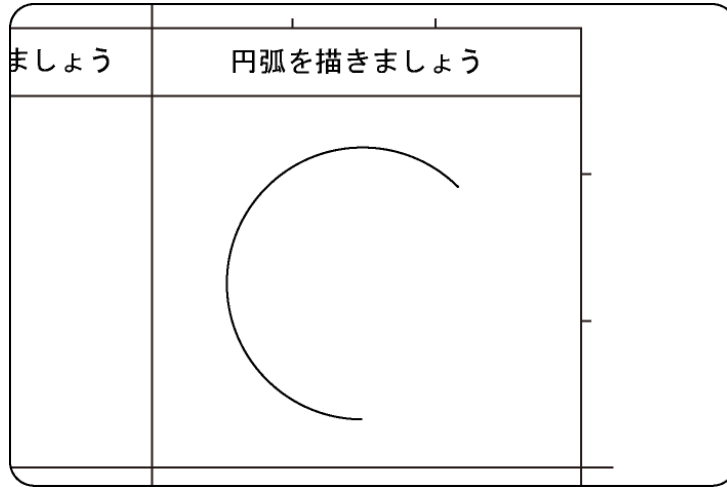
- 「円弧の始点または始角は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
- 円弧の始点となる位置をクリックします。



- 「円弧の終点または終角は？ (P,N)」とメッセージが表示されます。
- 円弧の終点となる位置をクリックします。



11. 円弧が描けます。



円弧は反時計回りに記入されます。

6

文字を配置する

図面に文字を配置する方法を覚えましょう



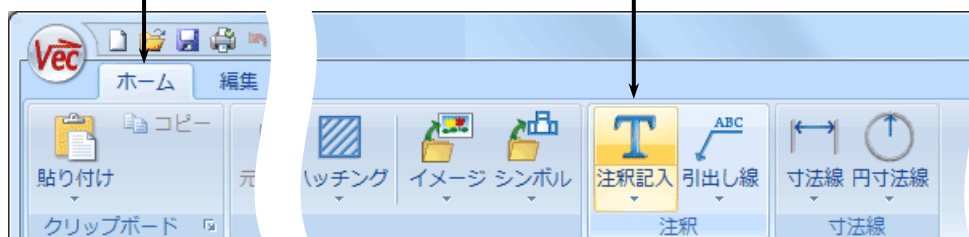
画面を移動させ、“文字を配置しましょう”
という箇所を表示させましょう。

文字を配置する

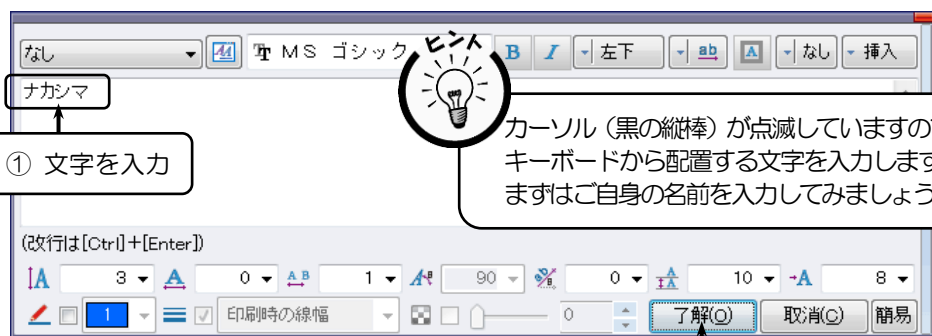
1. 【ホームリボンバー】 → 【注釈記入】 を選択します。

① 【ホーム】 をクリック

② 【注釈記入】 をクリック



2. フロートメニューが表示されます。
3. 「記入する注釈は？ (E)」 とメッセージが表示されます。
4. 配置する文字をキーボードから入力し、〈了解 (O)〉 をクリックします。



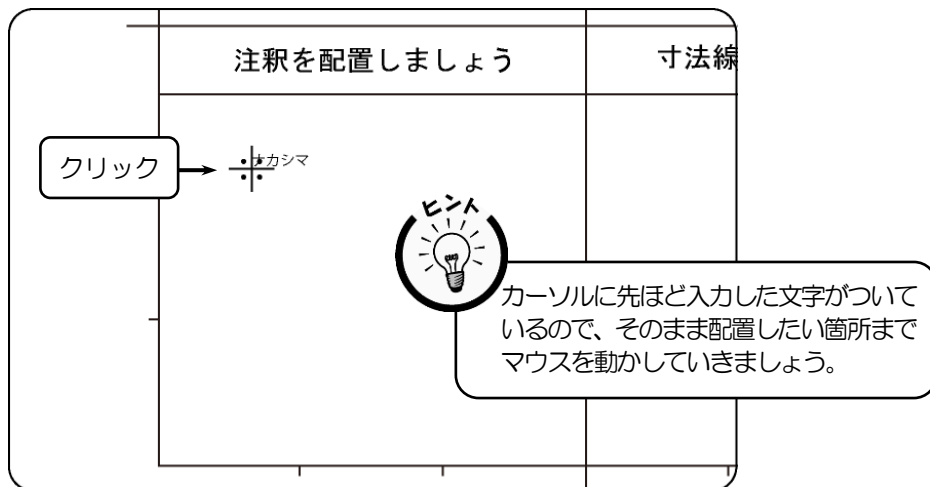
① 文字を入力

カーソル(黒の縦棒)が点滅していますので、
キーボードから配置する文字を入力します。
まずはご自身の名前を入力してみましょう。

② クリック

次のページへ続く

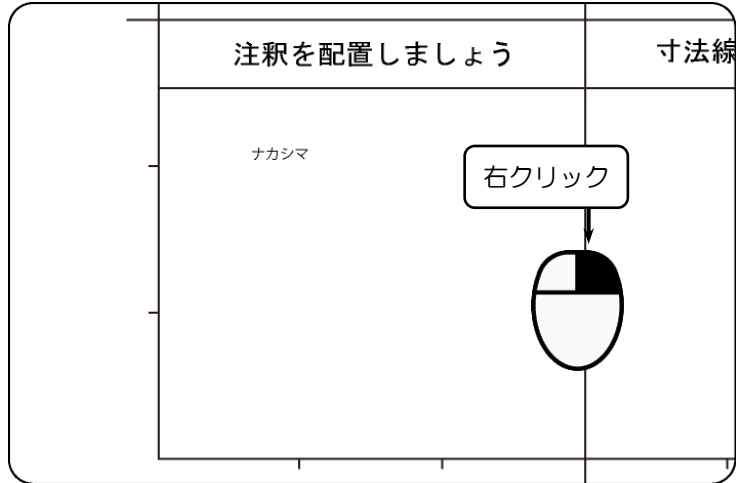
5. 「注釈を記入する位置は？ (P)」とメッセージが表示されます。
6. 配置したい位置をクリックします。



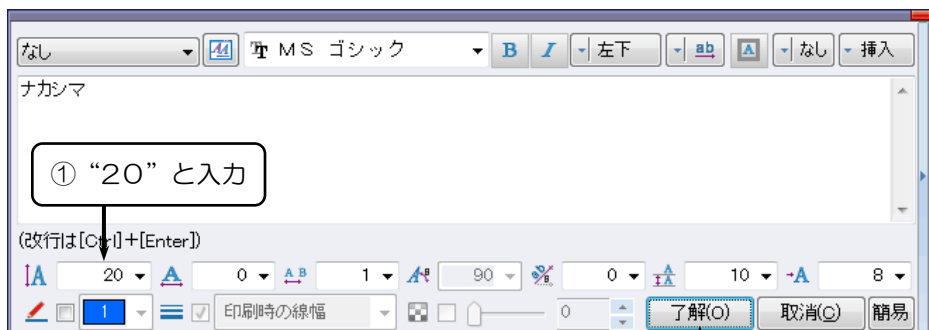
一度クリックして配置しても、先ほどの文字がカーソルについています。そのまま他の箇所をクリックすると、同じ文字を配置することができます。

大きさを覚えて文字を配置する

1. 同じ文字の配置を終了するため、画面上で右クリックします。

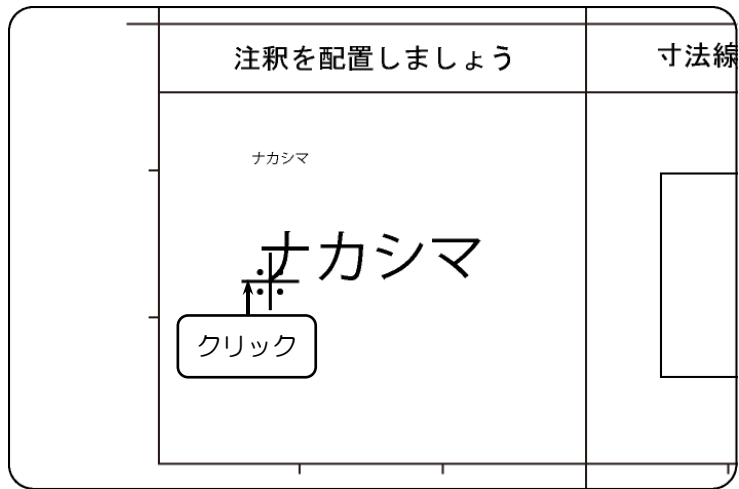


2. 再度フロートメニューが表示されます。
3. 文字高さを“20”に変更し、〈了解 (O)〉をクリックします。



次のページへ続く

4. カーソルについている文字の大きさが変わっていることを確認してください。
5. 配置したい位置をクリックします。



幅や角度などの設定も変えて、色々な形態の文字を配置してみましょう。

7

寸法線を記入する

寸法線を記入する方法を覚えましょう



画面を移動させ、“寸法線を描きましょう”
という箇所を表示してみましょう。

単一寸法線を記入する

1. 【ホームリボンバー】 → 【寸法線▼】 → 【単一寸法線】 を選択します。

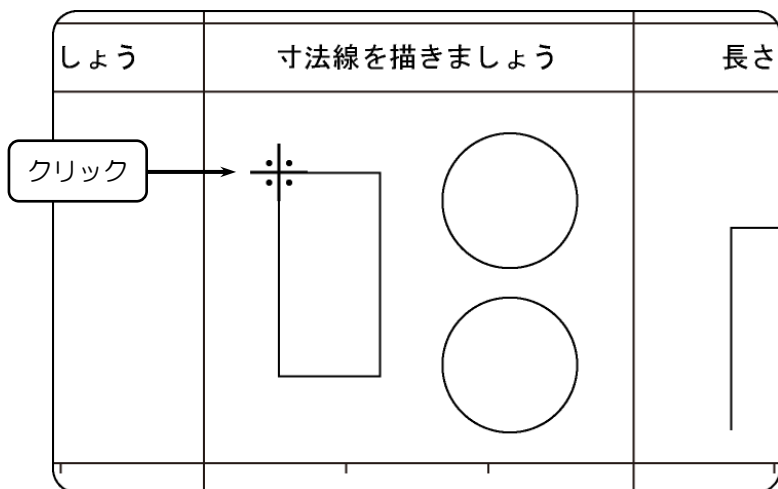
① 【ホーム】 をクリック

② 【寸法線▼】 をクリック

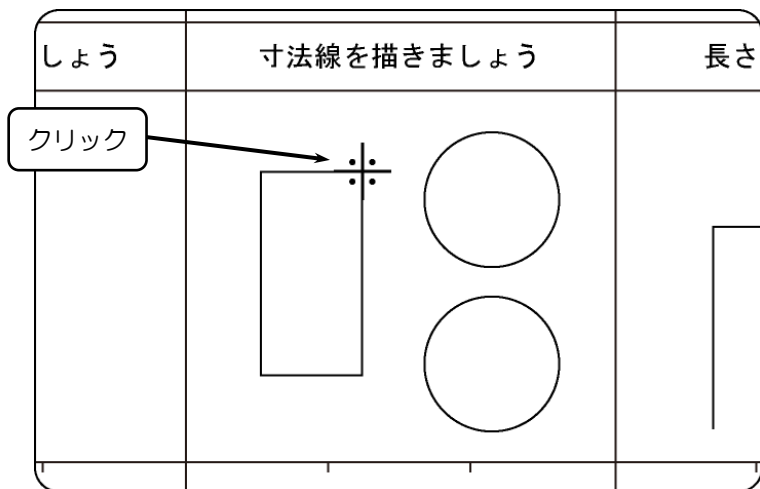
③ 【単一寸法線】 をクリック

次のページへ続く

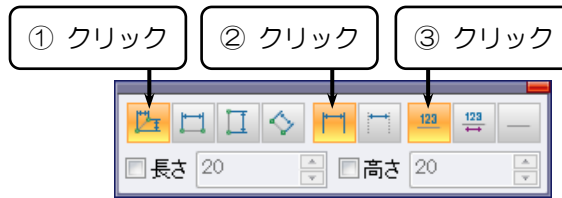
2. 「引出し線の位置は？ (P)」とメッセージが表示されます。
3. 引出し線の位置をクリックします。



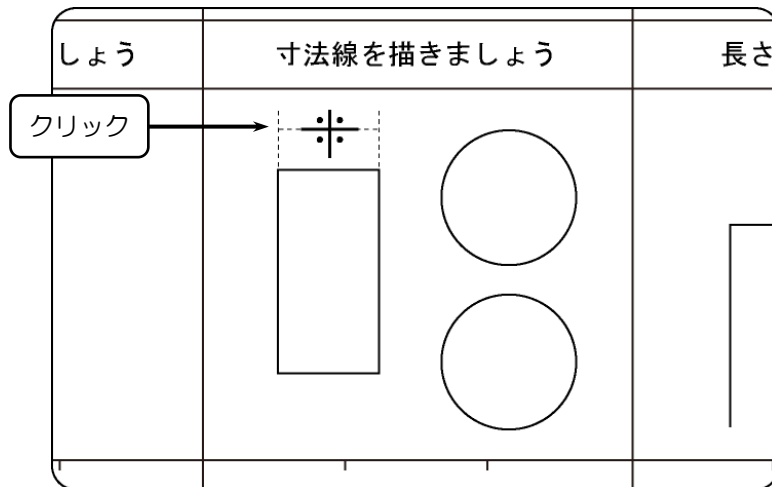
4. 「引出し線の位置は？ (P)」とメッセージが表示されます。
5. 引出し線の位置をクリックします。



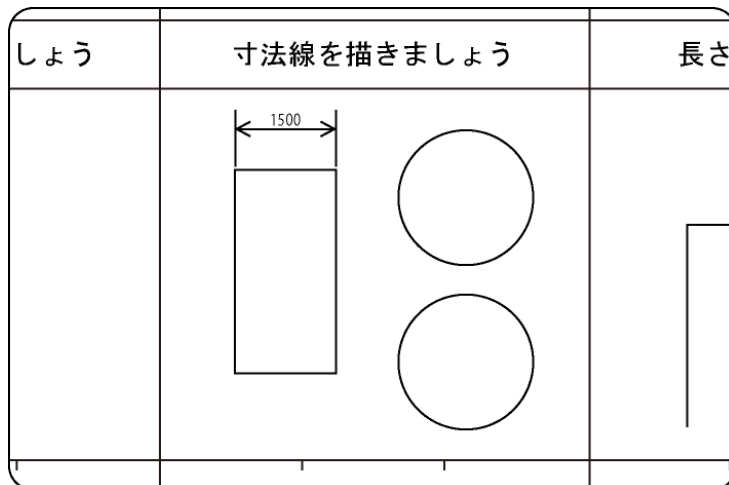
- 「寸法線を記入する位置は？ (P)」とメッセージが表示され、フロートメニューが表示されます。
- フロートメニューより、それぞれの項目を設定します。



- 寸法線を記入する位置をクリックします。



- 寸法線が描けます。

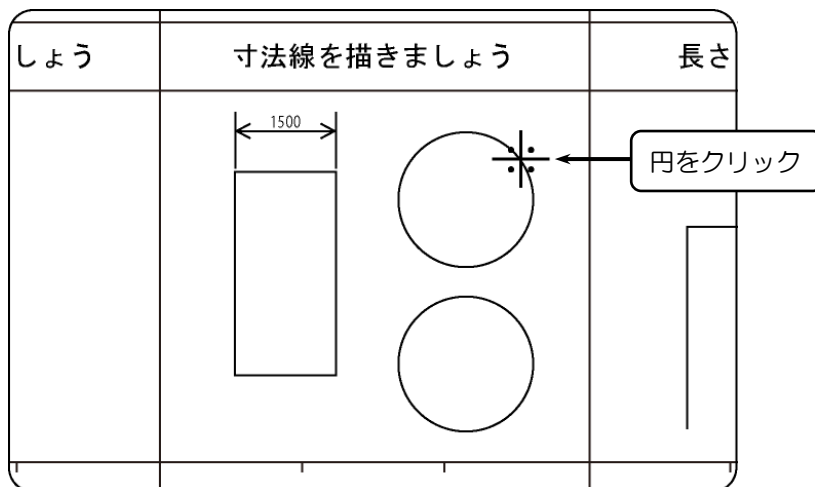


直径寸法線を記入する

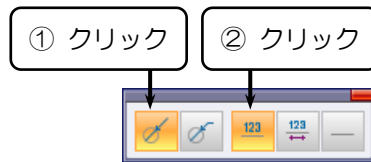
1. 【ホームリボンバー】 → 【円寸法線▼】 → 【直径寸法線】 を選択します。



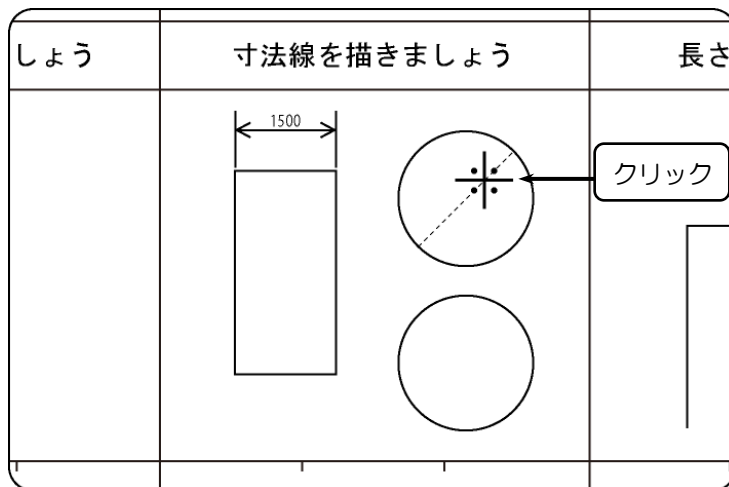
2. 「直径寸法を記入する円・円弧は？ (E)」とメッセージが表示されます。
3. 寸法線を記入する円・円弧をクリックします。



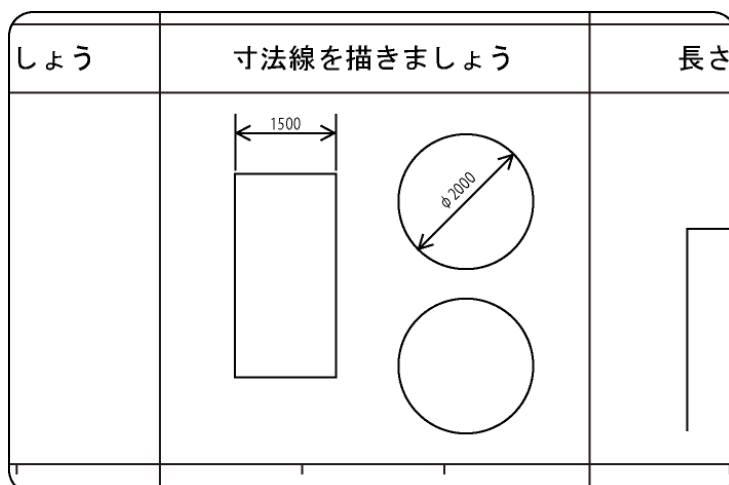
4. 「寸法線を記入する位置は？ (P)」とメッセージが表示され、フロートメニューが表示されます。
5. フロートメニューより、それぞれの項目を設定します。



6. 寸法線を記入する位置をクリックします。



7. 寸法線が記入されます。

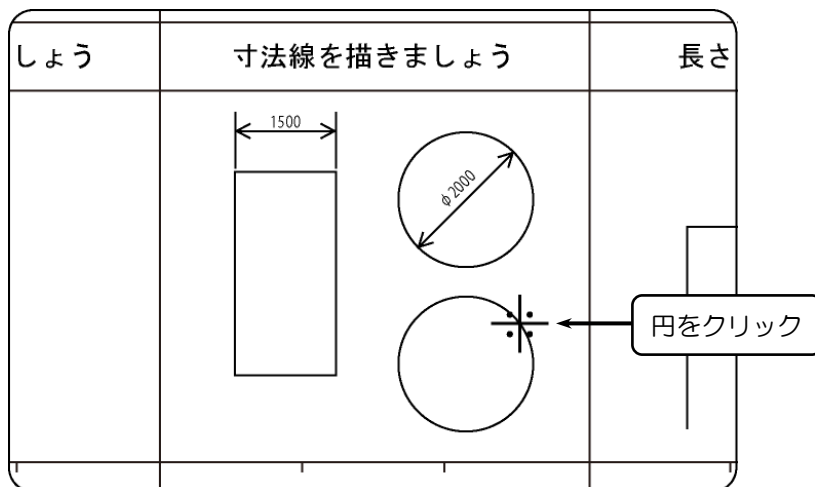


半径寸法線を記入する

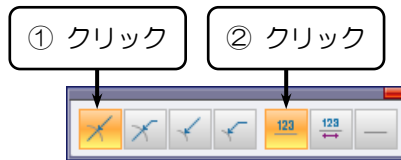
1. 【ホームリボンバー】 → 【円寸法線▼】 → 【半径寸法線】 を選択します。



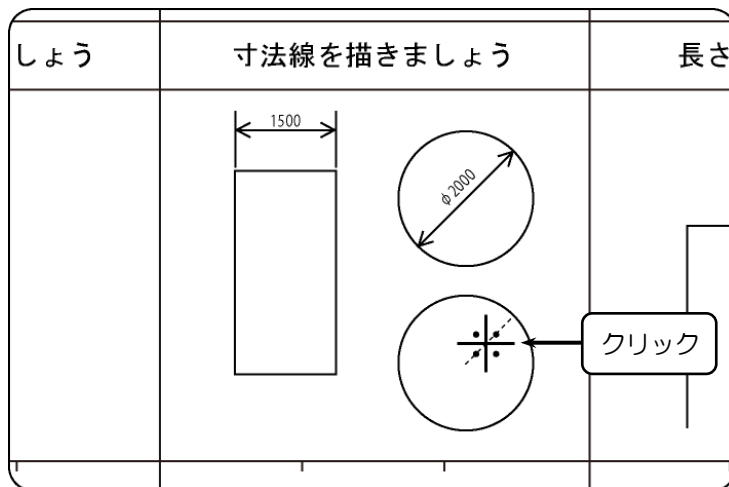
2. 「半径寸法を記入する円・円弧は？ (E)」とメッセージが表示されます。
3. 寸法線を記入する円・円弧をクリックします。



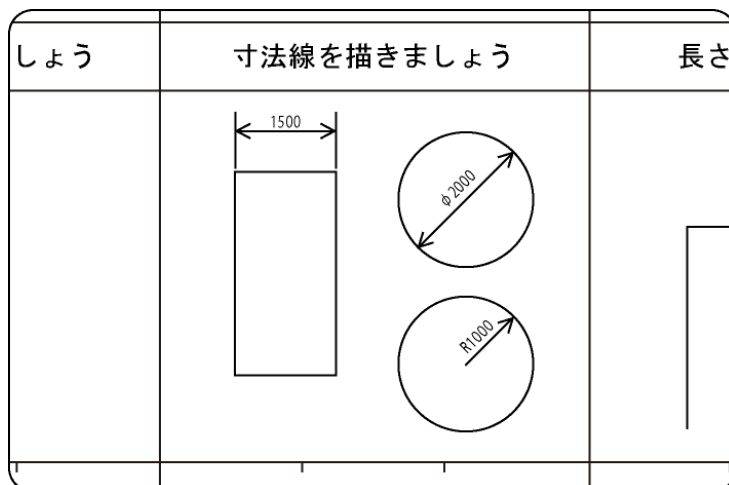
- 「寸法線を記入する位置は？ (P)」とメッセージが表示され、フロートメニューが表示されます。
- フロートメニューより、それぞれの項目を設定します。



- 寸法線を記入する位置をクリックします。



- 寸法線が記入されます。



8

イメージを配置する

イメージを配置する方法を覚えましょう



スキャナやデジタルカメラ、フォト CD から取り込んだイメージは、【イメージ配置】で配置することができます。



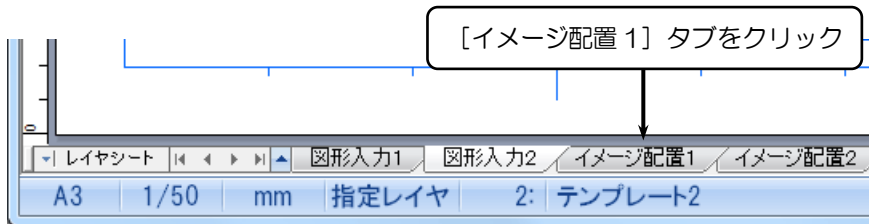
【Vec (アプリケーションボタン)】→【開く】からイメージを開くことはできません。必ず、【イメージ配置】から行ってください。

レイヤシートを切替える

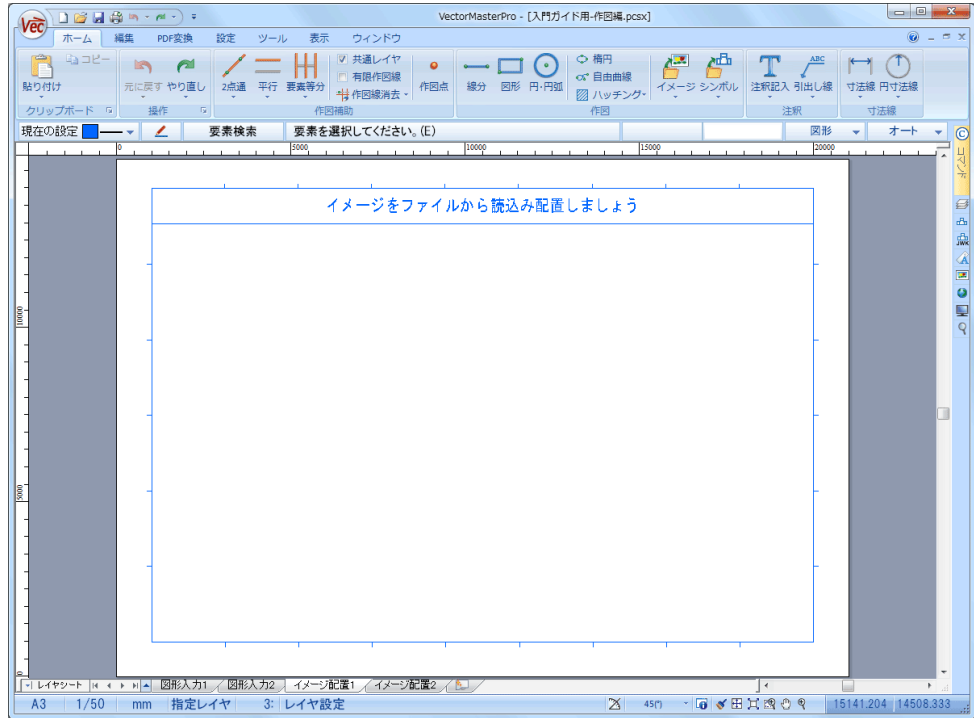


画面左下の【イメージ配置 1】タブをクリックし、“イメージをファイルから読み込み配置しましょう”という箇所を表示してみましょう。

1. 画面左下の【イメージ配置 1】タブをクリックします。

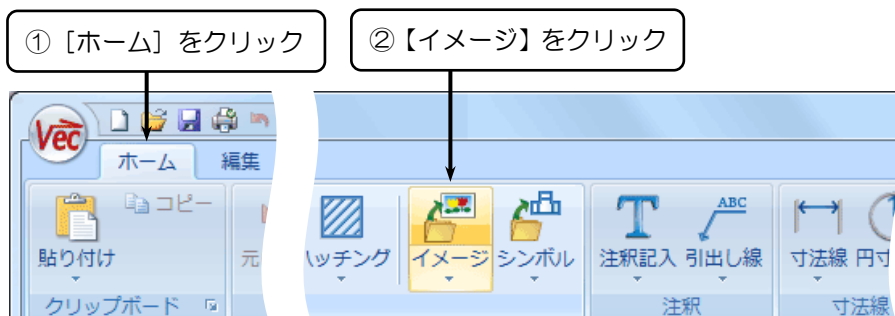


2. [イメージ配置 1] のシートが表示されます。

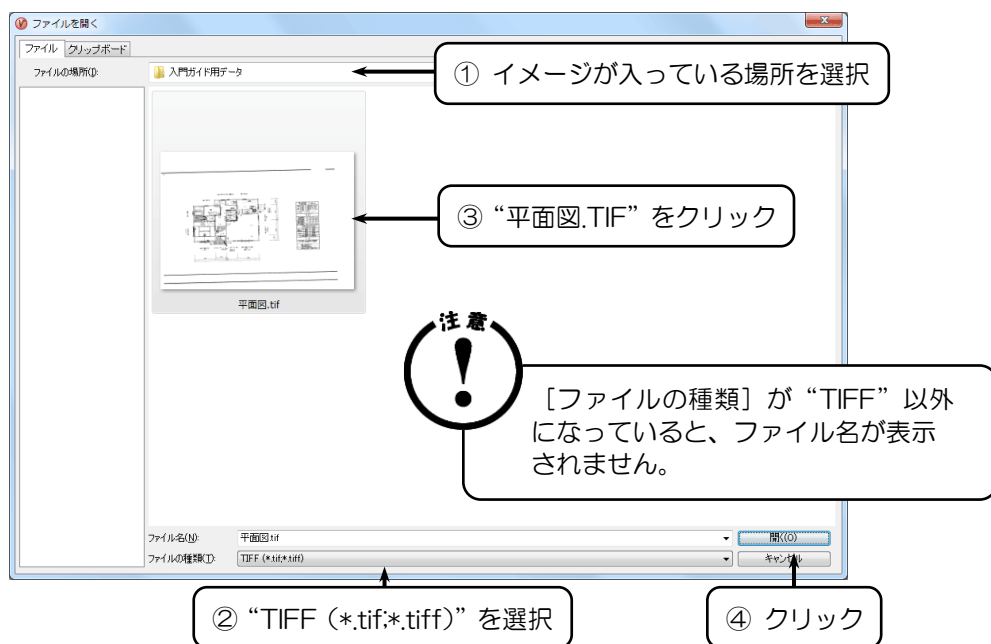


イメージをファイルから読み込み、図面上に配置する

1. 【ホームリボンバー】 → 【イメージ】 を選択します。



2. 『ファイルを開く』 ダイアログボックスが表示されます。
3. 配置するイメージを選択し、〈開く (O)〉 をクリックします。

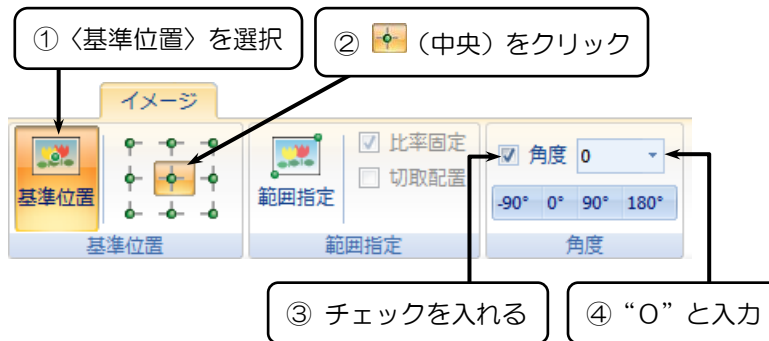


イメージは標準でインストールした場合、“C:¥ANDES Data¥2014 ¥VectorMasterPro¥入門ガイド用データ” に保存してあります。

4. 『イメージ情報入力』ダイアログボックスが表示されます。
5. 配置するイメージについて設定し、〈了解(O)〉をクリックします。

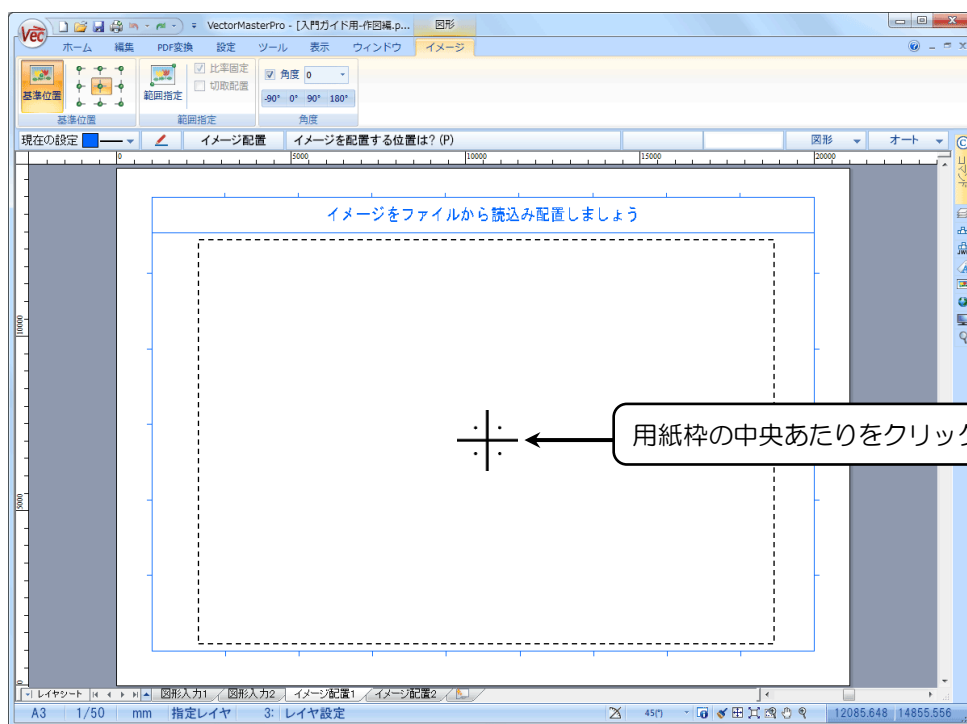


6. 『イメージ』リボンバーが表示されます。
7. それぞれの項目を設定し、〈ENTER〉キーを押します。

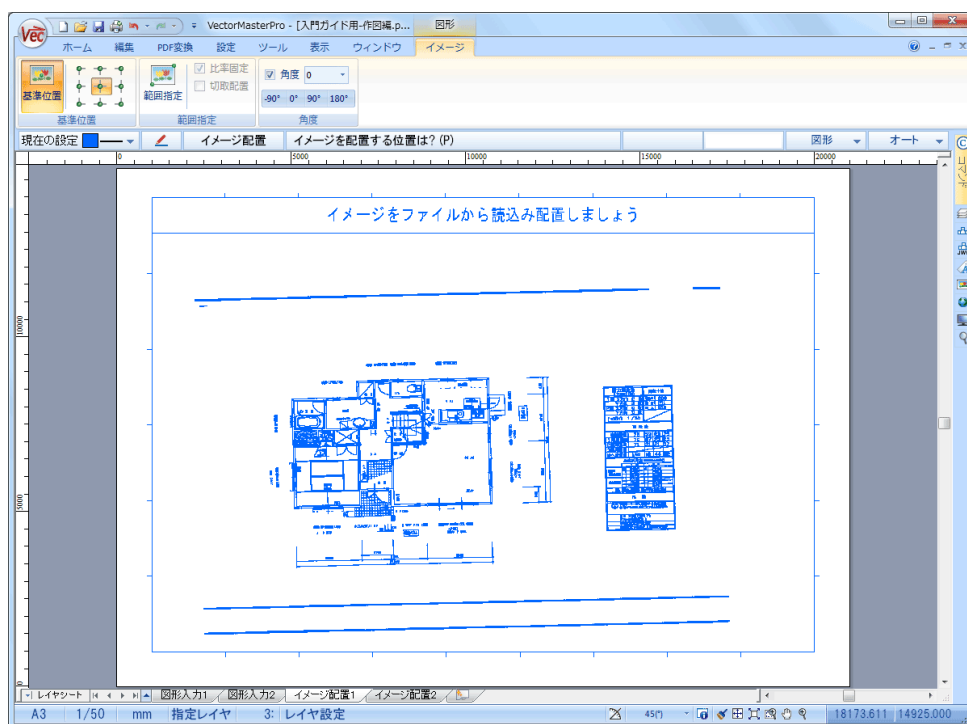


次のページへ続く

- 「イメージを配置する位置は？ (P)」とメッセージが表示されます。
- イメージを配置する位置をクリックします。



- イメージが配置されます。

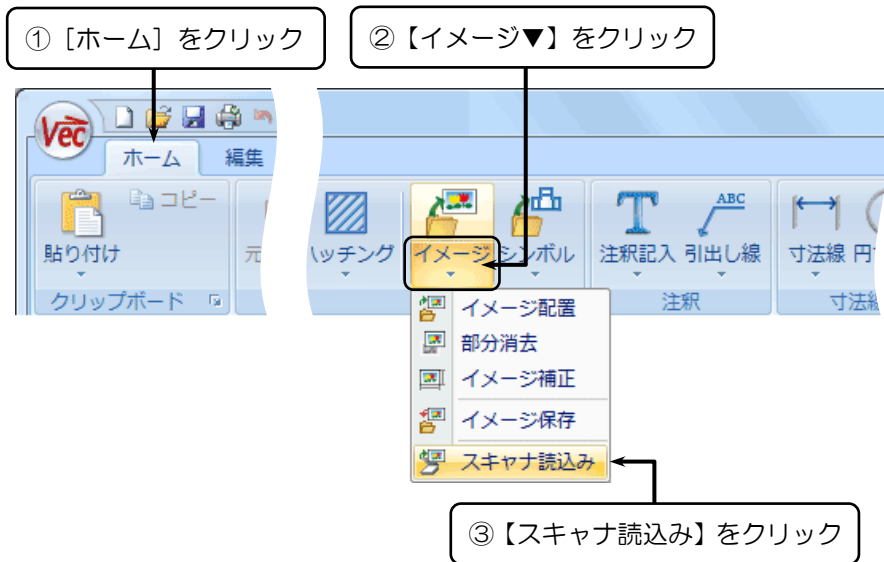


イメージをスキャナから読み込み、図面上に配置する



画面左下の【イメージ配置 2】タブをクリックし
“イメージをスキャナから読み込み配置しましょう”
という箇所を表示してみましょう。

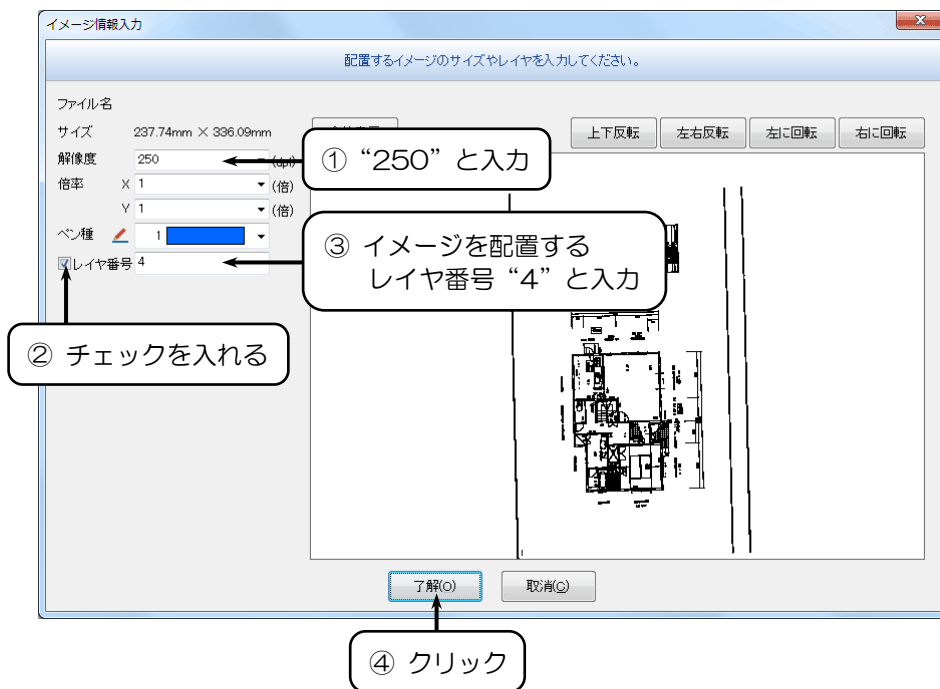
1. 【ホームリボンバー】 → 【イメージ▼】 → 【スキャナ読み込み】 を選択します。



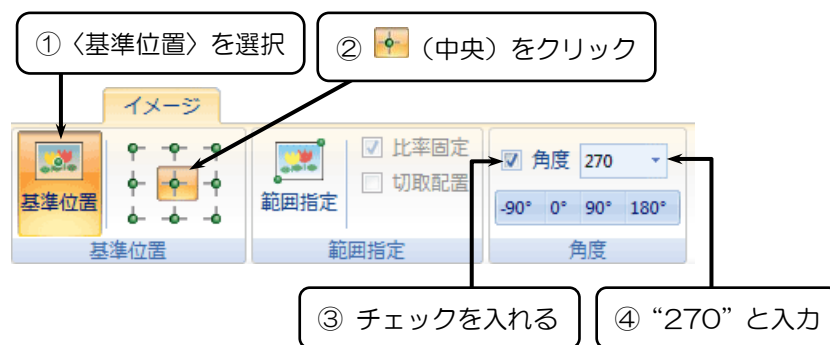
2. 『ソースの選択』 ダイアログが表示されます。
3. 使用するスキャナを選択しダブルクリック、または〈選択〉を押します。
4. デバイスメーカーから提供されている手順を参照してイメージをスキャンしてください。

次のページへ続く

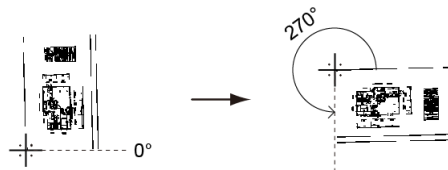
5. イメージデータの読み込みが終わると、『イメージ情報入力』ダイアログボックスが表示されます。
6. 配置するイメージについて設定し、〈了解 (O)〉をクリックします。



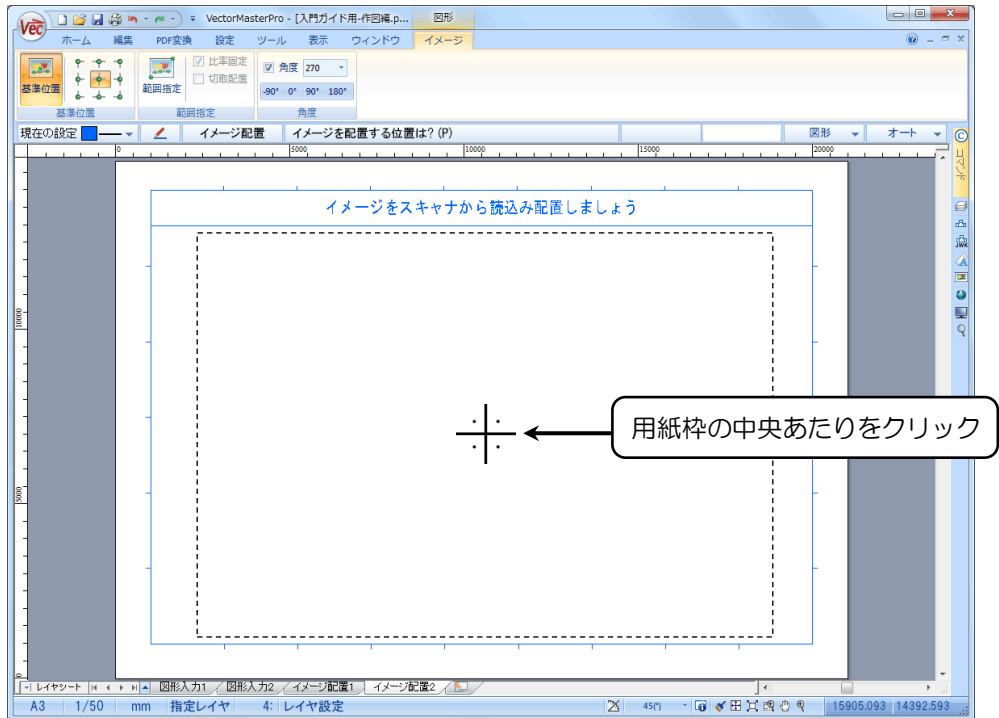
7. 『イメージ』リボンバーが表示されます。
8. それぞれの項目を設定し、〈ENTER〉キーを押します。



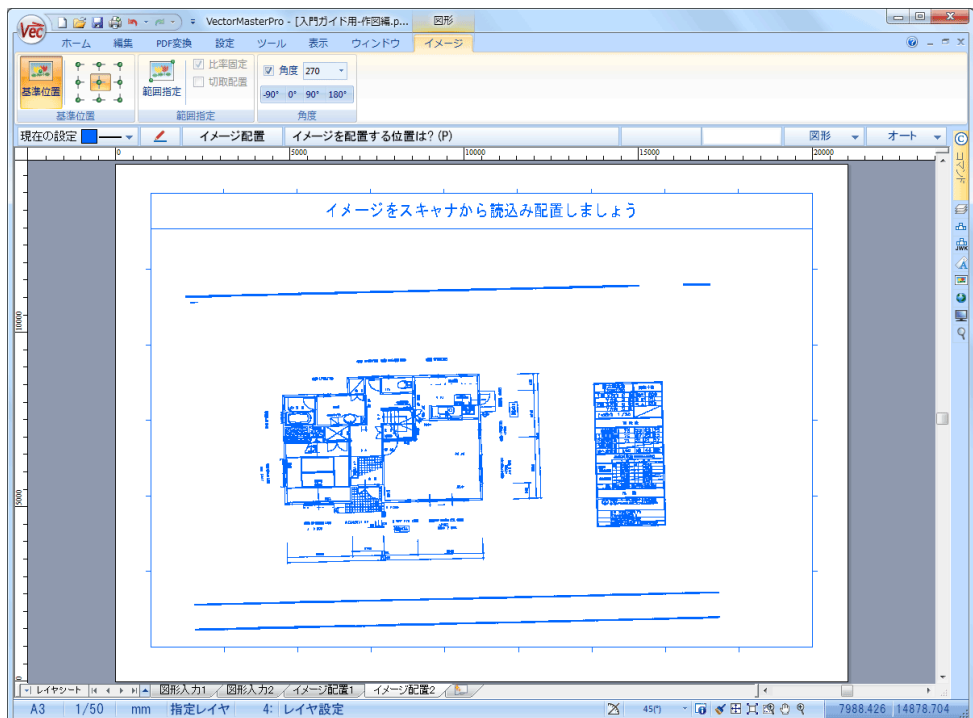
イメージを横にする場合、回転させる角度を入力します。



9. 「イメージを配置する位置は？ (P)」とメッセージが表示されます。
10. イメージを配置する位置をクリックします。



11. イメージが配置されます。



9

長さを測る

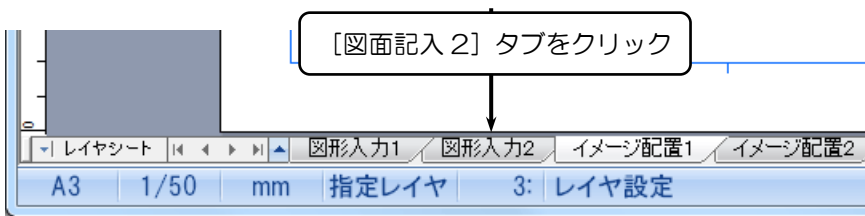
描いた要素の長さを測る方法を覚えましょう



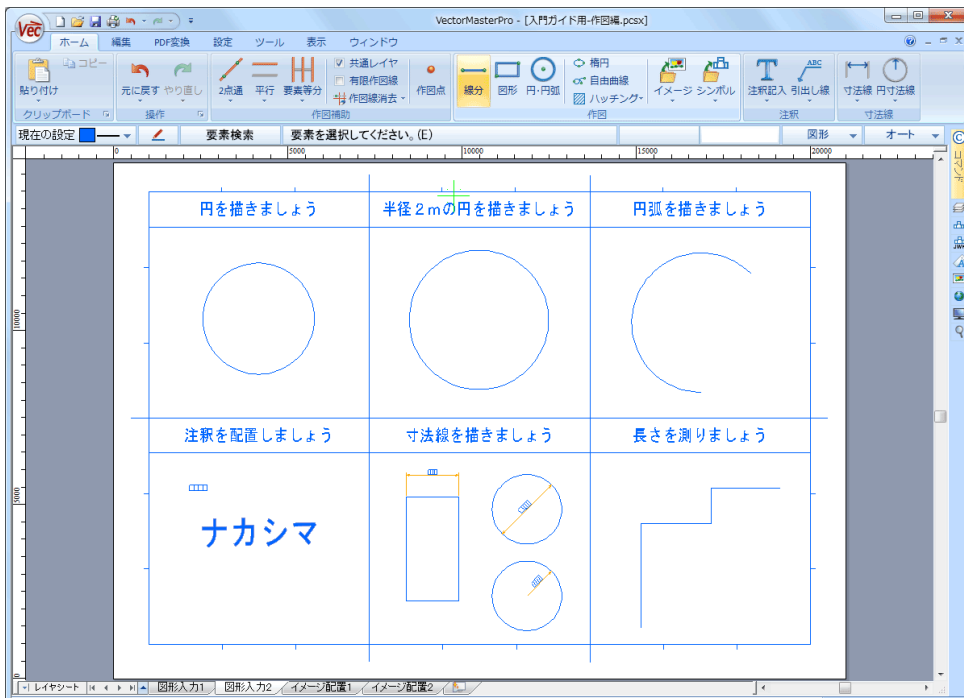
画面左下の「図面記入2」タブをクリックし
“長さを測りましょう”という箇所を表示して
みましょう。

レイヤシートを切替える

1. 画面左下の「図面記入2」タブをクリックします。



2. 「図面記入2」のシートが表示されます。



長さを測る

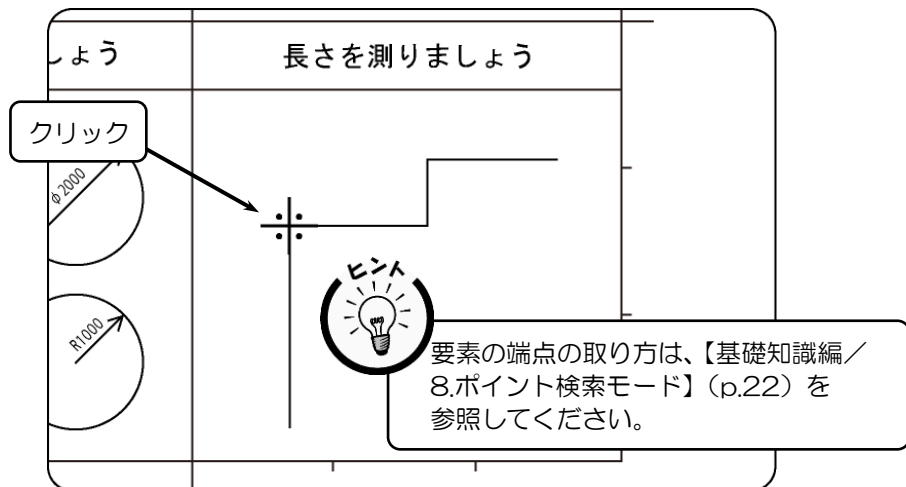
1. 【ツールリボンバー】 → 【長さ計測】 を選択します。



2. 『長さ計測』 リボンバーが表示されます。
3. 『長さ計測』 リボンバーの〈点指定〉を選択します。

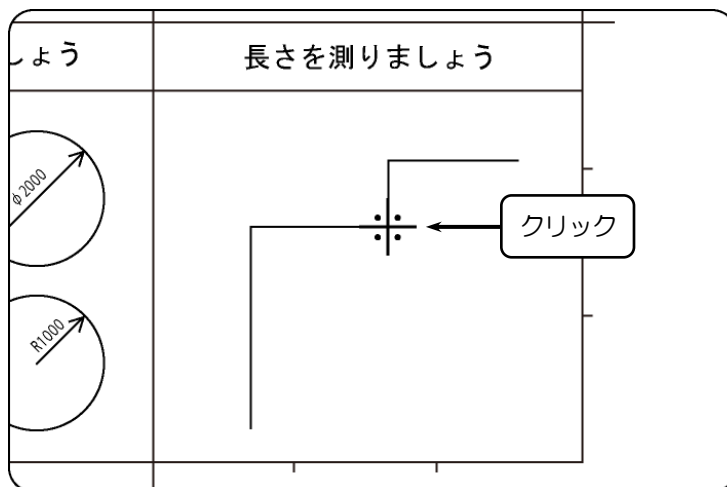


4. 「最初の点は？ (P)」 とメッセージが表示されます。
5. 長さを測る要素の端点をクリックします。



次のページへ続く

6. 「次の点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
7. 長さを測る要素の端点をクリックします。



8. 『長さ計測』リボンバーの [単一] および [累計] に計測結果が表示されます。



9. 2回右クリックし、計測結果をリセットします。

5

編集編


●● この章の内容 ●●

1. 保存図面を開く 144
2. 要素を移動する 147
3. 要素を複写する 150
4. 要素の線を変更する 153
複数の要素の線を
一括で変更する場合 155
5. 指定した要素の2点間を切断する ... 157
6. 要素を消去する 160
まとめて消去する 162
7. PDF の用紙の向きを変更する 163
PDF を開く 163
読込んだ PDF の
用紙の向きを左に回転する... 165

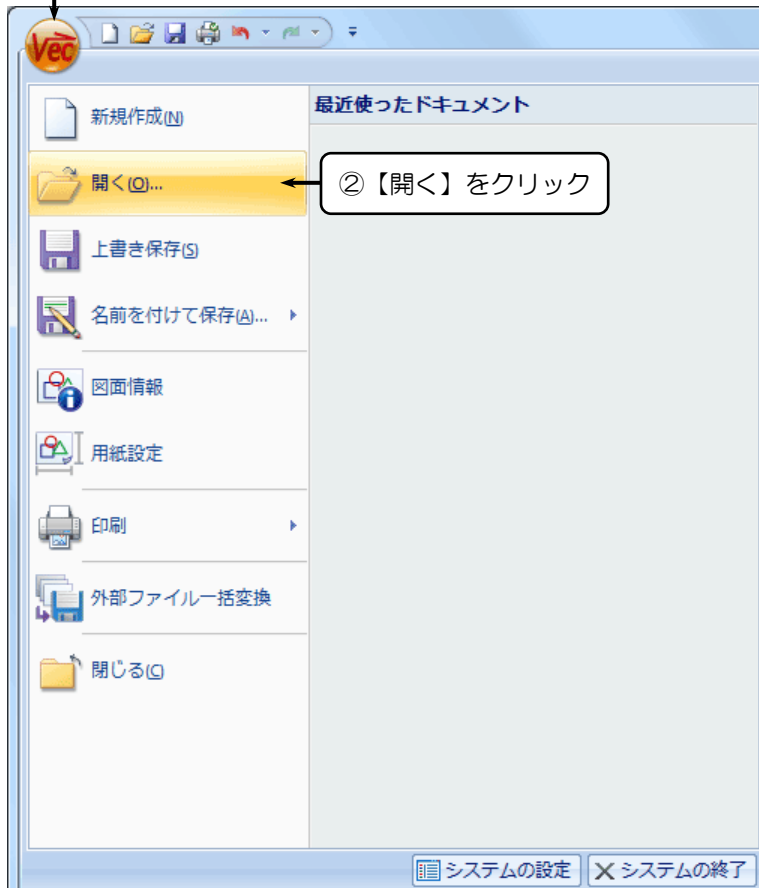
1


保存図面を開く

参考図面を開いてみましょう

1. Vector Master を起動します。
2. 【 (アプリケーションボタン)】 → 【開く】 を選択します。

①【アプリケーションボタン】をクリック



 (【開く】アイコン) がクイックアクセスツールバーに表示されている場合、クリックして同様の操作ができます。

3. 『ファイルを開く』ダイアログボックスが表示されます。
4. “入門ガイド用-編集編.pcsx”を選択し、〈開く(O)〉をクリックします。

① “入門ガイド用データ” をクリック

③ “入門ガイド用-編集編.pcsx” をクリック

② “図面 (*.pcsx;*.pcs)” を選択

④ クリック

③をクリックすると、その図面の図面情報等が下の欄に表示されます。また、ダブルクリックすると、④を省いてファイルを開くことができます。

名前	更新日時	種類	サイズ
demo_01.pcsx	2015/01/26 10:27	ANDES図面ファイル	153 KB
入門ガイド用-作図編.pcsx	2015/01/28 16:51	ANDES図面ファイル	39 KB
入門ガイド用-編集編.pcsx	2015/01/28 10:39	ANDES図面ファイル	22 KB

図面情報
 フォルダ名 C:\ANDES Data\2014\VectorMasterPro\入門ガイド用データ
 ファイル名 入門ガイド用-編集編.pcsx
 図面名 Vector Master Pro
 図面番号 Vector Master Pro
 種類 入門ガイド用-編集編.pcsx
 編集編 A3

調査者 更新日 2015/01/28

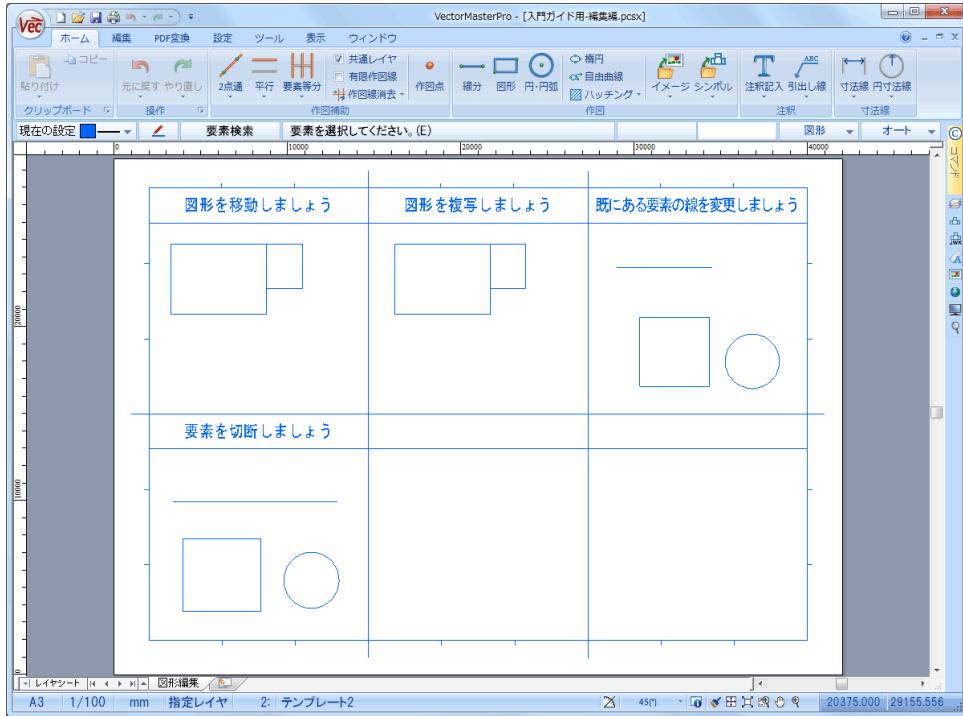
用紙サイズ A3
 縮尺 1/100



メモ
 サンプルの図面は標準でインストールした場合、“C:\ANDES Data\2014\VectorMasterPro\入門ガイド用データ” に保存してあります。

次のページへ続く

5. “入門ガイド用-編集編.pcsx” の図面が開き、画面上に表示されます。



2

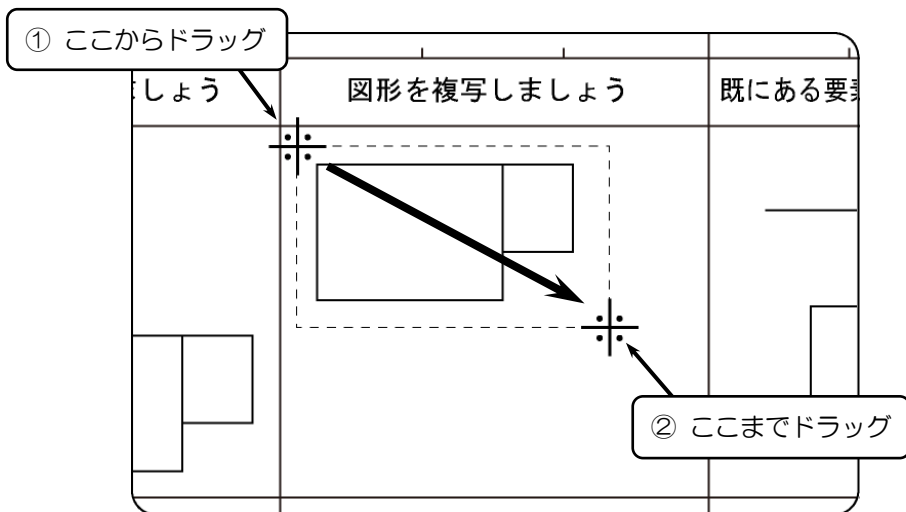
要素を移動する

描いた要素を移動する方法を覚えましょう



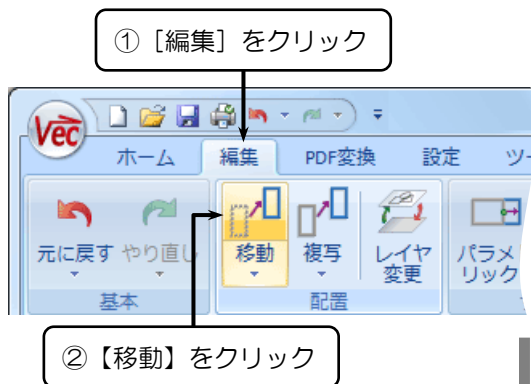
画面を移動させ、“図形を移動しましょう”
という箇所を表示させましょう。

1. 移動したい要素を選択します。



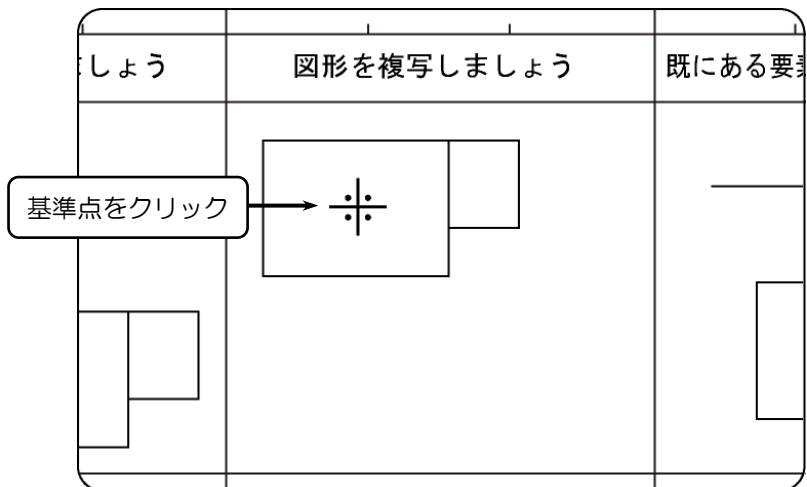
- 左ボタンを押したままマウスを動かします。マウスの動きに伴って青色の枠が表示され、どこを囲んでいるのかが分かります。この一連のマウスの動きをドラッグと言います。
- 選択すると要素の色が変わりますので確認してください。

2. 【編集リボン】 → 【移動】 を選択します。



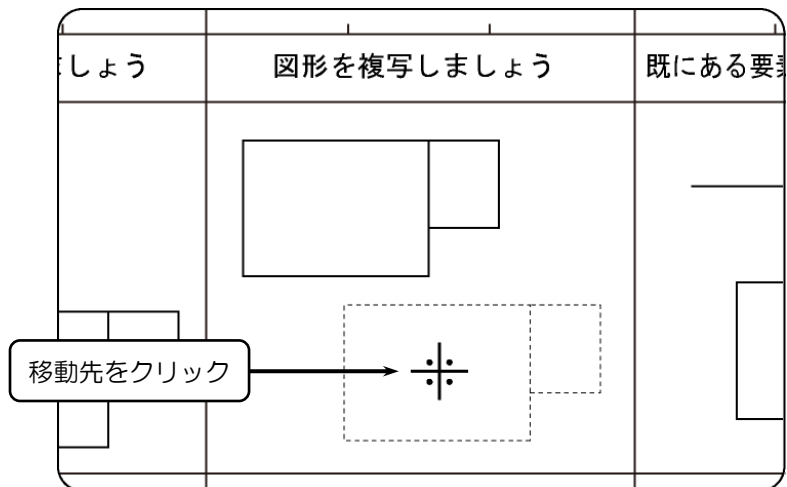
次のページへ続く

3. 「移動の基準点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
4. 移動する要素の基準点をクリックします。

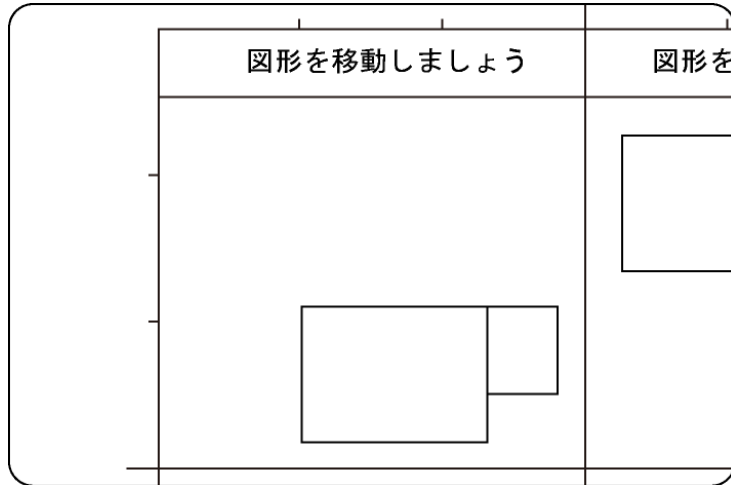


指定した要素がカーソルについて移動します。ただし、クリップ処理が有効になっている場合、カーソルと要素が離れてしまいます。その場合、〈SHIFT〉キーを押しながらマウスを動かすことで、任意の位置に移動することができます。

5. 「移動先の点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
6. 要素を移動させる点をクリックします。



7. 要素が移動されます。



移動を終了する場合、右クリックします。続けて要素を移動する場合は、移動する要素の基準点をクリックし、要素を移動させる点をクリックします。



他の要素を移動させて練習してみましょう。

3

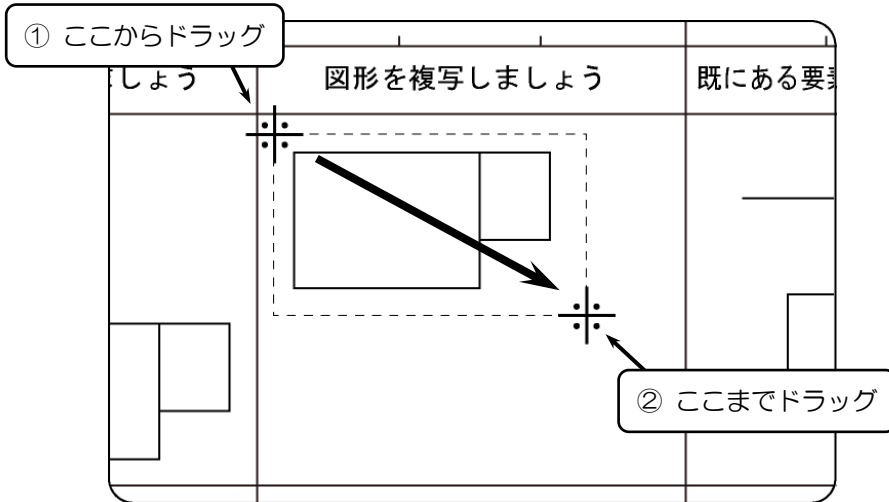
要素を複製する

描いた要素を複製する方法を覚えましょう



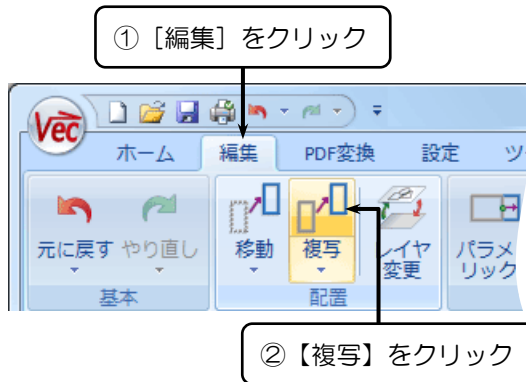
画面を移動させ、“図形を複製しましょう”
という箇所を表示させましょう。

1. 複製したい要素を選択します。

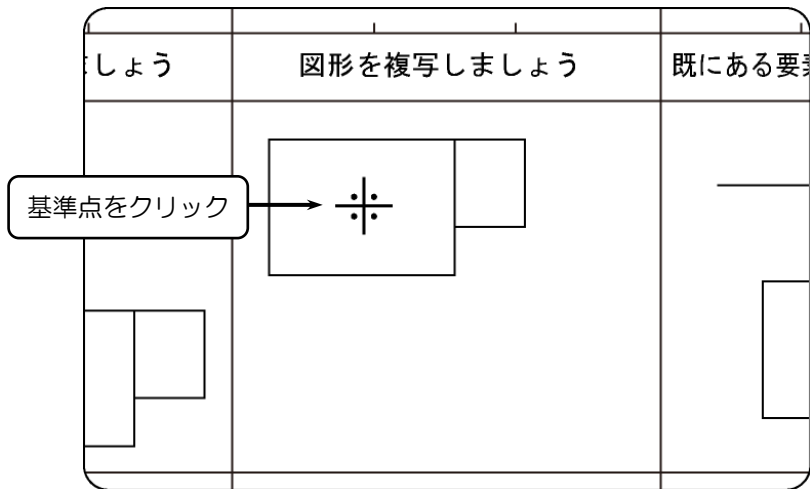


選択できると要素の色が変わりますので確認してください。

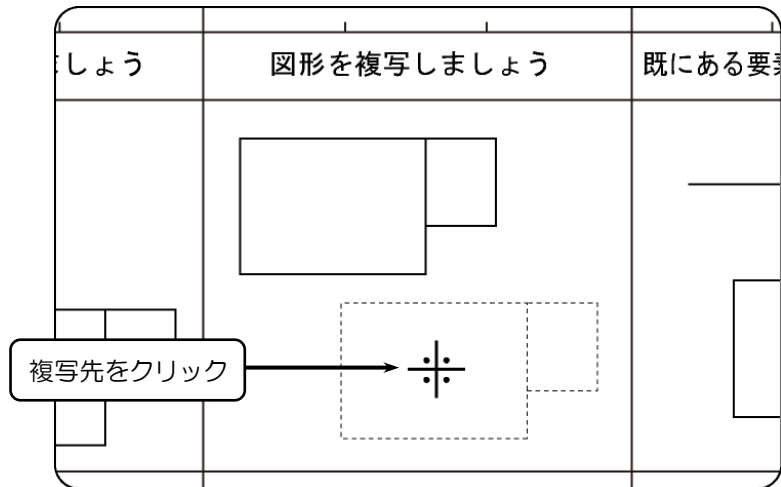
2. 【編集リボン】 → 【複製】 を選択します。



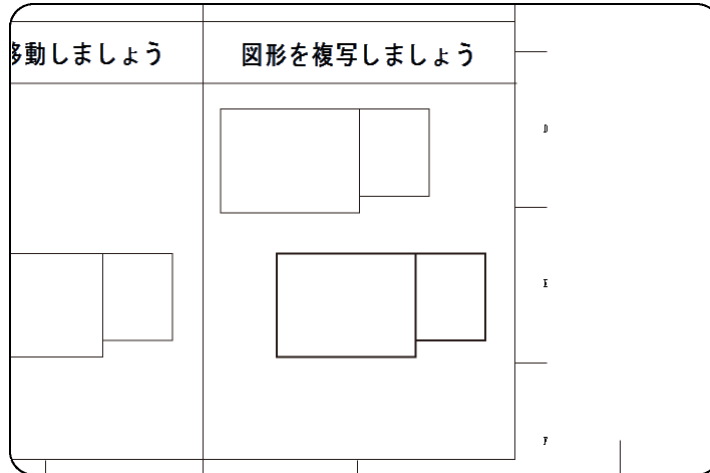
3. 「複製の基準点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
4. 複製する要素の基準点をクリックします。



5. 「複製先の点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
6. 要素を複製させる点をクリックします。



7. 要素が複写されます。



複写を終了する場合、右クリックします。



他の要素を複写させて練習してみましょう。

4

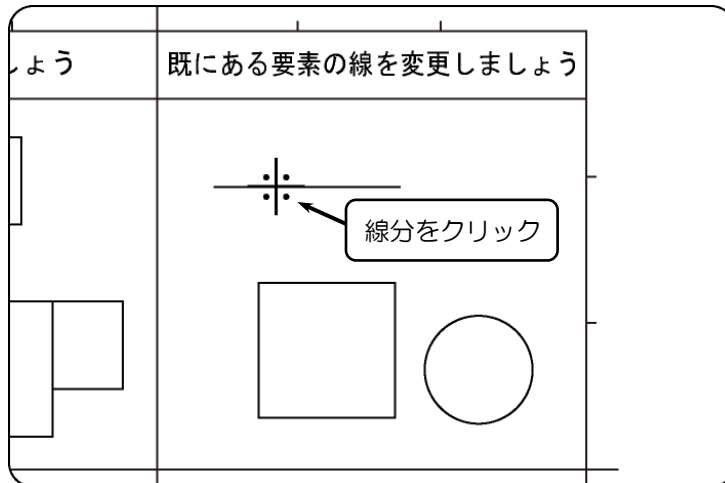
要素の線を変更する

描いた要素の線の色や種類を変更する方法を覚えましょう



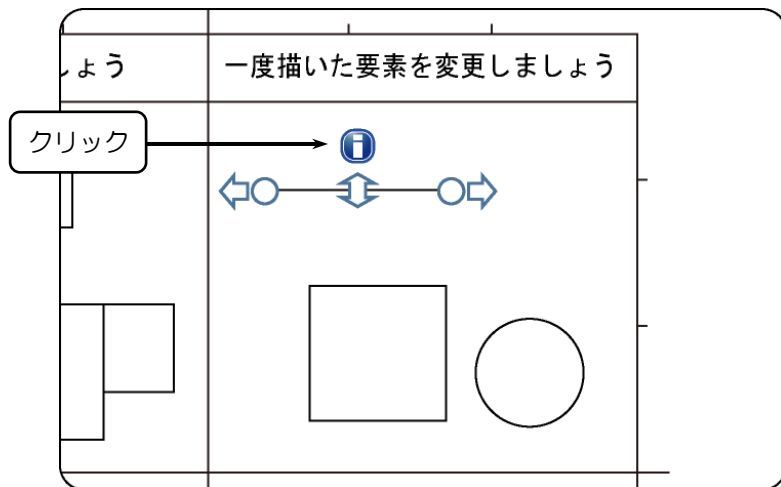
メッセージが「要素を選択してください。(E)」と表示されていることを確認してください。違うメッセージが表示されていた場合、画面を右クリックしてコマンドを終了します。画面を移動させ、「既にある要素の線を変更しましょう」という箇所を表示してみましょう。

1. 変更したい要素（線分）を選択します。

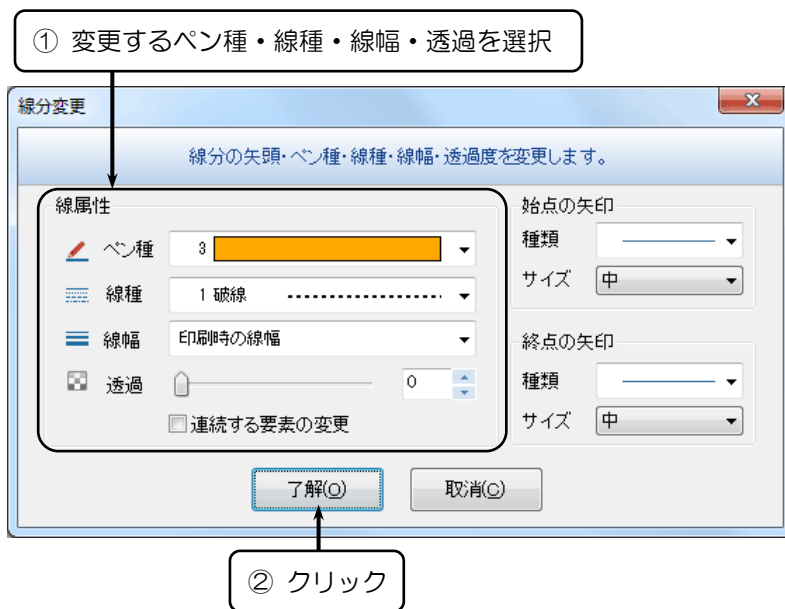


次のページへ続く

2. ハンドルポイントが表示されます。
3. (i) をクリックします。



4. 『線分変更』ダイアログボックスが表示されます。
5. 変更するペン種・線種・線幅・透過を選択し、〈了解 (O)〉をクリックします。

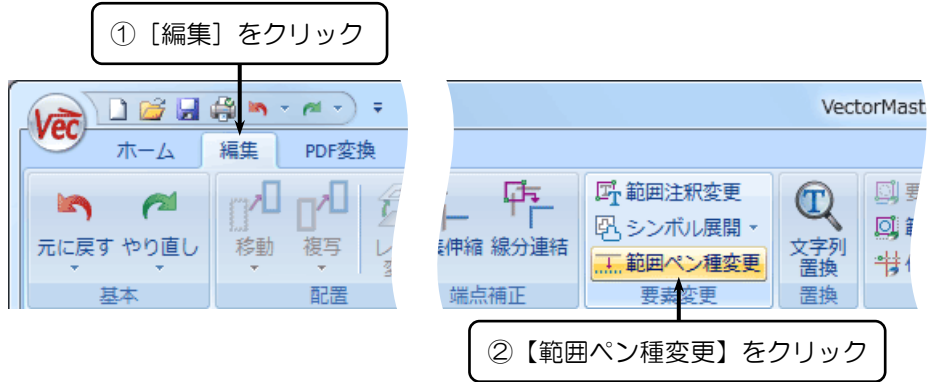


項目の右にある ▾ ボタンをクリックすると、リストからペン種・線種・線幅・透過を選択することができます。

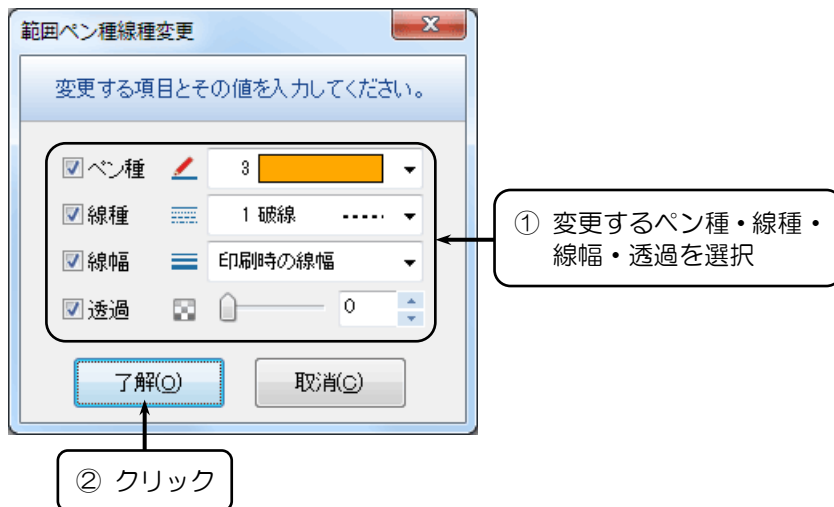
6. 指定した要素のペン種・線種・線幅・透過が変わります。

複数の要素の線を一括で変更する場合

1. 【編集リボンバー】 → 【範囲ペン種変更】 をクリックします。

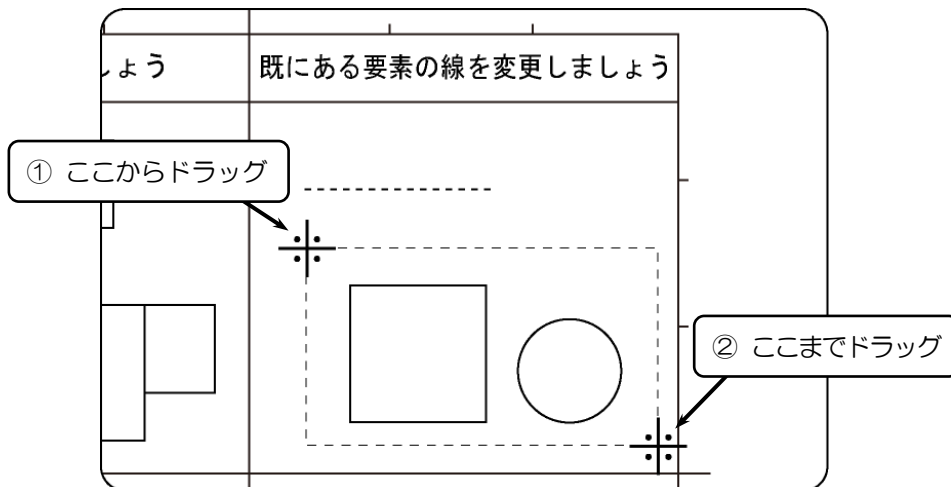


2. 『範囲ペン種線種変更』ダイアログボックスが表示されます。
3. 変更するペン種・線種・線幅・透過にチェックを入れ、リストより選択し、〈了解(O)〉をクリックします。



次のページへ続く

4. 「要素を選択してください。(E)」とメッセージが表示されます。
5. ペン種・線種・線幅・透過を変更する要素を選択します。



6. 「要素を選択してください。(E) [右ボタンで指定終了]」とメッセージが表示されます。



ペン種・線種・線幅・透過を変更したい要素を〈SHIFT〉キーを押しながらか選択することで、対象に追加することができます。また、〈CTRL〉キーを押しながらか要素を選択すると、対象から解除することができます。

7. 右ボタンをクリックします。
8. 指定した複数の要素のペン種・線種・線幅・透過が変わります。



他の線分も同様にして、ペン種・線種・線幅・透過を変更してみましょう。

5

要素の2点間を切断する

指定した要素上で2点の間を切断する方法を覚えましょう

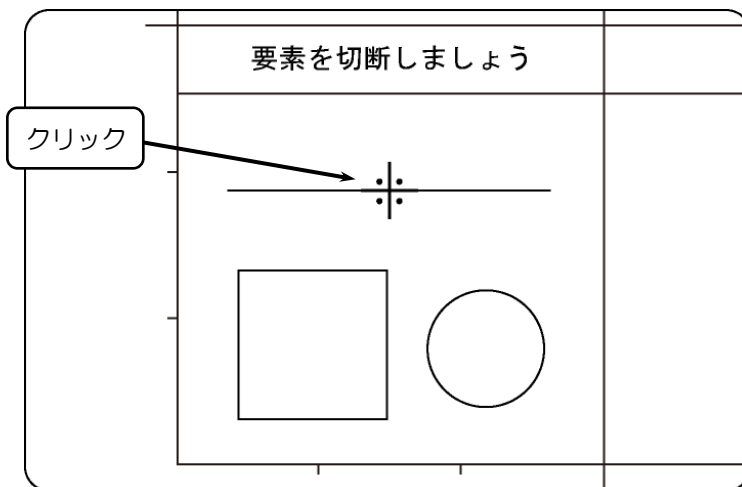


画面を移動させ、“要素を切断しましょう”
という箇所を表示してみましょう。

1. 【編集リボンバー】 → 【2点切断】 を選択します。

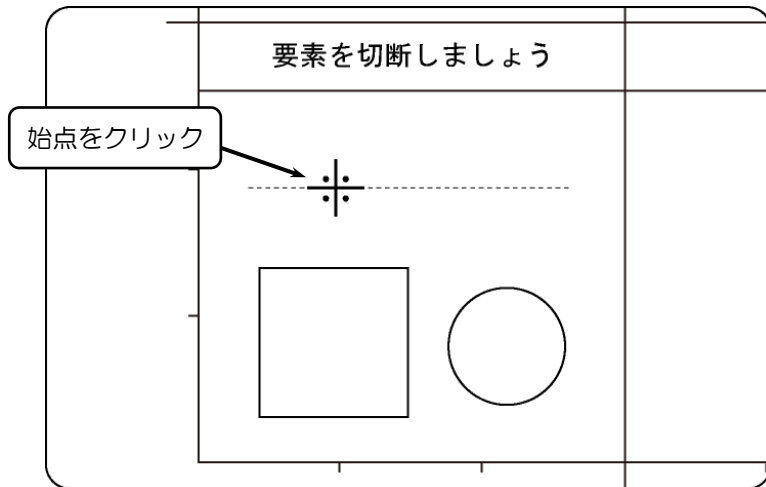


2. 「切断する要素は？ (E)」 とメッセージが表示されます。
3. 切断する要素をクリックします。



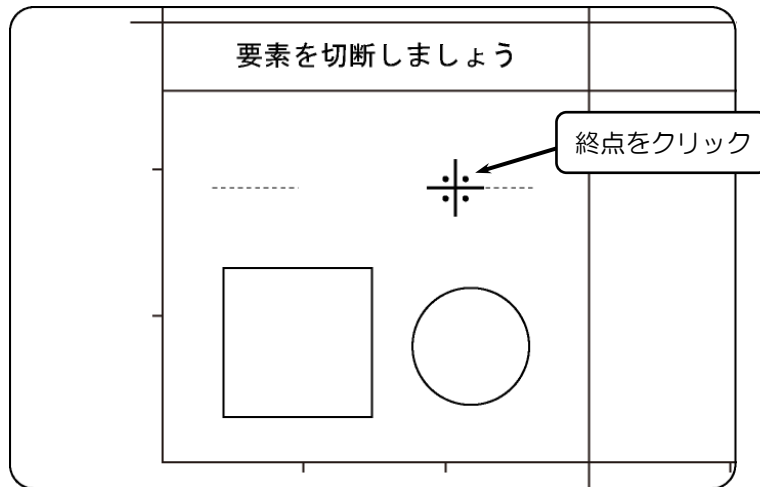
次のページへ続く

4. 「切断の始点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
5. 切断する始点をクリックします。

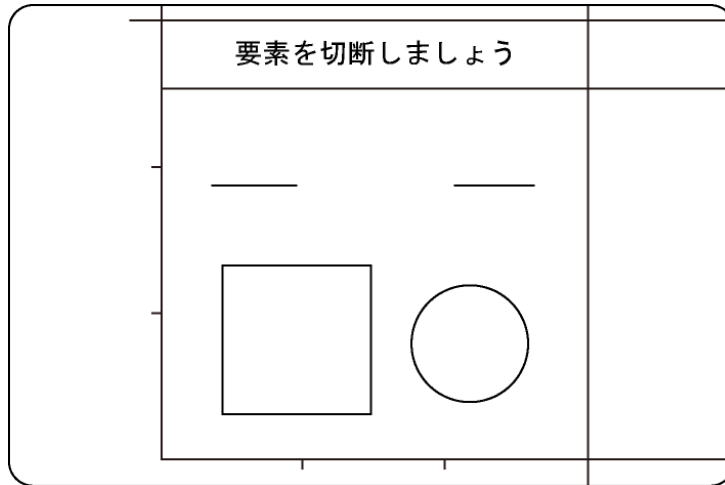


先ほど選択した切断する要素上に対し、切断することができます。

6. 「切断の終点は？ (P)」とメッセージが表示されます。
7. 切断する終点をクリックします。



8. 要素が切断されます。



切断を終了させる場合、右クリックします。



下の四角形または円も切断してみましょう


6

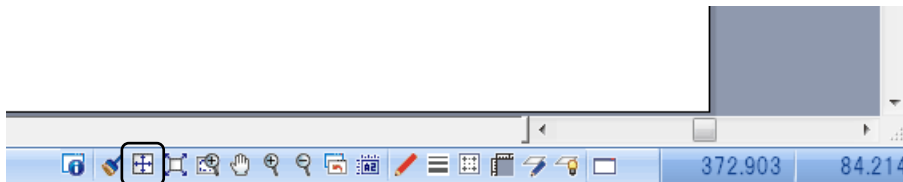
要素を消去する

描いた要素や配置した要素を消す方法を覚えましょう



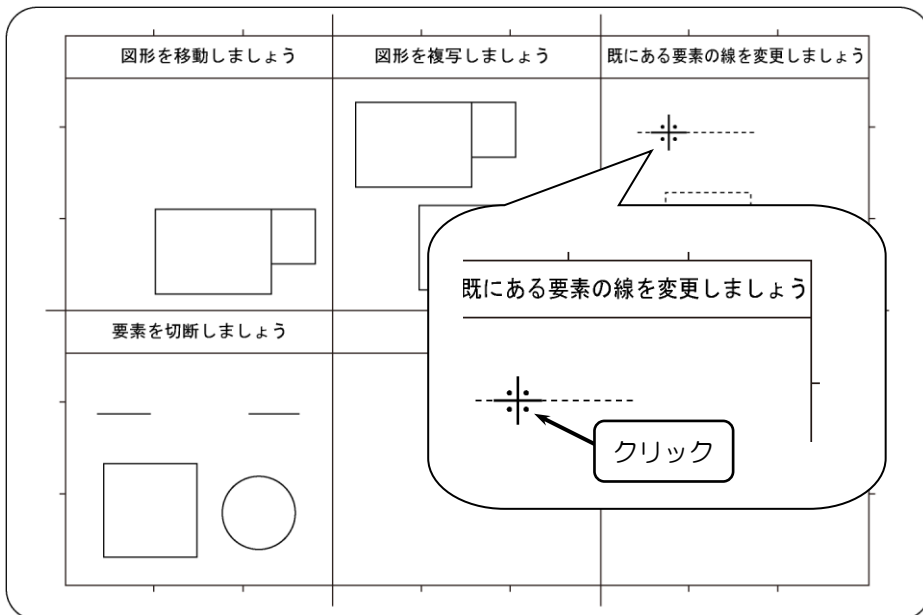
メッセージが「要素を選択してください。(E)」と表示されていることを確認してください。異なるメッセージが表示されていた場合は、画面を右クリックしてコマンドを終了します。

1. 画面下のステータスバーにある  (【用紙枠表示】アイコン) をクリックし、全体を表示します。



クリック

2. 消去する要素を選択します。



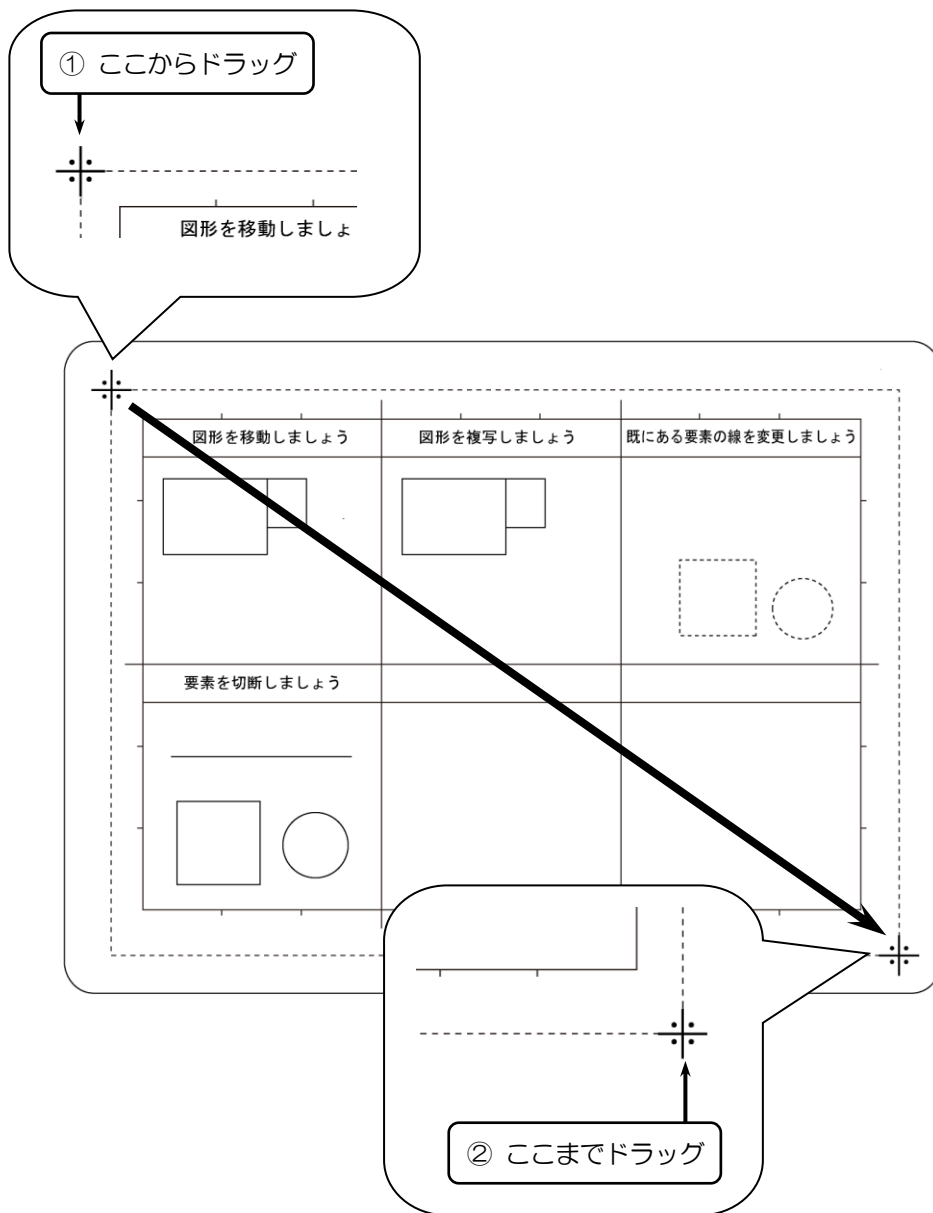
3. キーボードの  (Delete キー) を押します。
4. 選択されていた要素が消えます。



同様に文字や他の要素も消去してみましょう。

まとめて消去する

1. 画面左上からドラッグを始め、画面右下（すべてを囲む位置）でボタンを離します。



2. 囲まれた要素すべてが選択されます。
3. キーボードの  (Delete キー) を押します。
4. 選択されていた要素がすべて消えます。

7

PDF の用紙の向きを変更する

読込んだ PDF の用紙の向きを変更させる方法を覚えましょう

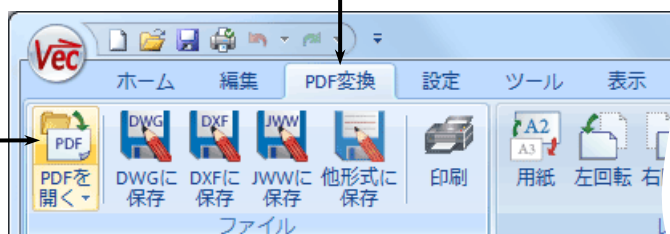


読込んだ PDF の用紙を左右に回転してみましょう。

PDF を開く

1. 【PDF 変換リボンバー】 → 【PDF を開く】 を選択します。

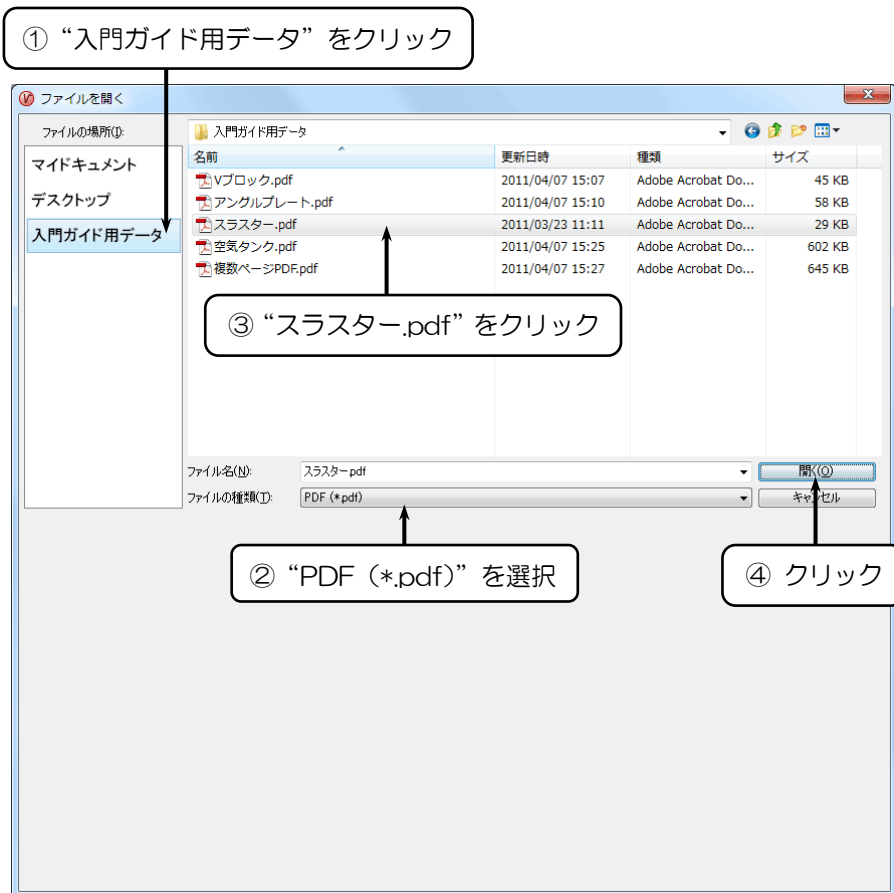
① 【PDF 変換】 をクリック



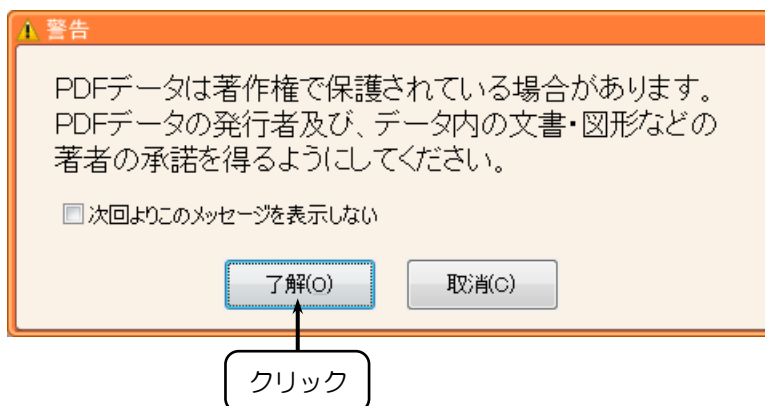
② 【PDF を開く】 をクリック

次のページへ続く

- 『ファイルを開く』ダイアログボックスが表示されます。
- “スラスタ-.pdf” 選択し、〈開く (O)〉をクリックします。



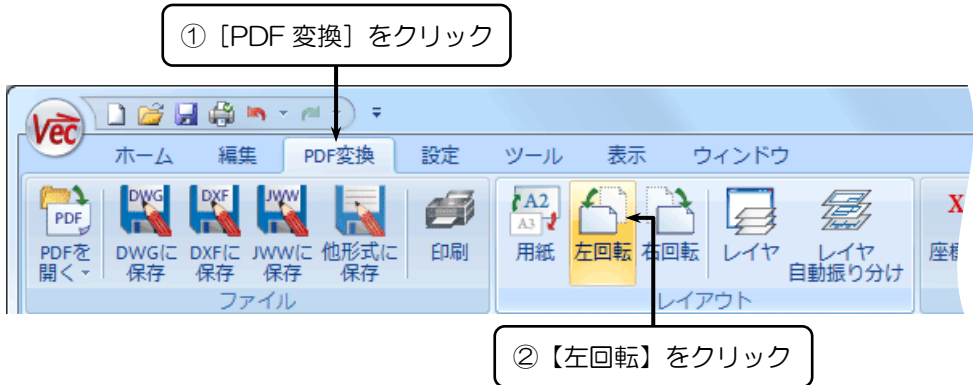
- 『警告』ダイアログボックスが表示されます。
- 〈了解 (O)〉をクリックします。



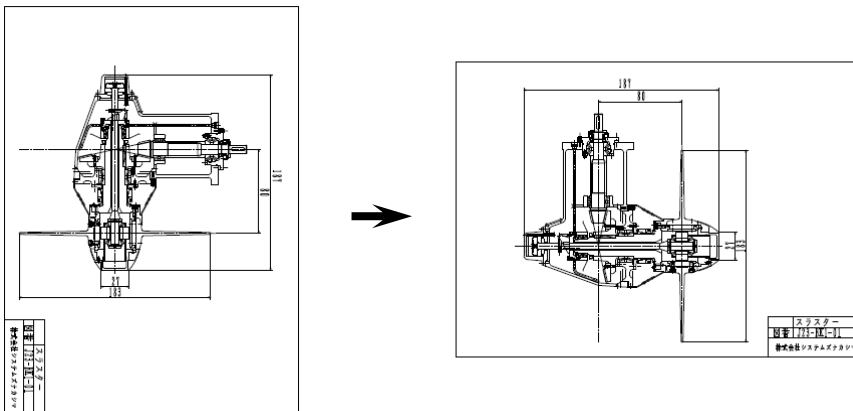
- PDF が開きます。

読込んだ PDF の用紙の向きを左に回転する

1. 【PDF 変換リボンバー】 → 【左回転】 を選択します。



2. PDF の用紙が左に 90°回転します。



読込んだPDFの用紙の向きを右に回転させる場合、【PDF 変換リボンバー】 → 【右回転】 を選択します。
 回転する対象となる要素は表示されているレイヤの要素のみです。
 選択されているレイヤシート用の用紙設定を基準に 90° 回転します。

株式会社 システムズナカシマ

東 京 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-8 ユニゾ岩本町二丁目ビル 2 階
TEL : (03) 5821-9761 FAX : (03) 5821-9762

岡 山 〒700-0982 岡山県岡山市北区中島田町 2-3-19
TEL : (086) 234-8111 FAX : (086) 234-8355

大 阪 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 6 丁目 11-25 第 10 新大阪ビル 701 号
TEL : (06) 6390-1500 FAX : (06) 6390-1600

名古屋 〒468-0015 愛知県名古屋市天白区原 2-3207 原 IT ビル 3 階
TEL : (052) 800-5911 FAX : (052) 800-5912

仙 台 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 1-2-20 KDX 仙台ビル 8 階
TEL : (022) 713-7088 FAX : (022) 713-7090

福 岡 〒812-0897 福岡県福岡市博多区半道橋 1-16-14
TEL : (092) 481-9038 FAX : (092) 473-8746

本 社 〒709-0625 岡山県岡山市東区上道北方 688-1

Vector Master Ver3.0 入門ガイド

編集・発行：

 株式会社 **システムズナカシマ**

〒709-0625

岡山県岡山市東区上道北方 688-1

<http://www.systems.nakashima.co.jp/>

2015.02